

# SBIホールディングス株式会社 インフォメーション ミーティング

2009年5月18日(月) 大阪

5月19日(火) 東京

5月25日(月) 名古屋

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

# Key Questions

- ① 前期の純利益が赤字となった要因は？
- ② 財務状況は大丈夫でしょうか？
- ③ 今期の業績も厳しいのでしょうか？
- ④ ネット保険事業の進捗状況は？
- ⑤ 中核子会社SBI証券はどのような状況でしょうか？
- ⑥ SBIグループに多くの会社がありますが、相乗効果はあるのでしょうか？
- ⑦ 海外関連事業はどのような状況でしょうか？
- ⑧ 株価についてはどう考えていますか？
- ⑨ 配当についてはどう考えていますか？

① 前期の純利益が赤字となった要因は？

(1) 極めて厳しかった2009年3月期の事業環境

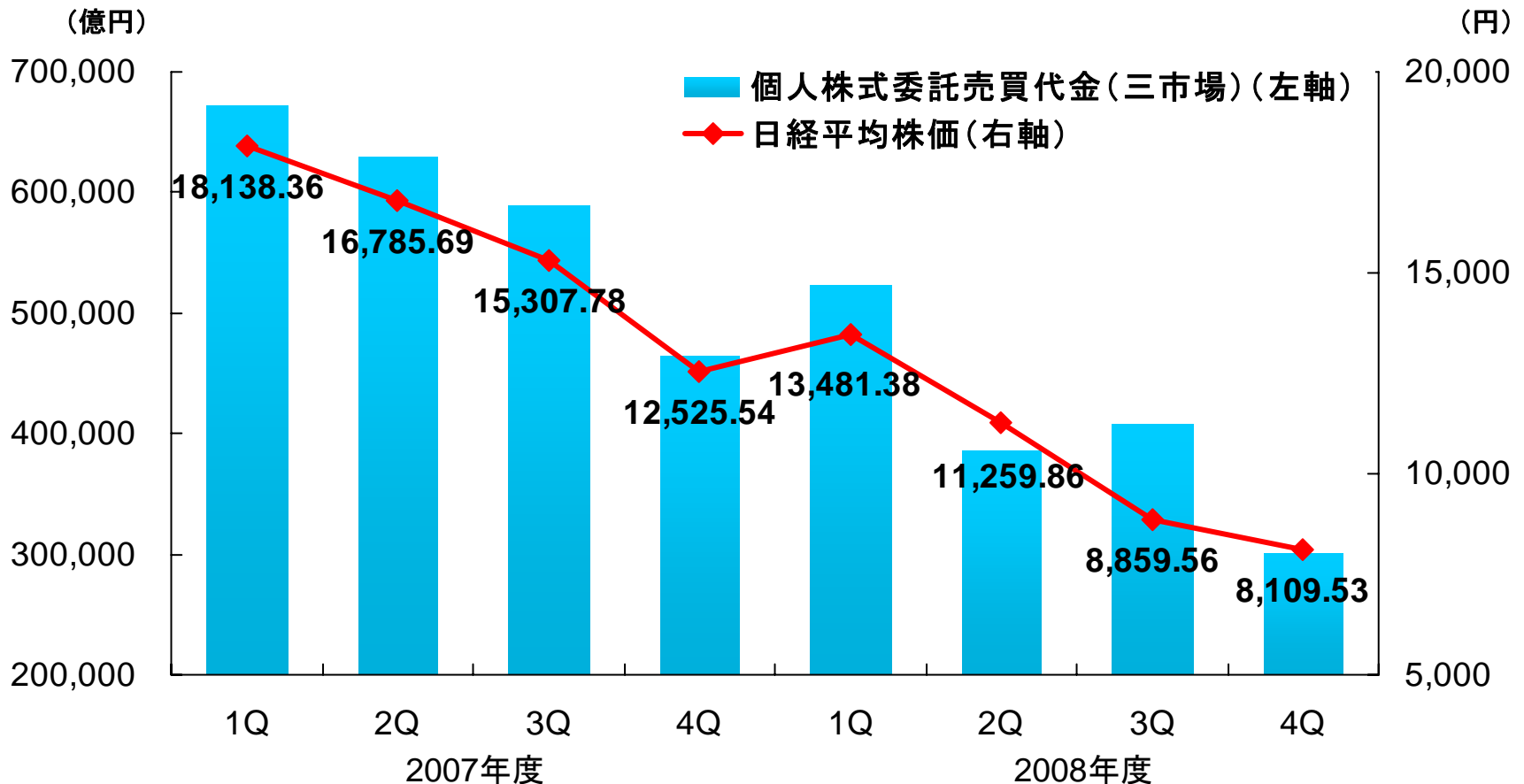
連結業績に大きな影響を与えた国内株式市場の大幅下落

(2009年3月期の株式市場)

年度末日経平均株価: 8,109円53銭 (前期末比▲35.3%、前四半期末比▲8.5%)

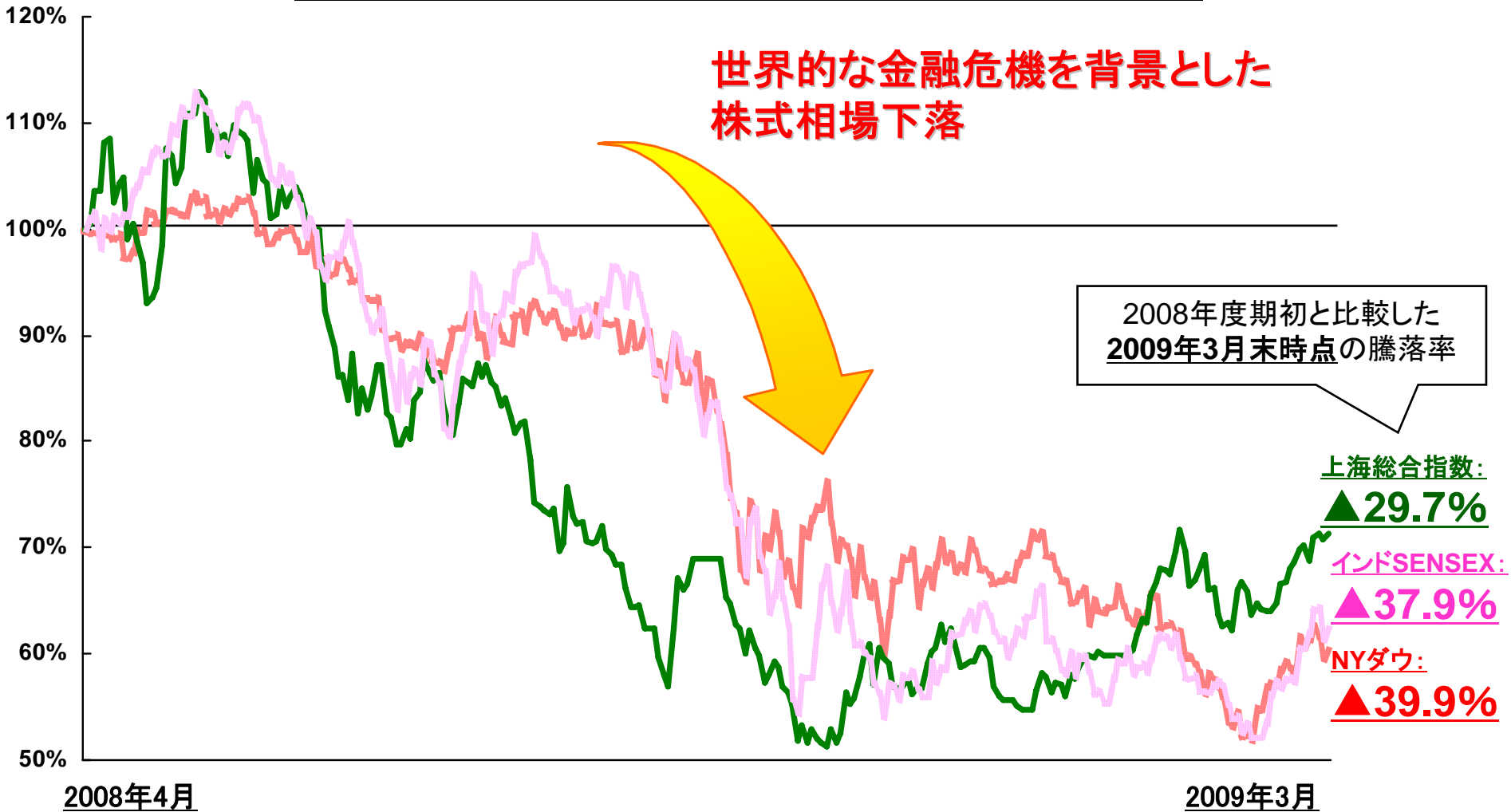
年度累計個人株式委託売買代金: 161兆6700億円 (前期比▲31.4%)

期末日経平均株価と個人株式委託売買代金の四半期推移



# 世界の株式市場も大きく下落

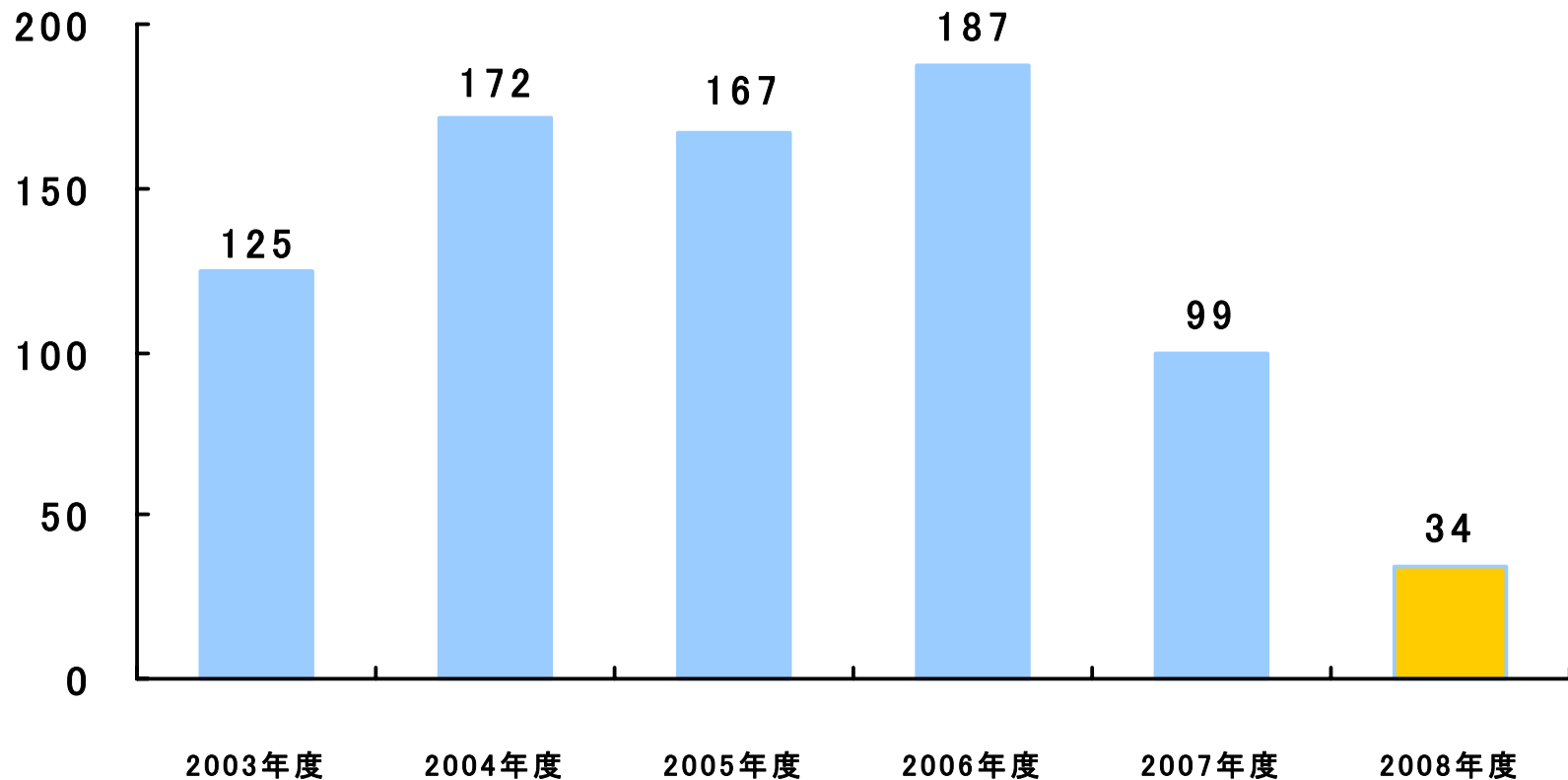
## 2009年3月期の世界主要株式市場の推移



# 国内の新規上場会社数の推移

2008年度の上場会社数は2007年度をさらに大きく下回る34社で着地。

(単位:社)

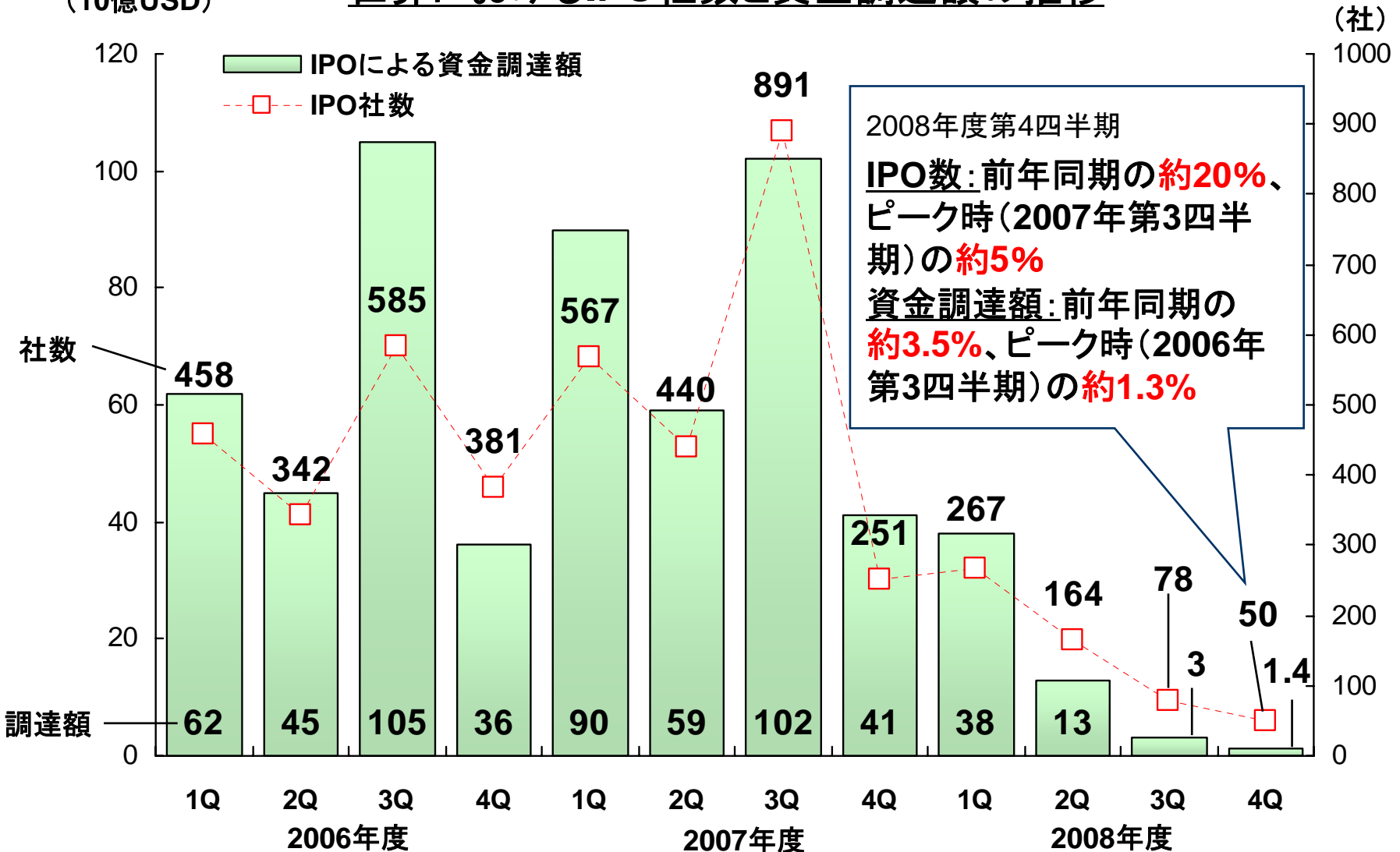


出所:各取引所

# IPOは世界でも激減

## 世界におけるIPO社数と資金調達額の推移

(10億USD)



2008年度第4四半期  
**IPO数**: 前年同期の約**20%**、  
 ピーク時(2007年第3四半期)の約**5%**  
**資金調達額**: 前年同期の約**3.5%**、  
 ピーク時(2006年第3四半期)の約**1.3%**



# 2009年3月期 連結決算業績

(単位:百万円)

	2008年3月期 連結決算	2009年3月期 連結決算	前期比 増減率(%)
売上高	222,567	130,922	▲41.2
営業利益	42,606	4,403	▲89.7
経常利益	35,687	37	▲99.9
税引前利益	28,819	▲16,132	—
当期純利益	4,228	▲18,375	—

# 2009年3月期 連結業績のポイント

## 主要事業部門で営業黒字を確保

最悪の事業環境の中、アセットマネジメント事業、証券関連事業、ファイナンシャル・サービス事業、住宅不動産事業はいずれも営業黒字を確保

## 新規事業の一部は早くも収益に貢献

2008年11月に営業開始したSBIリクイディティ・マーケットは、2009年3月期の連結営業利益に約26億円の貢献。  
住信SBIネット銀行は、2009年1月に初の単月黒字を達成。  
四半期ベースでも2009年3月期第4四半期(2009年1-3月)に初の黒字化を達成。






## 株式市況等の悪化による評価損等の計上により当期純損失となる

営業投資有価証券評価損等として営業費用に34億円を計上。  
あわせて、投資有価証券評価損等として特別損失に113億円を計上したことが、2009年3月期営業利益ならびに当期純利益悪化の大きな要因。

# セグメント別 営業利益の四半期推移

～第3四半期で底を打って第4四半期は上向き～

(単位:百万円)

	2009年3月期				
	第1四半期 (2008年4～6月)	第2四半期 (2008年7～9月)	第3四半期 (2008年10～12月)	第4四半期 (2009年1～3月)	当期累計 (2008年4～ 2009年3月)
アセットマネジメント	331	2,193	※1 ▲517	 586	2,594
ブローカレッジ & インベストメントバンキング	3,389	※2 1,265	※2 233	※2  826	5,714
ファイナンシャル・サービス	372	382	358	 377	1,491
住宅不動産関連	850	498	103	※3  ▲529	923
システムソリューション	▲104	▲137	98	 ▲160	▲303

※1 SBIキャピタル運営のSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有するVSN株式評価損14億円など、営業投資有価証券 評価損23億円を計上

※2 SBI証券の完全子会社化に伴い新たに発生したのれんの償却が含まれます。(2Q:698百万円、3Q:1,048百万円、4Q:1,048百万円)

※3 連結子会社のセムコーポレーション(SBIホールディングスに加えSBIキャピタル運営のSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有)において 販売用不動産評価損245百万円、貸倒引当金繰入457百万円を計上。

有価証券評価損による営業費用＋特別損失合計: **10,249百万円**

● 営業投資有価証券 評価損 (単位:百万円) … **営業費用として計上**

(株)VSN	1,505	SBIキャピタルが運営するSBI Value Up Fund 1号を通じて24.89%を保有
その他	1,197	フレッグインターナショナル社(民事再生法申請) 359百万円 等
合計	2,702	

● 投資有価証券 評価損 (単位:百万円) … **特別損失として計上**

住友信託銀行(株)	6,773	共同で住信SBIネット銀行を運営する同社と、株式を相互保有
その他	773	SBIバイオテックの提携先ODC Therapy社 358百万円(知財獲得のために取得した株式の評価損) 等
合計	7,547	

セムコーポレーション社

販売用不動産評価損及び貸倒引当金繰入(営業費用): **702百万円**

ブロードメディア社 持分法投資損失(特別損失): **1,353百万円**

ゼファー社向け貸付金112億円に対応する不動産担保評価損

(貸倒引当金、特別損失): **2,464百万円**

# 主要ベンチャーキャピタルとの比較(1)

## 主要VC各社と当社アセットマネジメント事業の2009年3月期業績

(単位: 億円、%)

	売上高	前年同期比 増減率	営業利益	前年同期比 増減率
SBI アセットマネジメント事業	160	▲72.5	26	▲84.3
JAFCO (※自己持ち分方式)	214	▲46.8	▲94	- (注2)
大和SMBCキャピタル	119	▲40.0	▲109	- (注3)
日本アジア投資	95	▲55.9	▲314	- (注4)

(データ出所: 各社開示資料より当社にて集計)

(注1) JAFCOは自己持ち分方式で開示、他3社は決算に採用しているファンド連結後の数値

(注2) 前年同期の営業利益は109億円となっております。

(注3) 前年同期の営業利益は▲137億円となっております。

(注4) 前年同期の営業利益は▲52億円となっております。

(注5) 億円未満を四捨五入して表示しております。

記事

## ■日本アジア投資:

「～有利子負債の返済期限を延長するため、約60の取引金融機関と私的整理手続きの調整に入ったと発表した。投資環境の悪化で資金繰りが厳しくなっており、当面の返済負担を軽減し～」

## ■大和SMBCキャピタル:

「～大和証券グループ本社は～ベンチャーキャピタル子会社である大和SMBCキャピタルに対し、TOB(株式公開買い付け)を実施すると発表した。業績が低迷する大和キャピタルを非公開化して経営改革を進める～」

記事

# 主要ベンチャーキャピタルとの比較(2)

～株式市場の低迷を投資の好機として、積極的に投資を実行～ (単位:百万円)  
(投資会社数)

	投資実行額		
	当4Q (1月～3月)	当通期累計 (4月～3月)	(参考) 前通期累計
<b>SBI アセットマネジメント事業</b>	23,069 (37社)	95,179 (118社)	101,041 (208社)
<b>JAFCO</b>	4,409 (24社)	32,546 (106社)	39,094 (168社)
<b>日本アジア投資</b>	1,328 (26社)	15,046 (132社)	23,950 (219社)
<b>大和SMBCキャピタル</b>	1,859 (10社)	11,543 (63社)	15,420 (138社)

(データ出所:各社開示資料より当社にて集計)

(注) 投資実行額は、各社および各社グループが運営する投資事業組合等の投資実行額の合計であります。

また、投資社数については1社に対し、各第1、第2、第3、第4四半期において複数回投資実行した場合は、累計において1社とカウントし重複を削除しています。

# SBI証券の証券業界におけるポジショニング

## (2009年3月期連結業績)



### 口座数ランキング

単位:口座

### 営業収益ランキング

単位:百万円

### 当期利益ランキング

単位:百万円

1	野村 ※1	4,467,000
2	大和	3,244,000
3	日興 ※2	2,461,000
4	<b>SBI</b>	<b>1,866,508</b>
5	新光	1,067,000
6	マネックス	906,699
7	楽天	835,922
8	松井	783,879
9	カブドットコム	665,922
10	岡三	456,775

1	野村 ※3	664,511
2	三菱UFJ	465,850
3	大和	413,936
4	みずほ	304,252
5	日興 ※2	242,184
6	新光	107,080
7	岡三	55,554
8	<b>SBI</b>	<b>47,543</b>
9	東海東京	43,627
10	SMBCフレンド	43,225
11	みずほインベ	37,703
12	松井	26,724
13	マネックス	24,812
14	楽天	23,289
15	カブドットコム ※4	16,743
16	いちよし	14,256
17	コスモ	15,618
18	東洋	11,695

1	<b>SBI</b>	<b>10,148</b>
2	松井	6,921
3	カブドットコム ※4	3,643
4	東海東京	2,482
5	SMBCフレンド	1,559
6	岡三	▲1,880
7	マネックス	▲2,144
8	東洋	▲3,022
9	楽天	▲3,681
10	いちよし	▲4,804
11	コスモ	▲10,577
12	新光	▲13,468
13	日興 ※2	▲14,602
14	みずほインベ	▲25,004
15	みずほ	▲34,497
16	三菱UFJ	▲45,417
17	大和	▲85,039
18	野村 ※3	▲709,436

(出所:主要証券各社開示資料より当社にて把握しうる限りの情報を基に作成)

※ 三菱UFJは2007年6月まで開示  
参考:120.7万口座(2007年6月末時点)

※1 残有口座数

※2 日興は日興コーディアル証券と日興シティ証券の合算ベース。  
口座数は日興コーディアル証券のみ。

※3 野村は米国会計基準。営業収益は収益合計、営業利益には税引き前利益を使用

※4 単独

(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)  
(連結、十万円以下は切り捨て)

(出所:主要証券各社開示資料より当社集計)  
(連結、十万円以下は切り捨て)



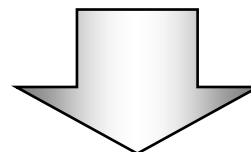
② 財務状況は大丈夫でしょうか？

# SBIホールディングスの財務安定性

## SBIホールディングスの連結財務指標 (%)

	2008年3月期	2008年9月期	2009年3月期
流動比率 ※1	144.4	135.9	136.6
有利子負債比率 ※2	101.0	70.1	37.1
自己資本比率 ※3	19.8	30.0	32.8

証券会社特有の資産・負債勘定の影響を考慮した実質的な数値



2008年9月期に比べ、重要指標は全て改善

	2008年3月期	2008年9月期	2009年3月期
流動比率 ※1	201.3	173.3	204.0
有利子負債比率 ※2	101.0	70.1	37.1
自己資本比率 ※3	30.0	43.3	52.4

※1 流動資産÷流動負債で算出しており、150%以上※4が望ましいとされています。

※2 有利子負債÷自己資本(株主資本+評価換算差額)で算出しており、100%以下※5が望ましいとされています。  
なお有利子負債には証券事業に係る信用取引負債等は含んでおりません。

※3 自己資本(株主資本+評価換算差額)÷総資産で算出しており、30~50%※4が望ましいとされています。

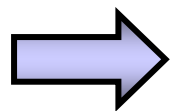
※4 『会社「経理・財務」入門』(金児昭著、日本経済新聞出版社)における基準

※5 『財務会計』(斎藤静樹編著、有斐閣)における基準

# 社債の償還について

## 前期及び直近に償還を迎えた社債

	金額(億円)	償還日
SBIホールディングス 無担保普通社債	500.0	2008年9月29日
SBIホールディングス 2008年満期 円建転換社債型新株予約権付社債	59.4	2008年11月25日
SBI証券 無担保普通社債	500.0	2009年3月10日
SBIホールディングス 2009年満期 円建転換社債型新株予約権付社債	114.8 ※	2009年4月8日



計1,174.2億円：償還時に一時的に利用した銀行融資を含め、自己資金にて全額償還(返済)済み

※ 2009年3月における  
計12.9億円の買入  
消却実施後の残高

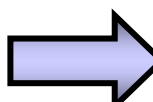
## 今後償還を迎える社債

	金額(億円)	償還日
SBIホールディングス 無担保普通社債	300.0	2009年9月25日

2009年3月末現預金残高(連結ベース)： 1,271億円

# ユーロ・ミディアム・ターム・ノート(ユーロMTN) プログラムによる資金調達

2009年3月19日：ユーロMTNプログラムの設定完了

- 
- 発行限度額(500億円)内で個別債券を随時発行可能
  - 機動的な債券発行により安定資金を確保

2009年4月～(順次)：

本プログラムに基づき、個人投資家ならびに機関投資家を対象に、SBIホールディングス 円建社債(愛称：SBI債)の発行を開始

**既に計4回発行し、190億円を調達済み。**

**いずれの債券も、募集開始から1週間を経たずに完売**

5月20日より、新たに『第5回SBI債』(総額100億円)の売出を開始  
(利率：年1.84%、満期：1年)

**今後も資金需要等を勘案し、随時発行**

### ③ 今期の業績も厳しいのでしょうか？

- (1) 経営の一層の効率化を目指した組織再編成
- (2) 薄日がさし始めた今期の経営環境見通し
- (3) 業績改善に大きく貢献する可能性のある新規事業

# (1) 経営の一層の効率化を目指した 組織再編成

# 経営の一層の効率化を目指したSBIグループ内の 組織再編成の継続(1)



## 完全子会社化

**SBIフューチャーズ** (2009年3月期営業利益: ▲4.5億円)

国内商品先物市場の市場規模縮小等、事業環境が著しく悪化している為、  
商品取引受託業務を廃止し、株式交換による完全子会社化を実施

### 株式交換の概要

- ・ 株式交換の日程(予定)

4月27日	株式交換契約締結
7月27日	SBIフューチャーズ株式 最終売買日
7月28日	SBIフューチャーズ 上場廃止日
8月1日	株式交換 効力発生日

- ・ 株式割当比率

SBIフューチャーズ普通株式1株につき、SBIホールディングス普通株式3株

- ・ 株式交換により充当するSBIホールディングス自己株式数

普通株式23,040株(新株発行は行わない)

# 経営の一層の効率化を目指したSBIグループ内の 組織再編成の継続(2)



## 売却

**SBIカードプロセッシング** (2009年3月期営業利益: ▲6.1億円)

ノン・コア事業であることからカード事業と切り離し、  
システムベンダーへの売却に向けて交渉中

## より成長できる環境への事業移管

**SBIイコール・クレジット** (2009年3月期営業利益: 2.3億円)

4月21日に全ての貸付業務を停止し、住信SBIネット銀行の  
個人ローン「ネットローン」への保証業務に注力。

**SBIホールディングス** **生活関連ネットワーク事業本部**

(2009年3月期営業利益: 4.5億円)

関連する事業をグループ企業の1社に集約することで、更なる成長と  
事業効率の向上を図るべく、事業移管の予定



# 経営の一層の効率化を目指したSBIグループ内の 組織再編成の継続(3)



## 事業効率を高めるための統合

**SBIカード** (2009年3月期営業利益: ▲5.0億円)

関連する事業を一体的に運営することで事業効率を高めることを目指し、SBIイコール・クレジットとの統合を予定

## SBIマネープラザ展開による多角化

**SBIモーゲージ** (2009年3月期 売上高:52億円 営業利益:11.3億円)

SBI住宅ローンショップの周辺に、住宅ローンだけでなくグループ内外の様々な金融商品を取り扱うSBIマネープラザを主としてフランチャイズで展開。

## より効率的な事業構成への変更

**イー・ゴルフ** (2009年3月期営業利益: ▲0.3億円)

オンラインのゴルフ場予約サービスによる、ゴルフ場への送客事業は、不採算な全国展開サービスを停止し、顧客ロイヤルティの高い中部・関西圏への送客に特化。

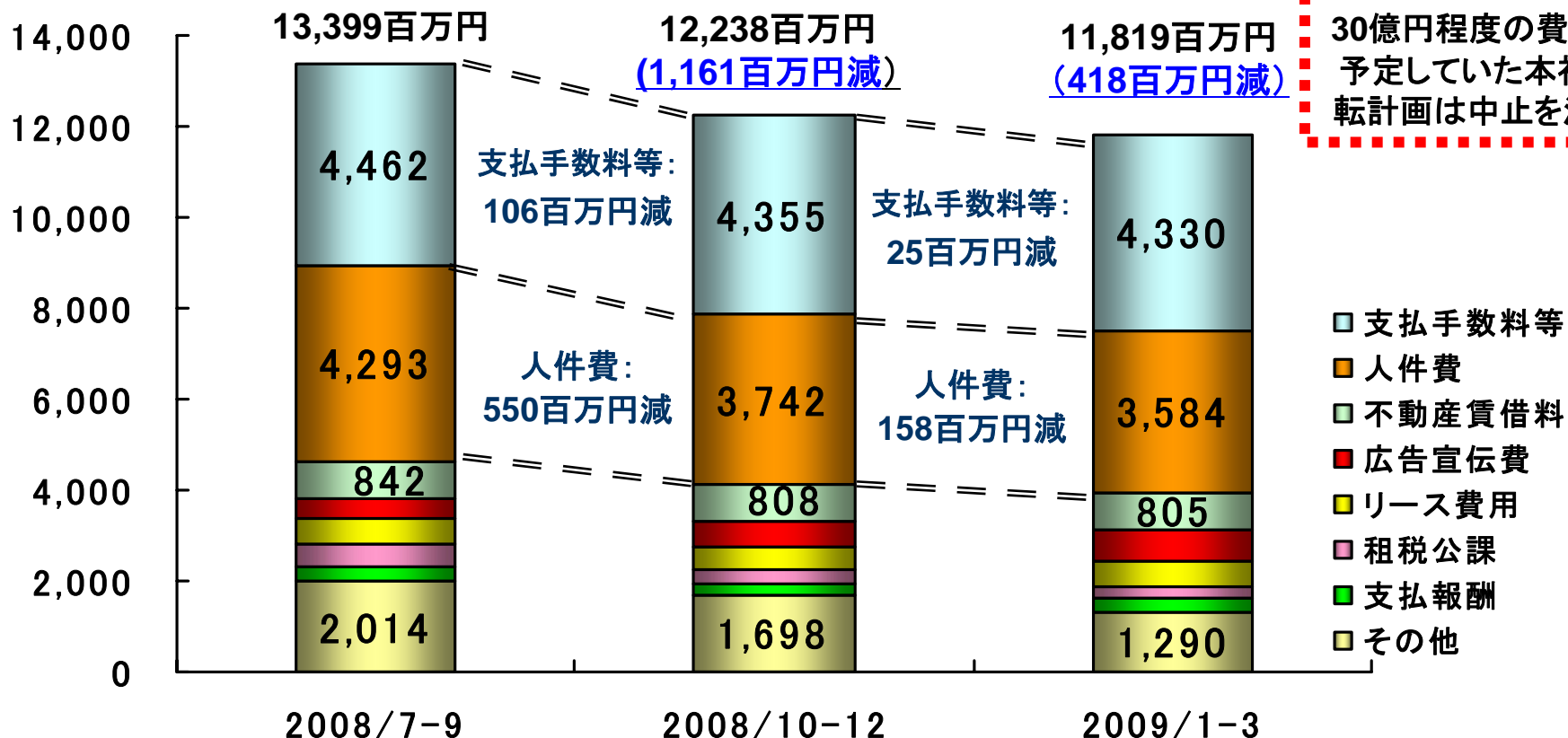
# 販管費及び一般管理費の削減

08年10月より各社で経費削減担当者を設置し経費削減を強化

3Qから4Qは、のれん償却等は増加したが、現金支出を伴う費用は引き続き減少

(百万円)

販管費及び一般管理費(償却費及び引当金繰入を除く)



30億円程度の費用を予定していた本社移転計画は中止を決定

- 支払手数料等
- 人件費
- 不動産賃借料
- 広告宣伝費
- リース費用
- 租税公課
- 支払報酬
- その他

償却費及び引当金繰入

3,089百万円      3,045百万円(44百万円減)      3,864百万円(818百万円増)

のれん償却  
固定資産償却費  
貸倒引当金繰入

4Qの増加は、3Qに負ののれん償却160百万円を(マイナス)計上したことの反動および、4Qでセムコーポレーションにて457百万円の貸倒引当金繰入計上したこと等が主な要因

販管費及び一般管理費

2Q計: 16,489百万円      3Q計: 15,283百万円      4Q計: 15,684百万円

※括弧内は直前四半期比

## (2) 薄日がさし始めた今期の経営環境見通し

# 市場見通しと関連セグメントの事業方針概略

## SBIグループの前提とする市場見通し

### 国内株式市場

米国の住宅不動産市場は若干反転の兆しが見え始めているので、米国実体経済の回復も当初想定していた「2010年半ば頃」よりも若干早まる可能性があると思われる。そのため、米国株式市場に対するこれまでの「2009年秋～年末」にかけて実体経済に先行して回復し始める可能性が高いという見込みも、早まる可能性が出てきた。米国株式市場に連動性の高い日本の株式市場も同様の動きをすると予測。

### 海外株式市場

主要新興国の中では、中国・ロシア・ベトナムの回復が早く、続いてインドも回復していくと思われる。

### 為替

日本は想定以上に内需の落ち込みが大きく、それを受けて経済成長率も想定以上に落ち込んだ。また、政局への不信心などから円が売られ、1ドル=100円台に入る円安局面も見られた。当面は95～105円のレンジが続くと予測。

### 国内不動産市場

株式市場の反転後、約1年程で反転が見込まれる。

## 関連セグメントの主な事業方針

### アセットマネジメント事業:

- ・海外ファンドの新規設立は、現在準備が最終段階の2つが完了すれば、海外への布石は当面終了し、残るはブラジルのみ
- ・設立済みで投資待機中のファンドからの投資は、且つ各国株式市場の本格回復前のタイミングで速やかに実行

### 証券関連事業:

- ・株式市場回復時の収益最大化を目指した取引シェアの更なる向上
- ・FX取引等による収益の多様化

### 住宅不動産事業:

- ・売却の推進と新規投資の抑制

# 既に見えつつある明るい兆し(1)

## 世界の主要株式市場は最安値圏からは脱しつつある

世界主要株式指数のリーマン・ショック(9月15日)後最安値と直近値の比較

	<b>日経平均</b> (日本)	<b>NYダウ</b> (アメリカ)	<b>上海総合 指数</b> (中国)	<b>RTS</b> (ロシア)	<b>SENSEX</b> (インド)	<b>HO CHI MINH</b> (ベトナム)
<b>最安値</b> <sup>※</sup>	<b>7054.98</b> (09/03/10)	<b>6547.05</b> (09/03/09)	<b>1706.703</b> (08/11/04)	<b>498.20</b> (09/01/23)	<b>8160.40</b> (09/03/09)	<b>235.50</b> (09/02/24)
<b>直近値</b>	<b>9451.98</b> (09/05/11)	<b>8418.77</b> (09/05/11)	<b>2579.747</b> (09/05/11)	<b>938.27</b> (09/05/08)	<b>11682.99</b> (09/05/11)	<b>372.95</b> (09/05/11)
<b>上昇幅(%)</b>	<b>34.0</b>	<b>28.6</b>	<b>51.2</b>	<b>88.3</b>	<b>43.2</b>	<b>58.4</b>

※ リーマン・ショック(9月15日)以降に記録した最安値。

# 既に見えつつある明るい兆し(2)

## アセットマネジメント事業における IPO/M&A実績と見込み

	事業開始から 2007年3月期まで	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期 見込み
IPO・M&A社数	99	12	0	7

審査の厳格化、長期化の流れの中で上場延期が続いていたが、2010年3月期は現時点で7社の上場を見込む

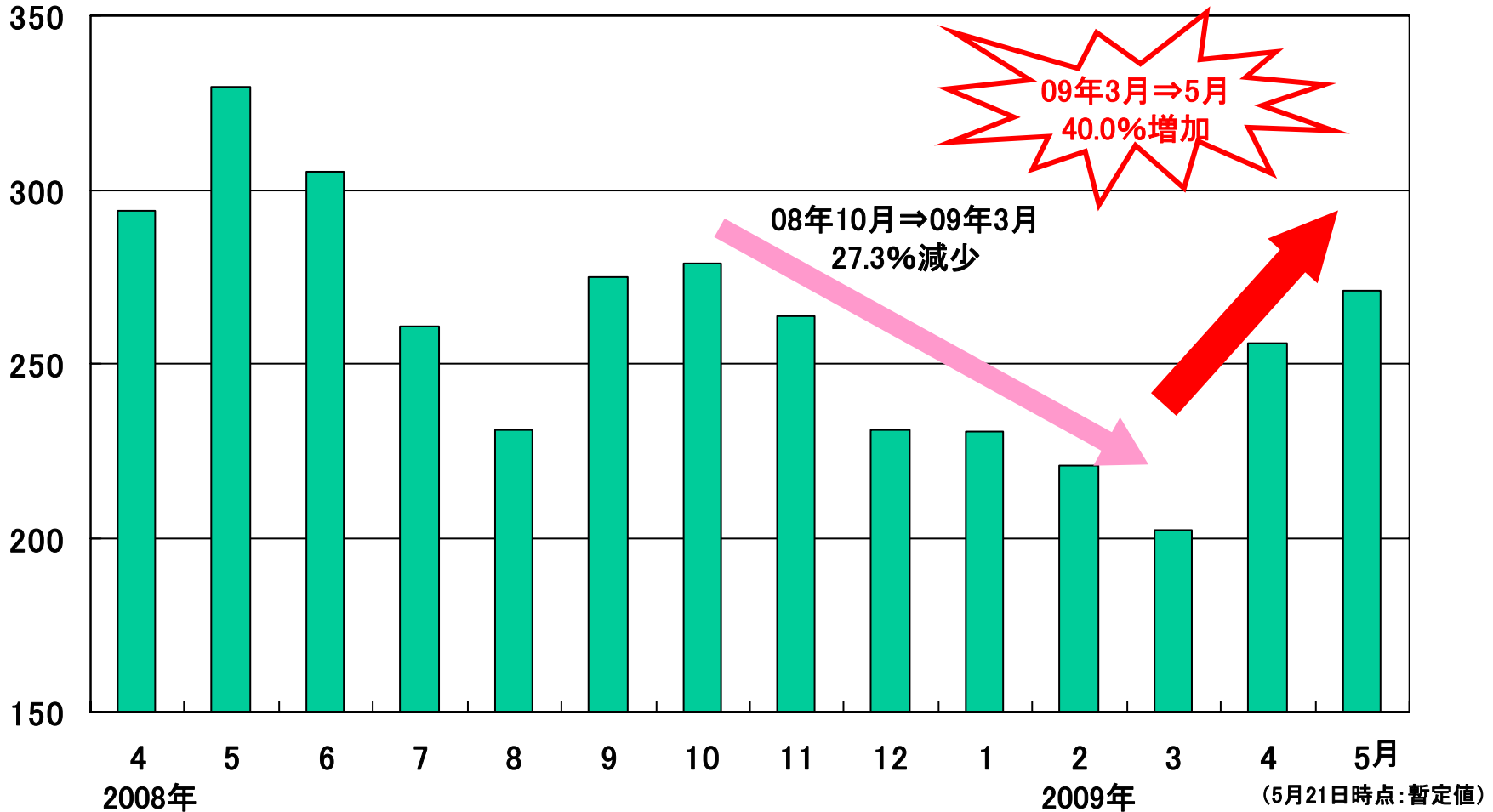
※ IPO予定件数は、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。尚、過去実績のIPO・M&A社数はすでに売却済みのものを含みます。

# 既に見えつつある明るい兆し(3)

## SBI証券 1日平均株式委託売買代金の推移

2008年10月以降減少が続いていた1日平均株式委託売買代金は、

(単位:10億円) 株式マーケットの復調にあわせて**2009年4月に増加に転じる**



既に営業利益・純利益は、2008年度第3四半期を底に第4四半期にかけて増加



# 不況時にシェアを伸ばすことが好況時の利益拡大へ

中核会社であるSBI証券の営業利益は、株式市場の低迷を受け減少しているが、口座数・個人株式委託売買代金シェアは逆に上昇

2006年3月期  
通期

2009年3月期  
通期

## SBIグループ証券子会社の営業利益

**380億円** (合算)

**96億円**

SBIイー・トレード証券(連結): 300億円  
旧SBI証券: 80億円

SBI証券

口座数と  
売買代金シェアは  
拡大しており、  
相場回復時には  
大きく利益が  
拡大することが  
見込まれる

**123万口座** ※1

口座数  
+65万口座

**188万口座**  
(2009年4月末)

## 個人株式委託売買代金シェア ※2

イー・トレード	23.1%	+15.6%ポイント	SBI証券	38.7%
楽天証券	11.1		楽天証券	14.4
松井証券	10.0		松井証券	7.7
マネックス	8.0		マネックス	6.3
カブドットコム	5.2		カブドットコム	5.9

※1 SBIイー・トレード証券と旧SBI証券の合算

出所: 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
※2 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

### **(3) 業績改善に大きく貢献する可能性のある新規事業**

**【SBIリクイディティ・マーケット】 (2008年 11月営業開始)**

**【住信SBIネット銀行】 (2007年 9月開業)**

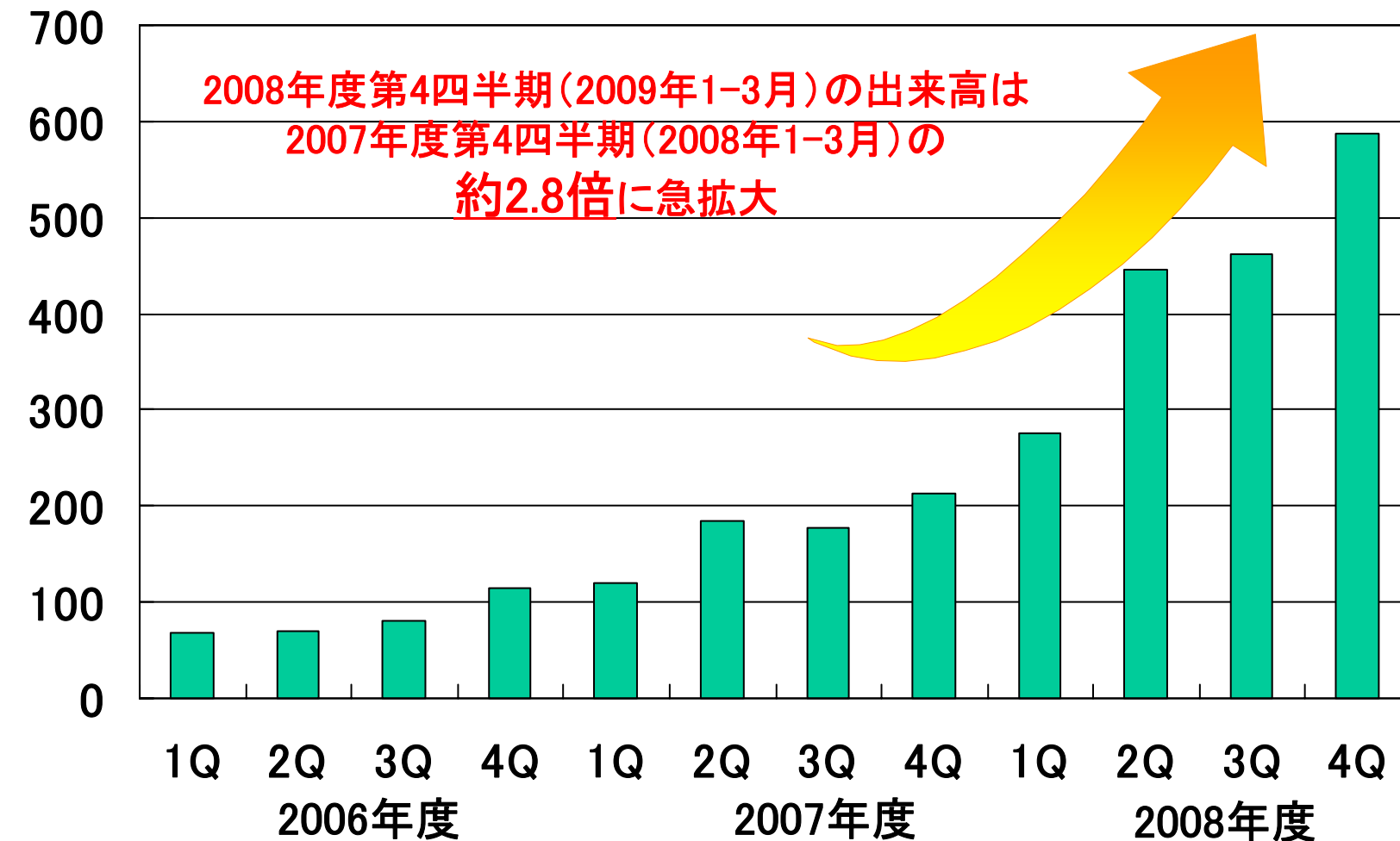
# 【 SBIリクイディティ・マーケット】

(2008年11月17日営業開始)

# 急拡大する外国為替証拠金(FX)取引市場

## 店頭外国為替証拠金取引の出来高推移

(兆円)



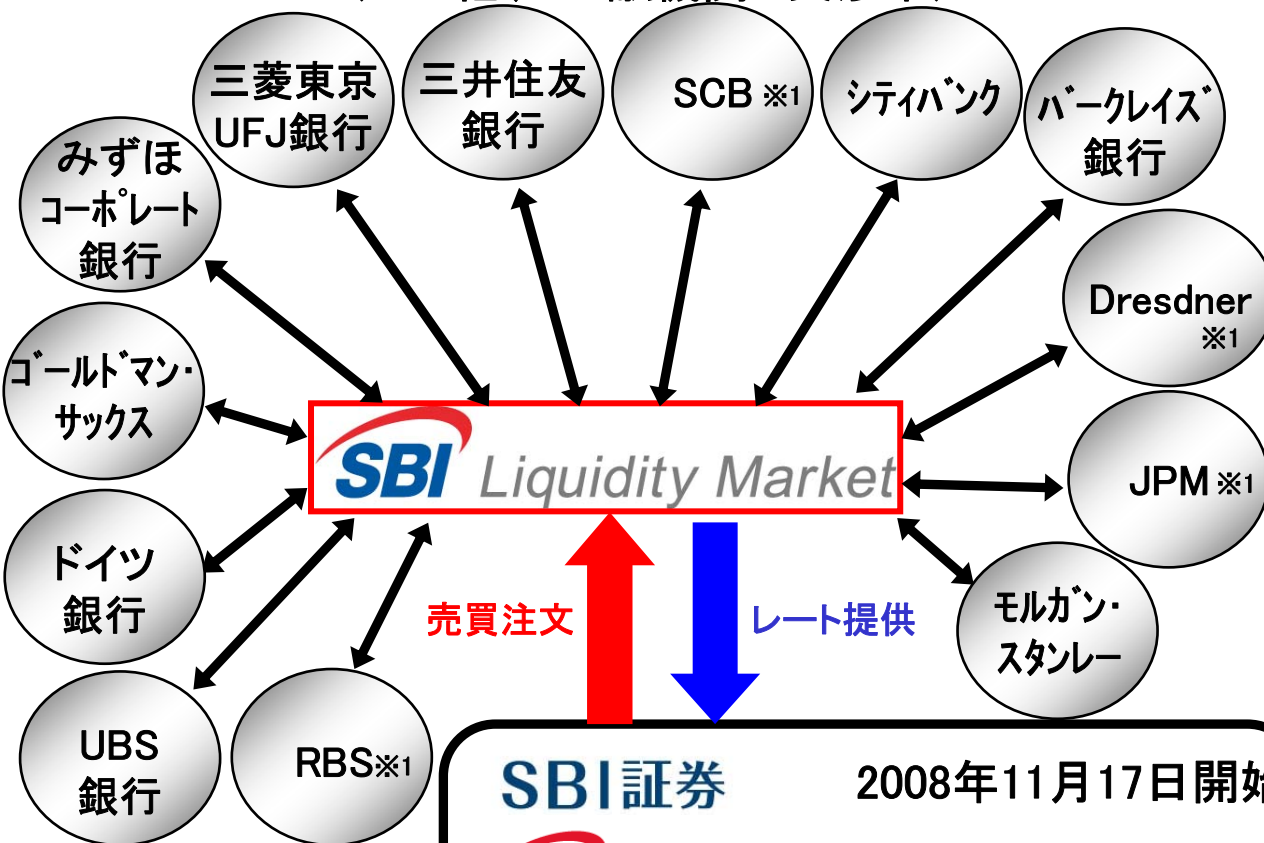
出所:(社)金融先物取引業協会ホームページより当社にて集計

# 営業開始から短期間で取引を急拡大させた SBIリクイディティ・マーケット



カウンターパーティー群

欧米主要金融機関及び国内大手銀行 計13行  
(この他、3金融機関と交渉中)



**SBI** Liquidity Market  
(2008年11月17日開業)

	口座数 (SBI FX α)	1日平均 取引数量(枚)
08年11月	70,683	71,400
08年12月	93,498	175,544
09年1月	105,361	259,775
09年2月	112,312	281,844
09年3月	115,783	256,565
09年4月	118,506	250,293
09年5月	-	311,474

※5月21日時点

**SBI証券** 2008年11月17日開始

**SBI Futures** 2009年1月26日開始

**住信SBIネット銀行** 2009年夏開始に向けて準備中

**SBI Sumishin Net Bank**

※1 各社略称  
 RBS・・・ロイヤルバンク・オブ・スコットランド  
 SCB・・・スタンダード・チャータード銀行  
 Dresdner・・・ドレスナー・クラインオート証券  
 JPM・・・JPモルガン・チェース銀行

# ネット証券大手4社※1の 外国為替保証金取引売買代金の推移

SBIリクイディティ・マーケットを活用しサービス内容を拡充したことで、  
SBI証券におけるFX取引の売買代金は大きく拡大

2009年4月の売買代金は、  
2008年6月の約12倍に急拡大

金額は2009年4月の  
売買代金

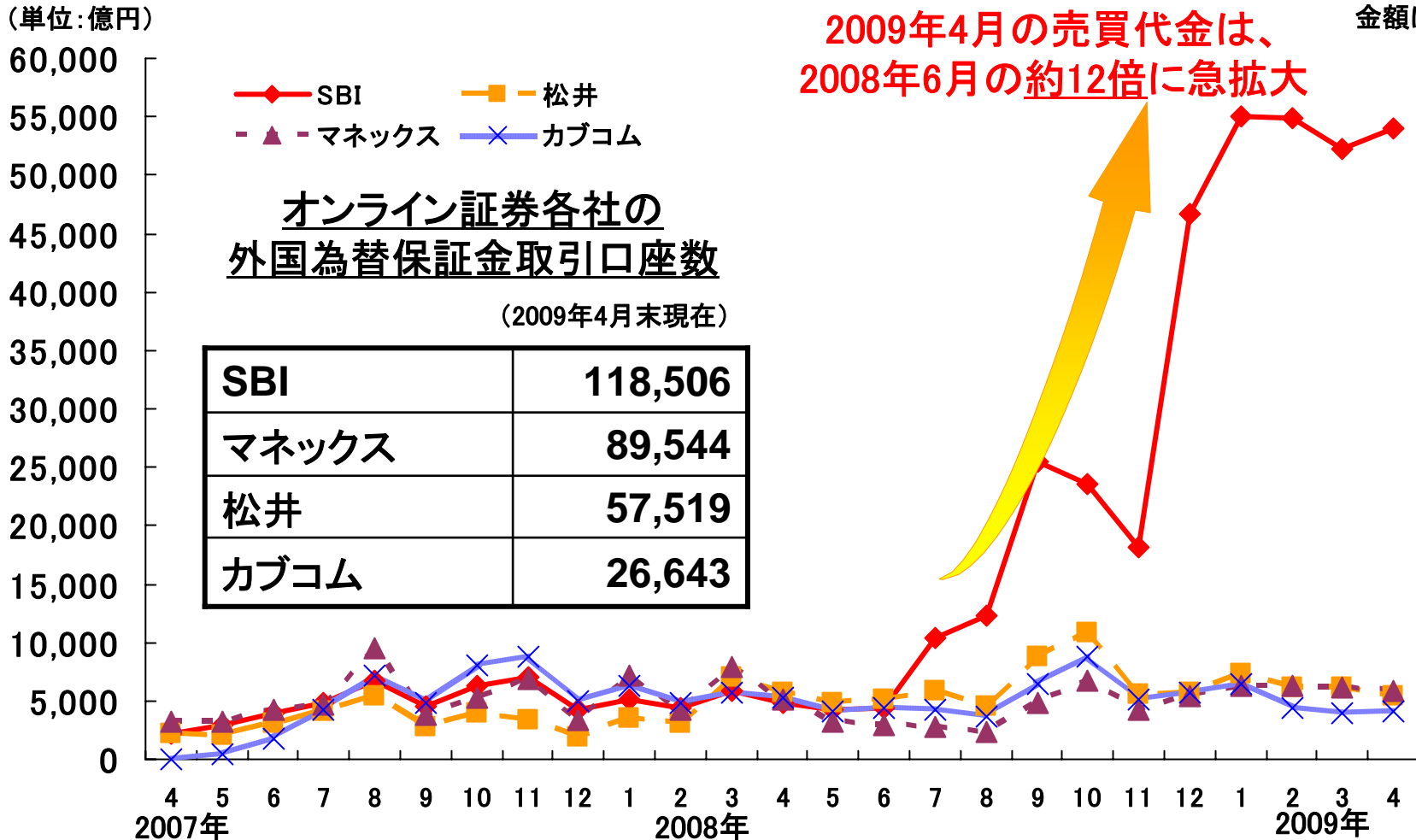
SBI  
5兆4,014億円※2

## オンライン証券各社の 外国為替保証金取引口座数

(2009年4月末現在)

SBI	118,506
マネックス	89,544
松井	57,519
カブコム	26,643

マネックス  
5,910億円  
松井  
5,471億円  
カブコム  
4,073億円



※1 データが開示されたSBI証券、マネックス証券、松井証券、カブコム証券の4社

※2 2008年11月～2009年2月は、『SBI FX』及び『SBI FX α』の売買代金合計

# SBIリクイディティ・マーケットは当初の 収益寄与額予想を大幅に上回る

【営業開始(2008年11月17日)当初予想:2009年3月期】

SBI証券への目標利益寄与額 : 営業利益で約8億円

SBIリクイディティ・マーケットの目標利益額: 営業利益で約4億円



上記予想を大幅に上回る

【2009年3月期 通期での収益貢献】

(単位:億円)

	09年3月期			10年3月期	
	3Q	4Q	通期	4月	5月
売上高	5.5	23.5	<u>29.0</u>	8.4	6.9
内、SBI証券のトレーディング益 (SBI証券:営業利益)	3.5	14.9	<u>18.3</u>	5.4	4.3
営業利益	1.1	7.3	<u>8.4</u>		

(5/21時点概算値)

【参考】上場するFX専業事業者の業績(2009年3月期通期)

(百万円)

	営業収益	営業利益	時価総額(5月21日)
マネーパートナーズグループ ※	10,772	4,332	17,154
FXプライム	5,835	2,470	5,088
マネースクウェア・ジャパン	1,410	48	1,171

※ マネーパートナーズグループのみ連結業績、その他は単体業績。

# 健全な市場育成に向けた FX事業者への規制強化の動き

**4月28日に金融庁がFX事業者に対する規制強化案を発表**

## 主な規制強化の内容

- 区分管理の方法を金銭信託に一本化
- 「ロスカットルール」の整備・遵守の義務付け
- 証拠金倍率(レバレッジ)の上限設定



**規制に対応し事業を継続できる経営体力を有する  
大手事業者に顧客が移動する可能性がある**



## 【住信SBIネット銀行】

### 開業時の事業計画 (2007年9月24日開業)

- ・目標口座数      2010年3月期:40万口座程度、2012年3月期:60万口座程度
- ・目標預金量      2010年3月期:7,000億円程度、2012年3月期:1兆円程度
- ・目標収益      2010年3月期:単年度黒字化  
2012年3月期:当期純利益50億円程度・累損解消

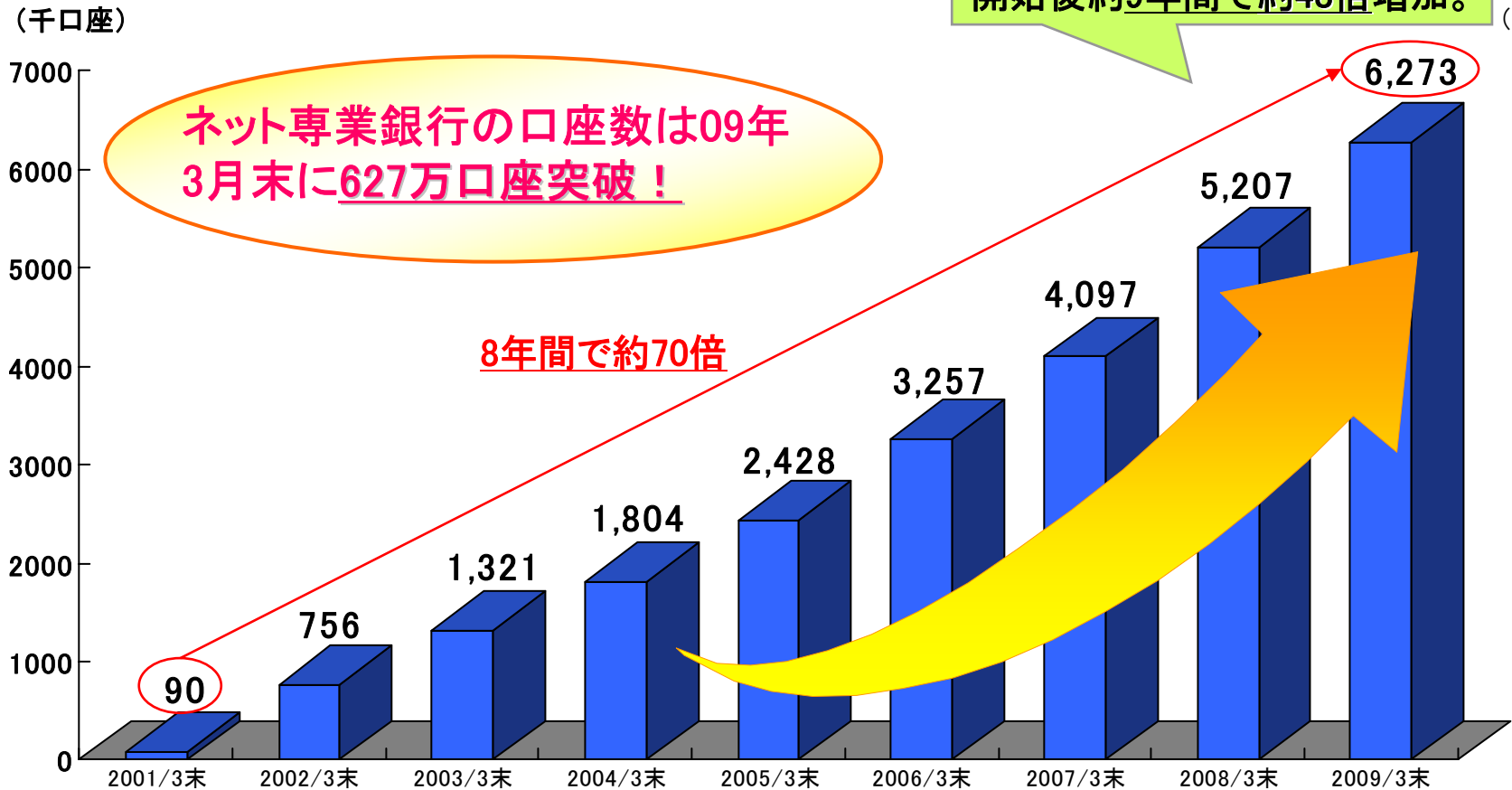
# 利用者を拡大しつつあるインターネット専門銀行

## インターネット専門銀行の口座数推移

(2001年3月末～2009年3月末) (※1)

ネット証券の口座数は08年9月末時点で約1,414万口座。統計開始後約9年間で約48倍増加。

(※2)



(※1) 各行公表資料より当社にて集計。なお、インターネット専門銀行はジャパンネット銀行、ソニー銀行、イーバンク銀行、住信SBIネット銀行。住信SBIネット銀行は07年9月開業。

(※2) データ出所：日本証券業協会「インターネット取引に関する調査結果(平成20年9月末)」

# ネット専業銀行の活用

ネット専業銀行は、店舗コストや人件費などの運営コストを抑えているため、全国に支店を持つような大手都市銀行に比べて好金利の設定が可能

## (例) 定期預金金利の比較

### 大手都銀3行の平均

	300万円未満			300万円以上		
預入期間	1年	3年	5年	1年	3年	5年
金利(%)	0.2	0.25	0.34	0.2	0.3	0.38

### 住信SBIネット銀行

約2.7倍



	100万円以上300万円未満			300万円以上		
預入期間	1年	3年	5年	1年	3年	5年
金利(%)	0.538	0.532	0.597	0.548	0.542	0.607

# 順調に拡大する住信SBIネット銀行の顧客基盤



2009年4月末時点 ※( )内は2009年5月20日時点の速報値

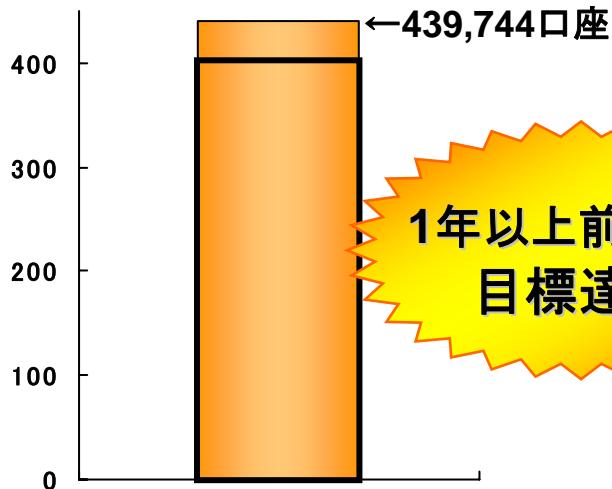
口座数:	439,744口座	(453,098口座)
預金量:	6,571億円	(6,722億円)
貸出金残高:	2,298億円	(2,340億円)
	(住宅ローン+ネットローン)	

## <2009年4月末での達成率>

口座数

目標:2010年3月末で  
40万口座程度

(千口座)

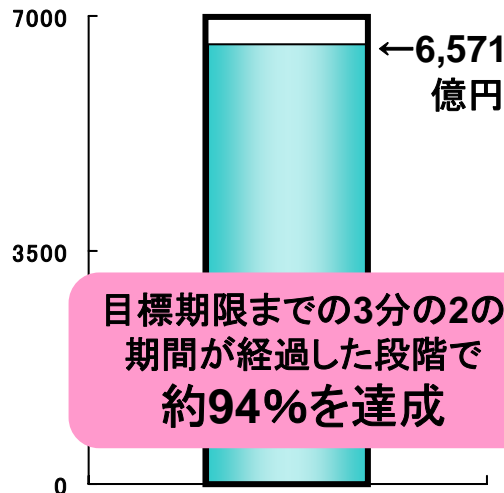


開業20ヶ月間

預金量

目標:2010年3月末で  
7,000億円程度

(億円)



開業20ヶ月間

2009年5月20日時点  
での達成率

預金量:6,722億円

約96%を達成

## 第2・3四半期に引き続き、顧客基盤を拡大中

### インターネット專業銀行の第4四半期(1月-3月)比較

	2008年3月期第4四半期中 (1-3月)の増減数		2009年3月末
	口座増加数 (口座)	預金増加額 (百万円)	顧客あたり 預金残高 (千円) (※2)
<b>住信SBIネット銀行</b>	<b><u>84,596</u></b>	<b><u>77,959</u></b>	<b><u>1,505</u></b>
ソニー銀行	22,486	▲12,900	1,832
イーバンク銀行	146,000 (※1)	▲37,600	233
ジャパネット銀行	40,000	▲13,500	219

出所：公表資料より当社にて集計

※1 累計口座開設承認数(解約件数を除く)の増加数

※2 預金残高÷口座数

## 住信SBIネット銀行と各インターネット専門銀行との比較(2)

# 預金残高は開業から538日で6,000億円を突破

競争力のある金利の設定、個人顧客に対する手数料無料でのATM入出金・振込取引の提供のほか、各種キャンペーンの展開により、2007年9月24日の開業から538日で預金残高が6,000億円を突破した。

### 各行が預金残高6,000億円突破に要した日数

	開業日	預金残高が 1,000億円を 超えた時期 (注1)	開業からの 日数	預金残高が 6,000億円を 超えた時期 (注1)	開業からの 日数	預金残高 (注2)
イーバンク銀行	2001/7/23	2003/10/1～ 2004/3/31	801～ 983日	2007/8/7	<u>2,207日</u>	7,281億円
ジャパンネット銀行	2000/10/12	2002/10/1～ 2003/03/31	720～ 901日	—	—	4,349億円
ソニー銀行	2001/6/11	2002/3/1～ 2002/03/31	264～ 294日	2005/12/1～ 2005/12/31	<u>1,635～ 1,665日</u>	13,207億円
<b>住信SBIネット銀行</b>	<b>2007/9/24</b>	<b>2007/11/19</b>	<b>57日</b>	<b>2009/3/14</b>	<b><u>538日</u></b>	<b>6,718億円</b>

(注1) 各行公表資料より、預金残高がそれぞれの金額を超えたことが判明した時期

(注2) 住信SBIネット銀行は2009年5月14日時点の残高、ジャパンネット銀行は2009年3月末、ソニー銀行・イーバンク銀行は2009年4月末の残高

## 住宅ローン実行累計額も順調に拡大

～住宅ローン取扱い開始から**551日**で、同実行累計額**2,000億円突破**～

(2009年3月27日)

(ジャパンネット銀行、イー・バンク銀行は住宅ローン取扱なし)

	ソニー銀行	住信SBIネット銀行 (注1)
開業日	2001年6月	2007年9月
住宅ローン取扱い開始	2002年3月	同上
2000億円突破に 要した日数	1385～1475日 (注2)	551日

**インターネット専門銀行としては最速での到達！**

住信SBIネット銀行では、キャンペーン優遇金利として基準金利より最大年2.2%優遇するなど競争力のある金利の設定や8疾病保障が無料で付保可能になるほか、一部繰上返済手数料・金利タイプ変更手数料無料や銀行への来店不要で契約手続きが完了等々の顧客利便性を追求したサービスを展開

(注1)ソニー銀行は約定返済分を反映した実行残高、住信SBIネット銀行は実行金額ベース

(注2)公表資料より当社にて集計

# ～2010年3月期黒字化が視野に～

## 【経常損失・利益の推移】

2008年3月期		2009年3月期						
4Q		1Q	2Q	3Q	4Q			
経常損失 19.2億円	→	経常損失 17.8億円	→	経常損失 12.8億円	→	経常損失 7.5億円	→	経常利益 1.37億円

1.4億円の  
改善

5億円の  
改善

5.3億円  
の改善

2009年1月に初の単月黒字化を達成。四半期ベースでも初の黒字化(当期利益:1.34億円)を達成!

2010年3月期の単年度黒字化に向けて  
引き続き業績は順調に推移している





# インターネット専業銀行の黒字達成時期

住信SBIネット銀行が達成した開業17ヶ月目(2009年1月)での単月黒字は、イーバンク銀行・ジャパンネット銀行に比べ、圧倒的なスピードでの達成!

2009年3月期4Qには四半期ベースでの黒字化を達成し、先行する3行に比べて四半期ベースでの黒字化も最速で達成!

	開業日	単月黒字達成	達成までの月数	四半期ベース黒字達成	達成時期	通期黒字達成(時期)
イーバンク銀行	2001/7/23	2003/12	30ヶ月目	2004年3月期4Q	3期目4Q	2006年3月期(5期目)
ジャパンネット銀行	2000/10/12	2004/3	42ヶ月目	2005年3月期1Q	5期目1Q	2005年3月期(5期目)
ソニー銀行	2001/6/11	未公表		2005年3月期4Q	4期目4Q	2006年3月期(5期目)
住信SBIネット銀行	2007/9/24	2009/1	<u>17ヶ月目</u>	2009年3月期4Q	2期目4Q	目標: 2010年3月期(3期目)

(※)各行公表資料より当社にて作成

# The Asian Banker誌より 「最優秀インターネット専業銀行賞」を受賞

## 「The Asian Banker Excellence in Retail Financial Services Awards 2009」

(リテール金融サービス表彰2009)

### 【The Asian Banker誌のプレスリリースより一部抜粋(仮訳)】

SBI Sumishin Net Bank wins the award for Best Internet Only Bank, 2008. (中略)

This bank attained \$4.3 billion of deposits only after 11 months of the inception of the business, acquiring more deposits than most of its peers in a similar period. It achieved close to \$80 million in sales in the first nine months of FY2008 and it is well on its way to making profits by the end of March 2010.

**住信SBIネット銀行は2008年の最優秀インターネット専業銀行賞を受賞されました。(中略)**

同社は、43億ドルの預金量を開業からおよそ11ヵ月で達成し、これは同業他社が同期間(開業から11ヵ月間)に獲得した預金量を上回るものです。2008年度の第1四半期から第3四半期までの9ヵ月間においては8,000万ドルの経常収益を達成し、同社の業績は2010年3月期の黒字化に向けて好調に推移しております。



## ④ ネット保険事業の進捗状況は？

【SBI損害保険】 (2008年 1月開業)

【SBIアクサ生命保険】 (2008年 4月開業)

### ネット生損保事業の営業損失改善(連結)

08年3月期 営業損失9.4億円

 **6.6億円の改善！**

09年3月期 営業損失2.8億円

保険業法第113条により、保険会社の最初の5事業年度の事業費等は、資産計上して10年以内に償却することができる。

## 【SBI損害保険】

### 開業時の事業計画

(2008年1月16日開業)

- ・目標契約件数      5期目：約30万件
- ・目標収益            5期目：単年度黒字化、10期目：収入保険料250～300億円

～週刊ダイヤモンドによる「自動車保険料ランキング」では、SBI損保が最も安い保険料に。  
元受正味保険料(※3)が前年同期比で伸びているのは、すべてダイレクト系 ～

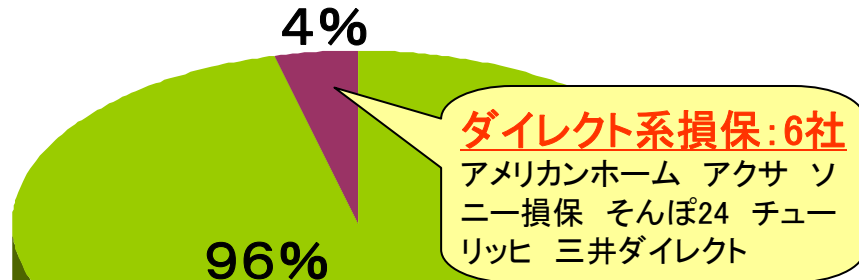
## 記事

# ネット損保の伸びる余地の大きい自動車保険市場

## 自動車保険(元受正味保険料)にみる業界構成比

■元受正味保険料(2008年3月期)《自動車》

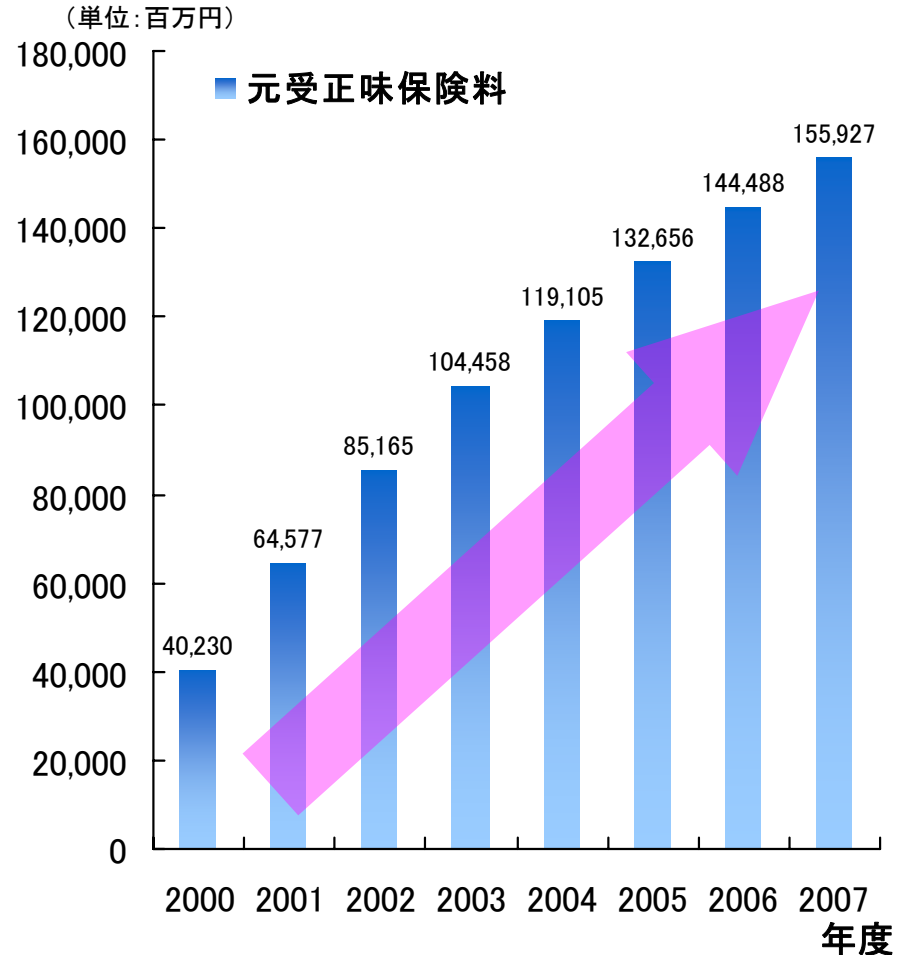
	2008年3月期
代理店系	3兆4,752億円
ダイレクト系	1,559億円
合計	3兆6,311億円



### 代理店系損保: 17社

あいおい損害保険会社 朝日火災海上保険会社 共栄火災海上保険会社 ジェイアイ傷害火災保険株式会社 スミセイ損害保険株式会社 セコム損害保険株式会社 セゾン自動車火災保険株式会社 株式会社損害保険ジャパン 大同火災海上保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 日新火災海上保険株式会社 ニッセイ同和損害保険株式会社 日本興亜損害保険株式会社 日立キャピタル損害保険株式会社 富士火災海上保険株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 明治安田損害保険株式会社

## 伸び続けるダイレクト系損保



(出典)各社ディスクロージャー誌、決算短信、自動車保険比較ランキングHPをもとに作成。

# 本格稼動しつつあるSBI損保

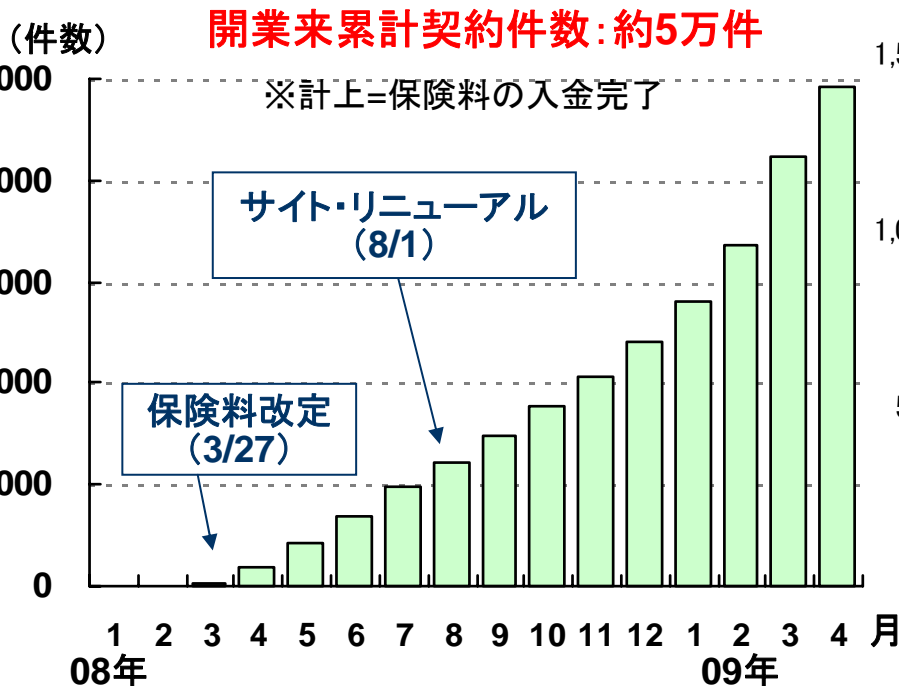
## 初年度(\*)の契約件数比較

- ・SBI損保(開業2008年1月16日): 2万5千件(～09/1/15、12ヶ月間)  
⇒08年3月27日、保険料を大幅に引き下げ。以降成約件数の伸びが加速
- ・ソニー損保(開業1999年9月) : 2万1千件(1999年度、7ヶ月間)
- ・三井ダイレクト(開業2000年6月): 1万6千件(2000年度、10ヶ月間)

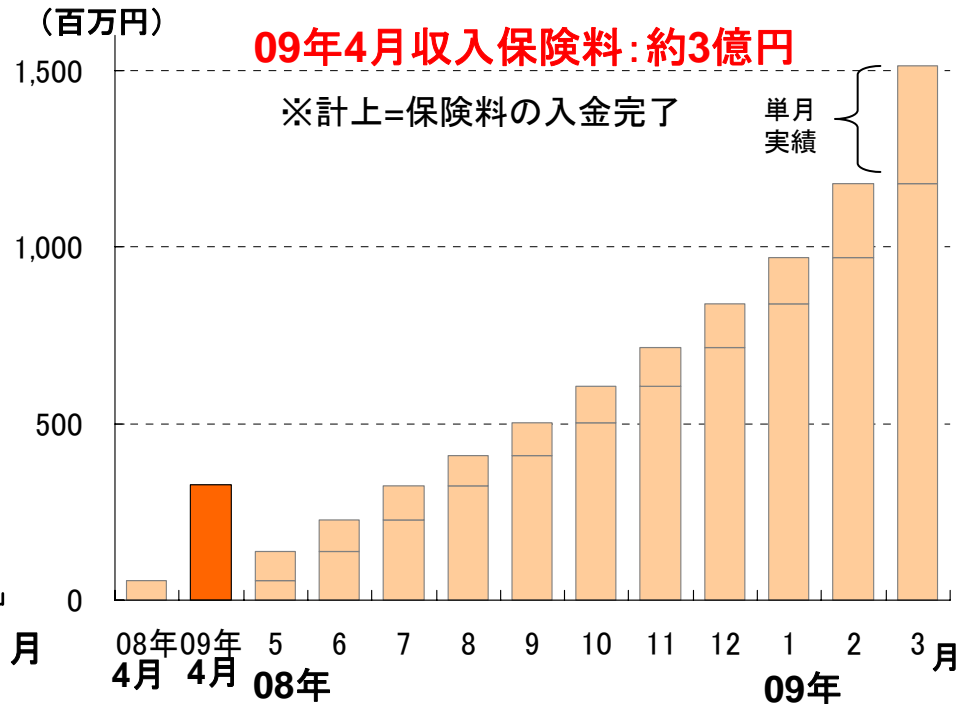
## 現在の状況

- ・09年4月9日、銀行窓販チャネル(住信SBIネット銀行)での取扱い開始
- ・09年4月の収入保険料(計上ベース)は前年同月の約6倍の3億円超に

自動車保険 契約数(計上ベース)・累計



元受収入保険料(計上ベース)・年間累計



(\*) SBI損保は初年度が3ヶ月に満たない為営業開始後1年間の件数を合計、ソニー損保、三井ダイレクトはそれぞれ7ヶ月間と10ヶ月間

# 主要ダイレクト損保の顧客獲得費用の比較

## ■ ソニー損保（開業1999年9月）

（単位：百万円）	1999年度	2000年度	2001年度
経常収益	1,316	7,600	16,488
保険引受費用	1,709	7,019	12,910
営業費及び一般管理費	5,502	9,297	9,486
経常利益	▲3,430	▲5,641	▲4,097

## ■ 三井ダイレクト（開業2000年6月）

（単位：百万円）	2000年度	2001年度	2002年度
経常収益	892	3,758	8,301
保険引受費用	997	3,413	6,834
営業費及び一般管理費	3,497	4,352	5,349
経常利益	▲763	▲908	▲1,431

## ■ SBI損保（開業2008年1月）(\*)

（単位：百万円）	2007年度	2008年度	2009年度(計画)
経常収益	7	1,399	4,886
保険引受費用	15	1,545	4,370
営業費及び一般管理費	508	1,399	2,017
経常利益	▲335	▲321	▲362

開業2年目の  
契約件数1件あたり  
コスト比較(※)  
(単位：万円)

ソニー損保：7.2  
三井D：5.8  
SBI損保：3.9

(※)契約件数1件あたりコストは、各社開業2年目の年度の営業費及び一般管理費を件数で単純に割ったものであり、1件あたりの獲得コストではありません。

(\*)2007年度は開業後3ヶ月間の数字です。2008年度の数字は、他社と比較し易くするため再保険の分を割り戻して算出した場合の数値であり、再保険を行った実際の決算数値とは異なります。2009年度の計画はあくまでSBI損保が独自で試算した業績目標数値です。

また、当該計画には再保険による拠出分を考慮しておりませんので、今後開示される実際の業績数値と大きく乖離する可能性があります。

(データ出所：各社開示資料より当社にて集計)



## 【SBIアクサ生命保険】

### 開業時の事業計画 (2008年4月7日開業)

- ・目標契約件数 初年度:約2万件 5期目:約20万件  
⇒初年度実績:5,400件超

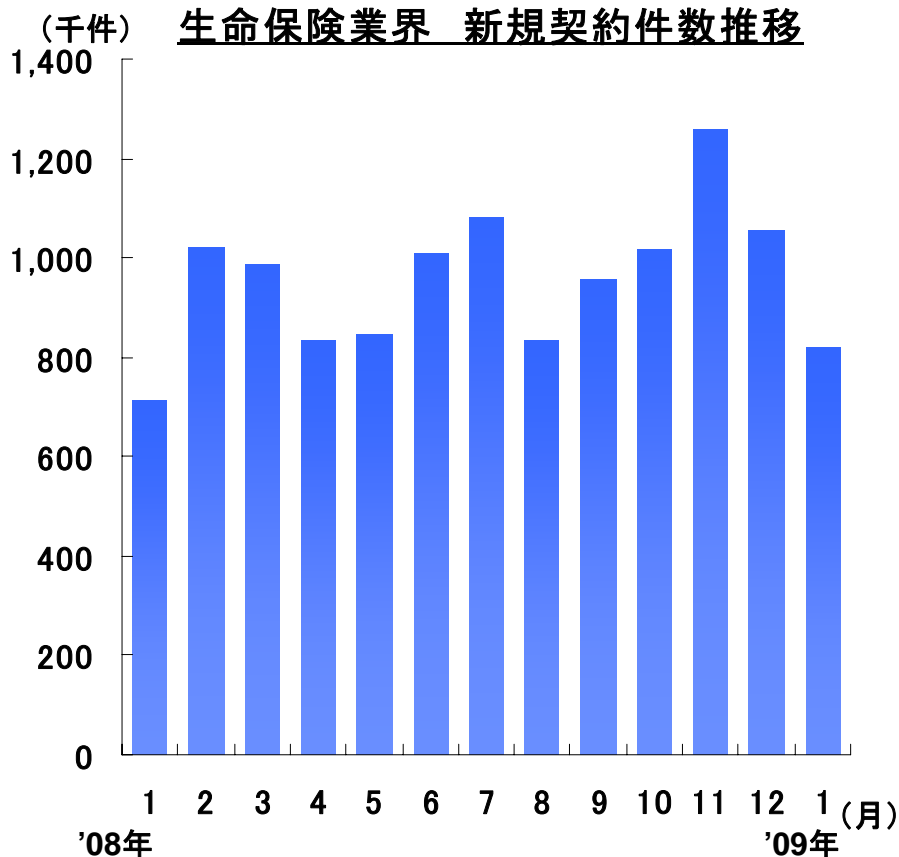
インターネット専業生保という新しいモデルのため当初伸び悩んだが、  
業態への認知浸透と手数料値下げ・チャネル拡大により年度後半は急拡大

- ・目標収益 5期目:単年度黒字化

# 伸び悩む生命保険市場でネット生保は急成長

～ 大手生保が伸び悩む中、2008年に開業したネット生保は順調に新契約件数を拡大、先行ダイレクト系の**チューリッヒ生命や損保ジャパンDIY生命を上回る水準で成長**(※3)～

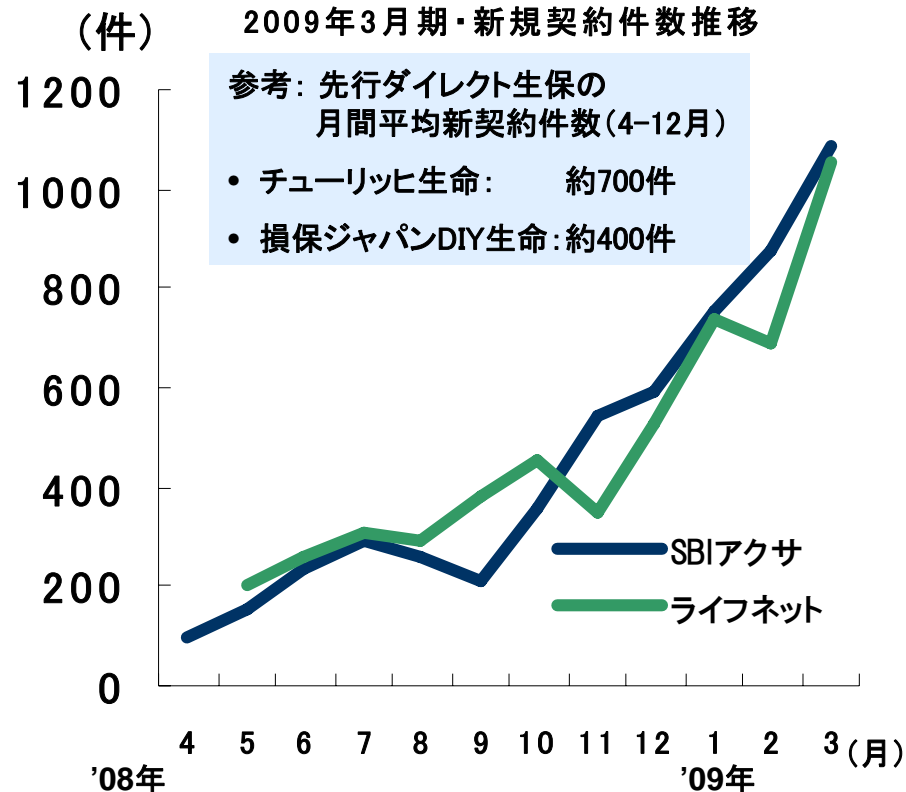
## 伸び悩む生命保険業界(※1)



## 成長するネット生命保険

### 「SBIアクサ」と「ライフネット」

2009年3月期・新規契約件数推移



出所: 生命保険協会、各社開示資料よりSBIホールディングスが作成

(※1)生命保険会社44社の合計(かんぽ生命、大和生命を除く)

(※2)「ダイレクト系生保」とは、通販の売上が過半を占めると想定される会社として、DIY、チューリッヒ、SBIアクサ、ライフネットとした。

(※3)DIYとチューリッヒは、第三四半期までの公表数値をもとに月平均を算出

～ 週刊ダイヤモンドによる「定期保険の付加保険料ランキング」では、**最も付加保険料(経費)が安かったのはSBIアクサ生命の781円**、最も高かった住友生命、朝日生命(4,741円)と比較すると、**保険料で約2倍、付加保険料では約6倍の4,000円の差に** ～

■[定期保険の付加保険料ランキング](#) (死亡保険金額3000万円、保険期間10年、男性30歳の月額保険料で比較)

記事

(※2009/3/14 「週刊ダイヤモンド」掲載記事より)

定期保険:死亡保険金額3000万円、保険期間10年、月払い、単品  
\* 純保険料はライフネット生命保険が開示した金額(2669円)を使用し、月額保険料から差し引くことで付加保険料を試算した  
\* 損保ジャパンDIY生命保険の「1年組み立て保険」は、保険期間が1年のため、10年間の平均で算出した(30歳の場合、30～39歳の保険料平均)

# インターネット専門の生命保険会社が安さで注目されている



◆保険加入者(918人)のうち、何らかの見直しを考えている人は36%

◆保険を見直したい理由のトップは、「保険料負担が重荷」で47%

～ 不景気を受けた家計リストラ策のひとつとして、保険の見直しが注目されている。

2008年にSBIアクサ生命保険とライフネット生命保険が相次ぎ開業。外交員を使わず、自社サイトを唯一の「店」とすることでコストを圧縮。保険金額が同じなら、保険料は既存生保の半分程度という。～

記事

(※2009年4月25日 「日経トレンディネット」掲載記事より)

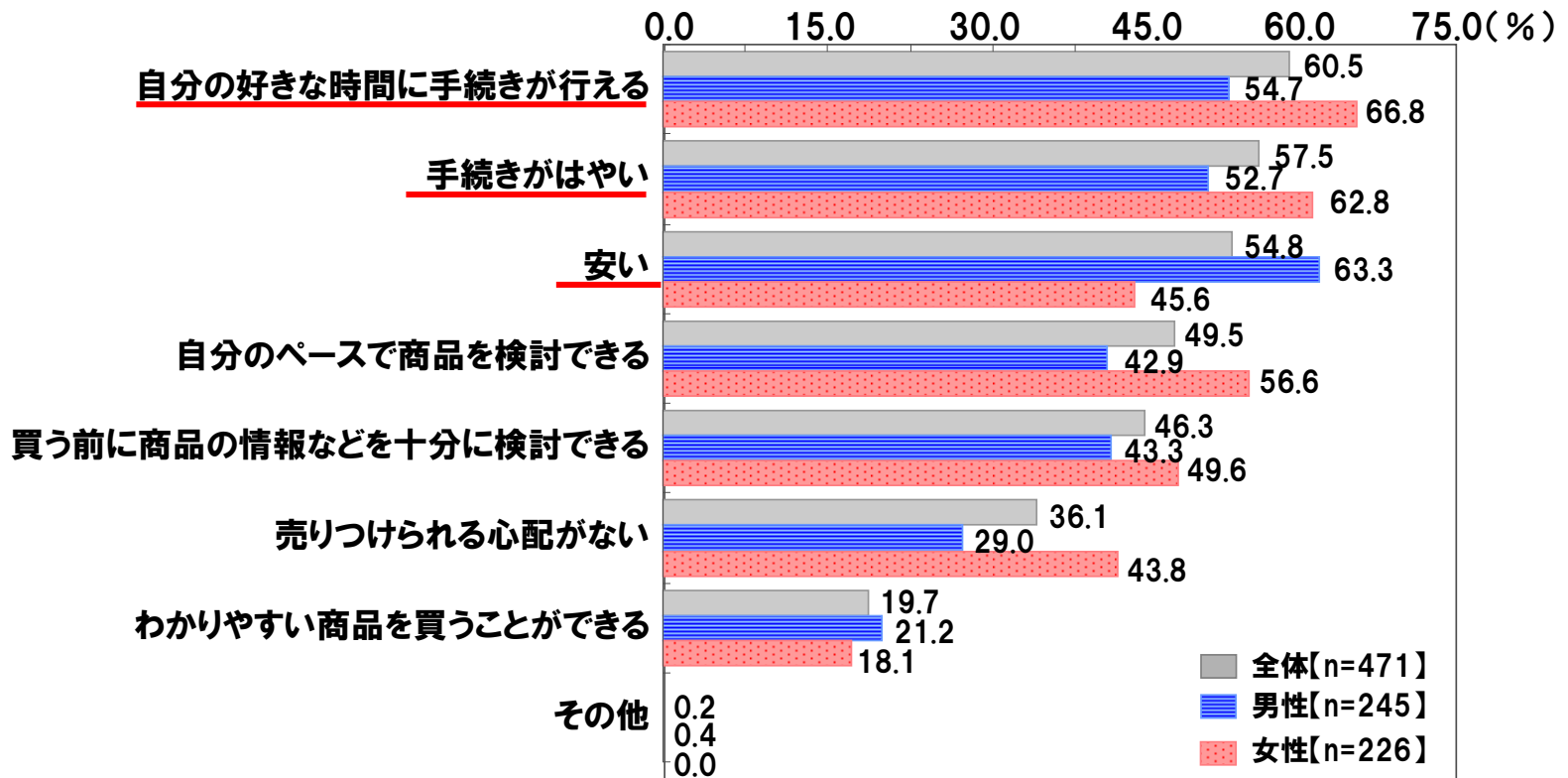
# ライフネット社と共同で業界初となる 「ネット生保に関する共同調査」を実施



- ◆「生命保険業界に必要なChange」トップは「保険料が安くなること」 => 71.3%
- ◆「今後どのような方法で生命保険に加入したいか」トップは「インターネットを通じて」 => 41.9%
- ◆今後インターネットで生命保険を買うことについて興味がある人 => 47.1%
- ◆生命保険の比較情報量の不足を感じている人 => 68.1%

## 「インターネットで生命保険を買ったら、どのようなところに“メリット”を感じますか？」

(複数回答形式)(対象者: ネットで生保を買うことに興味がある人)



※SBIアクサ生命保険とライフネット生命保険がネット生保誕生1周年を記念し、共同調査として2009年4月10日～4月14日の5日間、20代～50代の男女1000名に対し「ネット生保に関する調査」をモバイルリサーチで実施し、1000名の有効回答を得たもの。2009年4月23日の共同リリースより。 60

# SBIアクサはサービス向上により獲得契約件数の増加を図る

08/10/2~

「カチッと定期」(定期保険)において、高額割引制度を導入。

=>従来と比較して最大46.6%の割引(※1)

11/14~

保険業界初(※2)、Webサイト上で口座振替手続きがリアルタイムで完結し、多数の金融機関から選択可能な「web口座振替受付サービス」開始。

09/3/13~

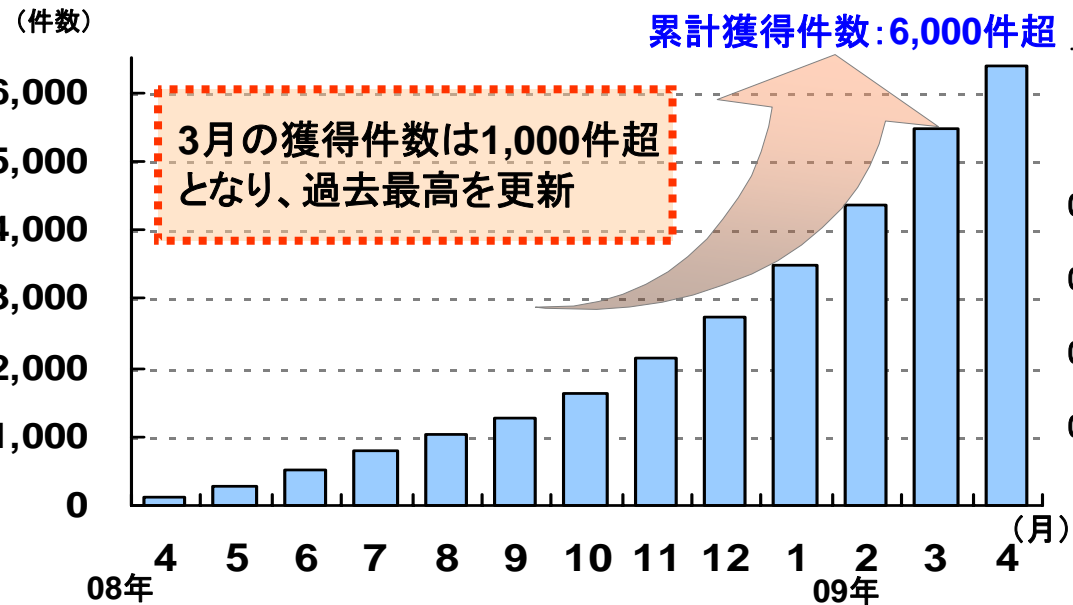
新商品「カチッと収入保障」(収入保障保険)を販売開始。

=>万が一の場合、お給料のように年金を毎月受取り可能に

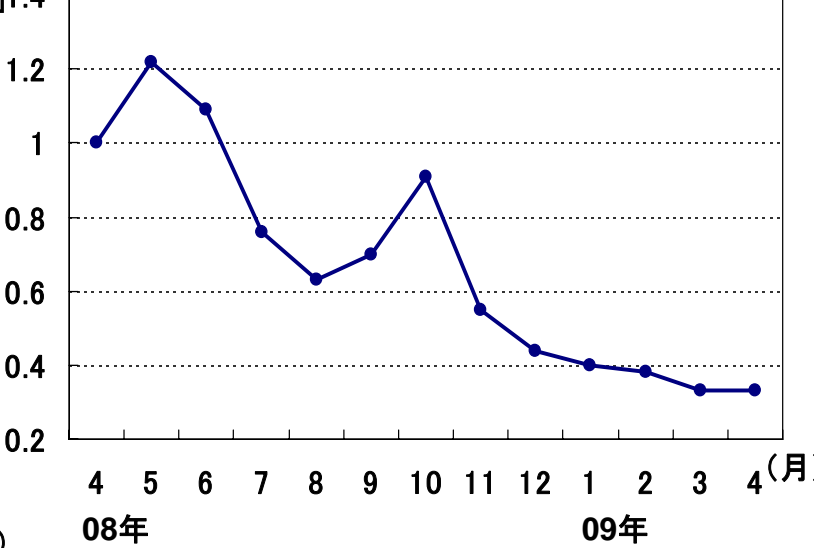
3/13~

「カチッと定期」と「カチッと医療」(医療保険)において、販売範囲を拡大。

定期・医療保険(合計)の新規契約成立件数・累計



新契約 獲得費用 単価 推移



※1 保険金額2千万円以上の契約が対象、※2 当社調べ  
(注)1~3月の数字は速報値

## 【その他新規事業トピックス】

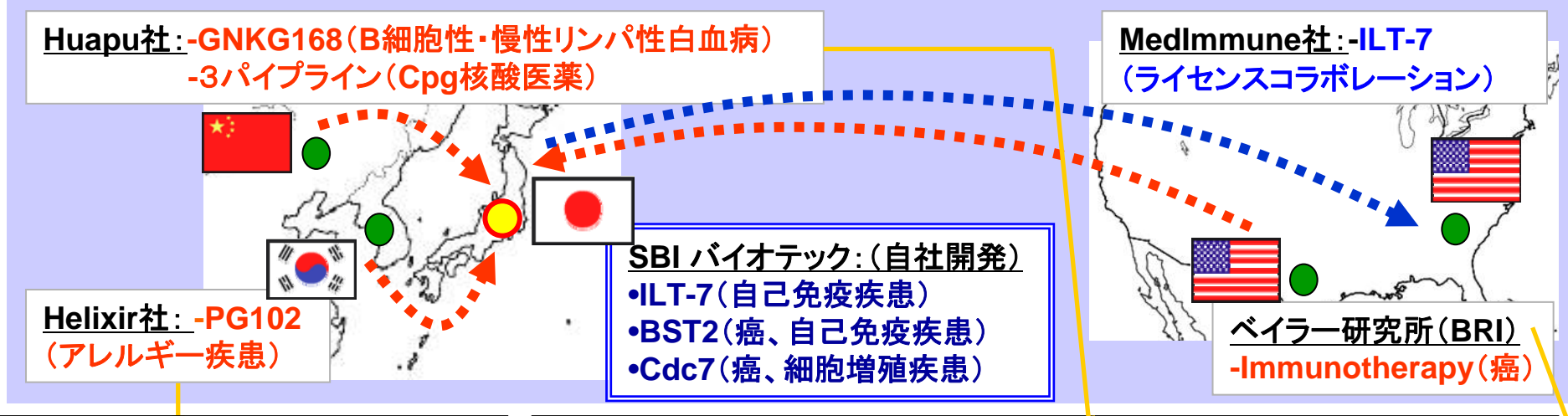
① バイオ関連事業

② ウォール・ストリート・ジャーナル・ジャパン

# SBIバイオテックの創薬・免疫細胞治療・健康食品事業展開が本格化

日・米・中・韓の世界的研究拠点や研究者を有するSBIバイオテックは、「複数」の  
パイプラインと世界的なネットワークを強みにグローバルな事業展開へ

## 【創薬パイプライン】



**【PG102 サルナシ抽出物】**

・2009年2月、「ノースっとサルナシ」  
を健康補助食品として発売開始

健康補助食品  
ノースっと  
**サルナシ**  
あなたのスッカリ生活を応援

商品名: サルナシ  
名称: サルナシ抽出エキス加工食品  
原材料名: サルナシ抽出エキス末、セルロース、糖類酸化ケイ素  
内容量: 44.8g (280mg×160粒)  
賞味期限: 特許下部に記載  
保存方法: 直射日光、高温多湿を避け、涼暗所に保存してください。  
販売者: SBIバイオテック株式会社  
会社 東京都港区白金台4丁目7番4号 白金台SBIビル7階  
http://www.sbibiotech.jp/  
※製造所固有記号は賞味期限の右側に記載

お召し上がり方  
健康補助食品として1日6粒を目安に、お水またはお茶で召し上がりください。

賞味期限

**【Huapu (Cpg核酸医薬)】**

・GNKG168 (Cpg核酸医薬) は、2009年5月に米国オハイオ大学 (臨床試験施設) のIRB (臨床試験審査委員会) 承認。  
2009年6月より、“SBIバイオテック初”の臨床試験 (フェーズ I) 開始予定。

・新たな”3パイプライン”の導入:  
2009年5月中、Cpg核酸医薬 (3パイプライン)ライセンスイン成立予定

**【BRI (樹状細胞療法)】**

・2009年5月中、樹状細胞療法 (米国:フェーズ II)のライセンスイン成立予定



# 今後収益が期待されるバイオ関連出資先企業

クオーク・ファーマシューティカルズ社 (SBIグループ出資比率: 24.87%)

RNA干渉 (RNAi) をベースとした新薬の開発

加齢黄斑変性症を対象疾患とする合成分子 (PF-4523655)

- 2006年9月に米国ファイザー社とライセンス契約を締結した。ファイザーから支払われるライセンス料は600百万ドルを超える規模となる。
- 2008年7月に糖尿病性黄斑浮腫に対象拡大し、ライセンス料を受領した。開発ステージはフェーズ II 試験へ前進。
- 2009年中に、フェーズ II aの結果が判明する予定。成果が出ればM&AによるEXITの可能性が高まる。

RNA干渉を用いた医薬品候補「QPI-1002」

- 2009年1月、臨床試験において患者への投与を開始。適用は腎臓移植後の臓器拒絶予防。同分野では先行薬は存在せず、グローバル製薬会社が大きな関心を寄せる。

# 米国メディア大手ダウ・ジョーンズとの合併会社、 「ウォール・ストリート・ジャーナル・ジャパン」を設立



60%

[世界のメディア情報分野をリード]

- ・米経済紙WSJ: **発行部数200万超**(1889年創刊)
- ・WSJ.com: 約180万の登録者数(米国)
- ・中国語WSJ.com: 登録者数 50万超
- ・投資週刊誌バロンズ他多数メディアブランド



40%

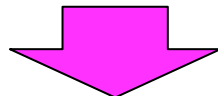
[SBIグループが有する顧客基盤、  
金融ネットビジネスのノウハウ]

- ・SBI証券: **オンライン証券最大 188万超**の口座数
- ・住信SBIネット銀行: **40万超**の口座数
- ・モーニングスター: 投信データ・評価分析等  
**豊富な金融コンテンツ**, etc.



## ウォール・ストリート・ジャーナル・ジャパン(株)

- ・設立 : 2009年5月中(予定)
- ・出資金額 : 4億円(資本金2億円、資本準備金2億円)
- ・サービス開始 : 2009年中に、日本語版WSJ.comサイトを開設(予定)
- ・サービス内容 : インターネット上でWSJの翻訳記事の提供及び、  
ダウ・ジョーンズ発行の他の発行物の翻訳記事の提供、等



グローバルな経済動向・金融市場に関心の高い人々に、良質な  
記事コンテンツを日本語でインターネットを通じて幅広く提供へ

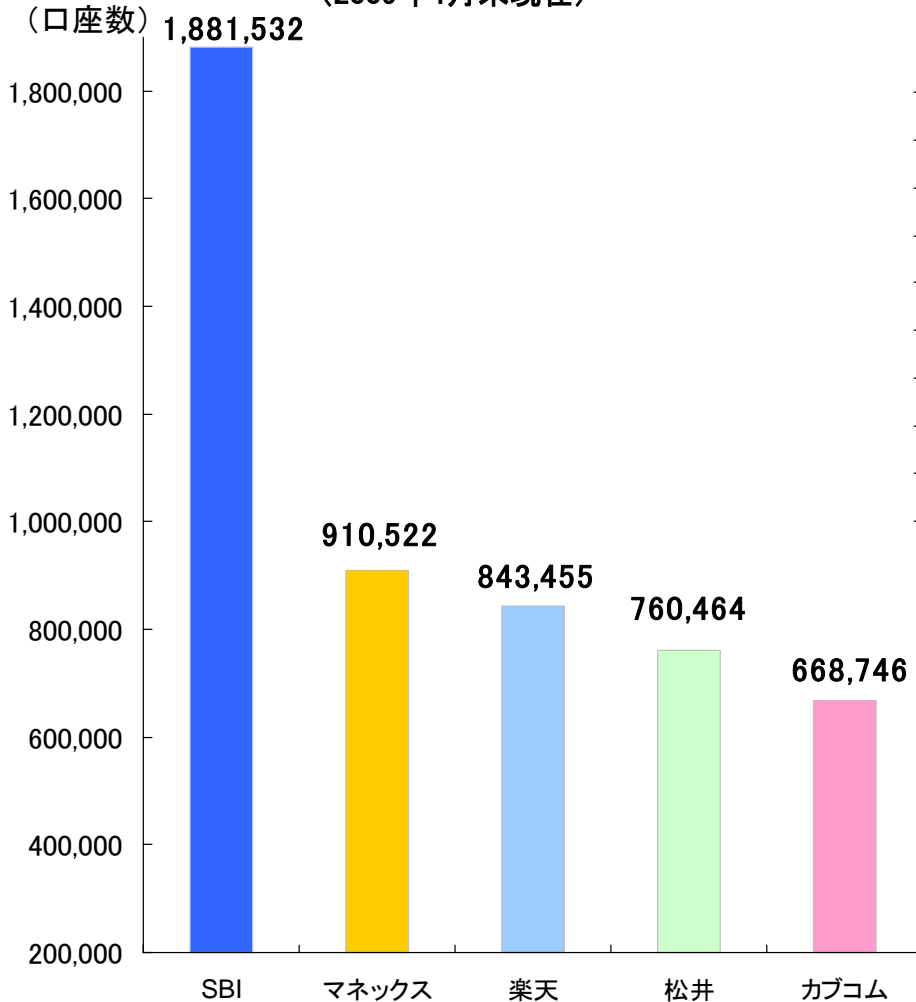


⑤ 中核子会社SBI証券はどのような状況でしょうか？

# 主要オンライン証券の口座数比較

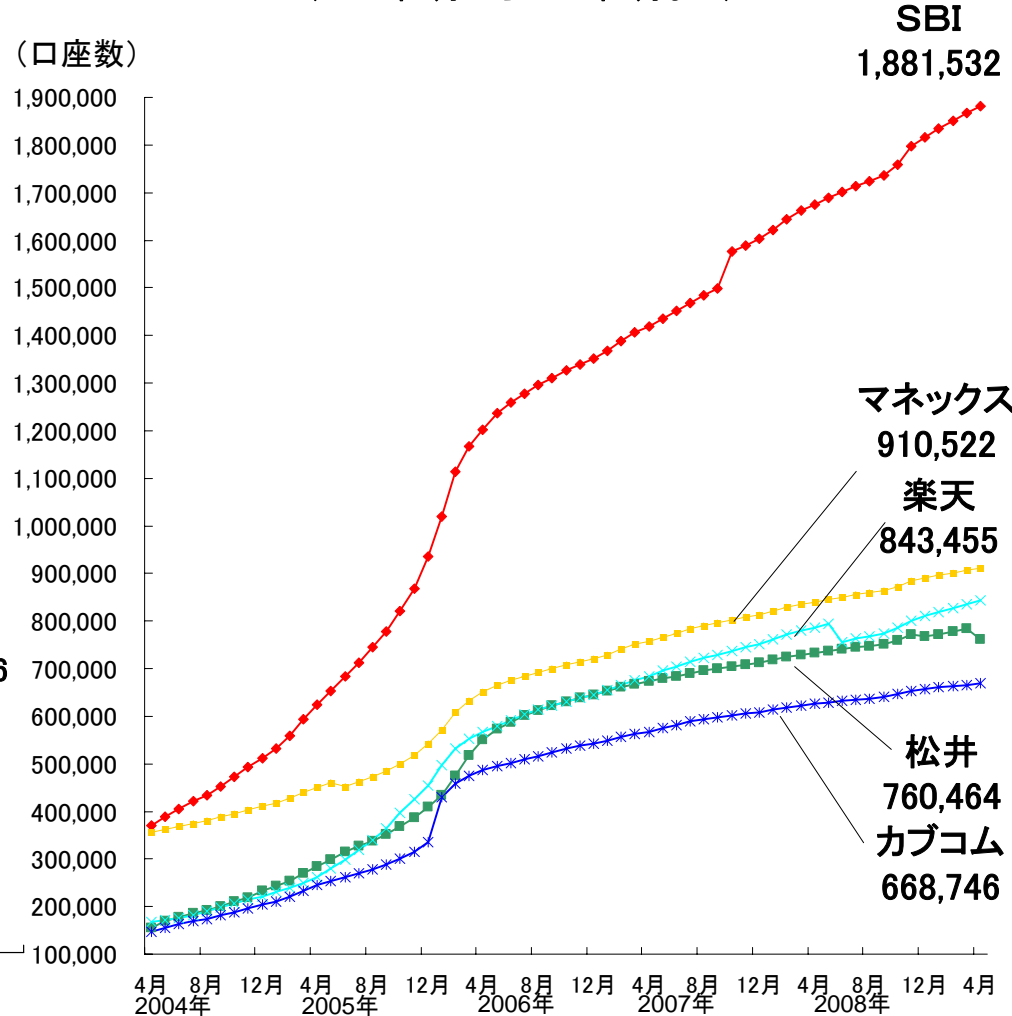
## 主要オンライン証券5社の口座数

(2009年4月末現在)



## 主要オンライン証券5社の口座数推移

(2004年4月から2009年4月まで)



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

- ※ 1. マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。 2. カブドットコム証券は2006年1月1日にMeネット証券と合併
- 3. (株)SBI証券(旧SBIイー・トレード証券)は2007年10月1日にSBI証券(株)と合併
- 4. 楽天証券は2008年6月に一部不稼動口座の閉鎖を実施
- 5. 松井証券は2008年12月と2009年4月に一部不稼動口座の閉鎖を実施

# 主要オンライン証券の獲得口座数比較

2008年4月～2009年3月の1年間の獲得口座数

2009年4月  
獲得口座数

15,024

7,533

3,823

-23,415 ※2

2,824

(獲得口座数)

206,123

200,000

150,000

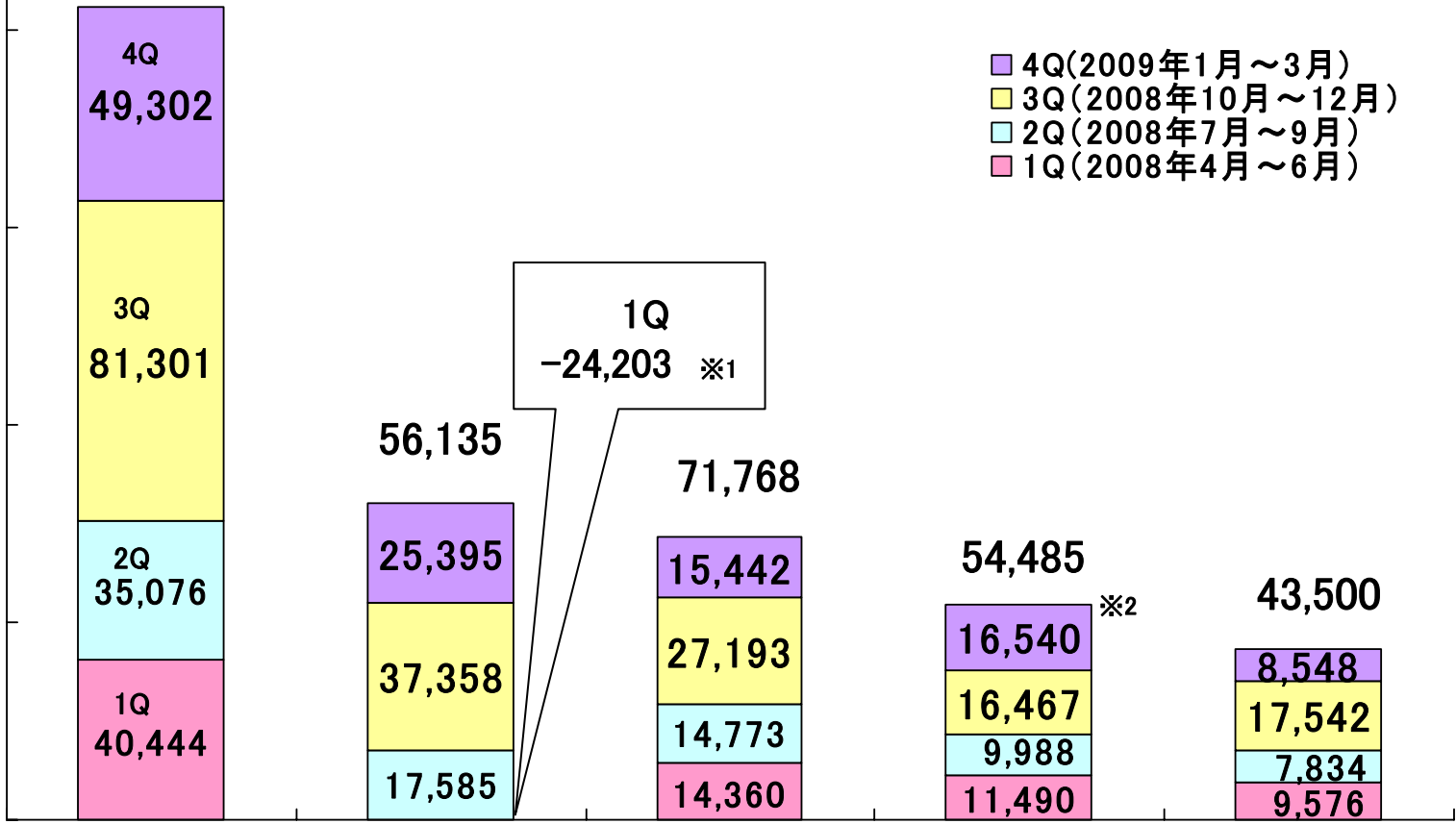
100,000

50,000

0

- 4Q(2009年1月～3月)
- 3Q(2008年10月～12月)
- 2Q(2008年7月～9月)
- 1Q(2008年4月～6月)

1Q  
-24,203 ※1



SBI  
(ネット口座のみ)

楽天

マネックス

松井

カブコム

※1 楽天証券は2008年6月に一部口座を閉鎖し、開示基準を開設ベースに変更

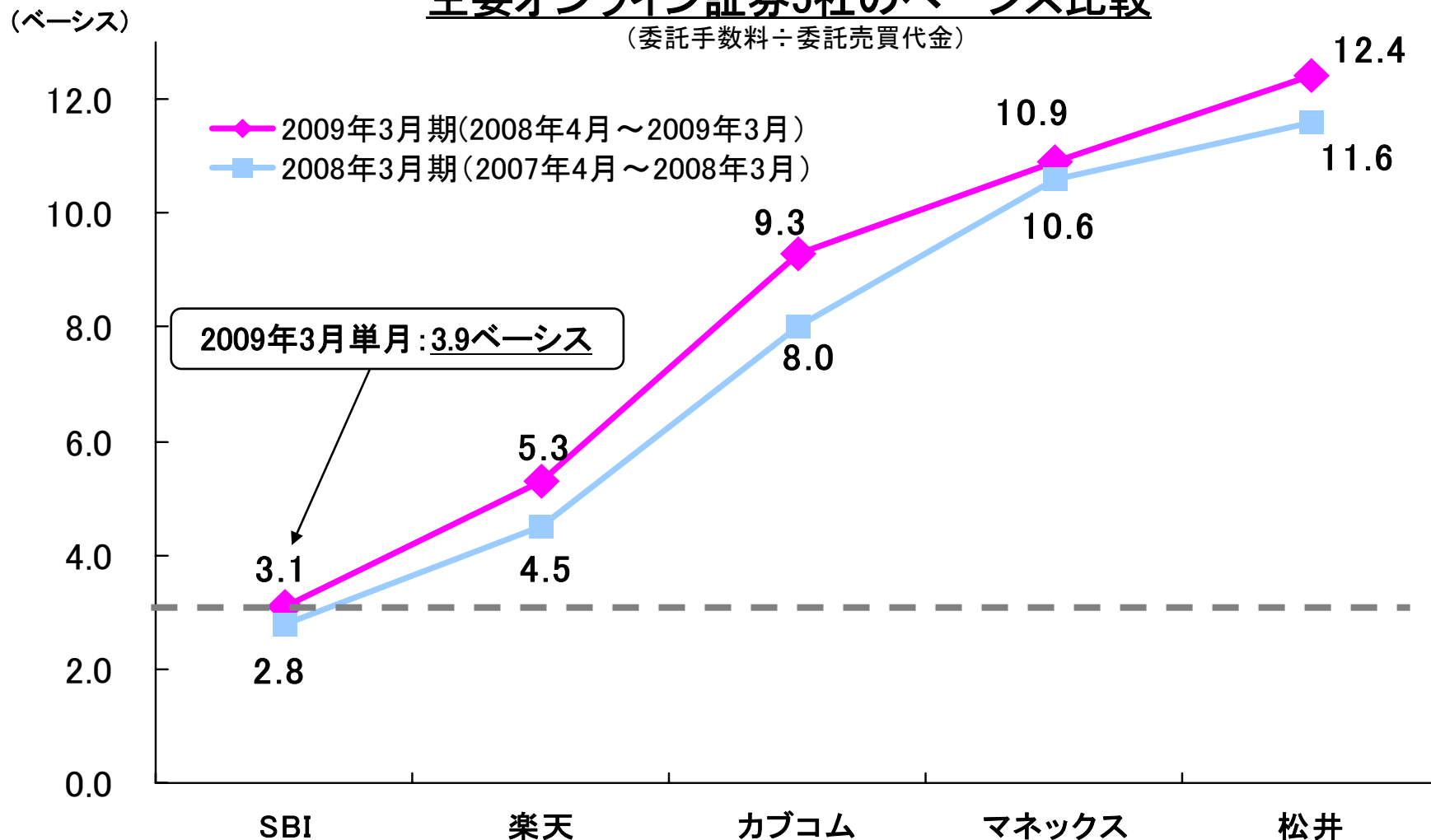
※2 松井証券は一部不稼動口座を2008年12月(11,140口座)及び2009年4月(28,846口座)に閉鎖

出所: 各社ホームページ等公表資料より当社集計

# 主要オンライン証券のベースス比較

## 主要オンライン証券5社のベースス比較

(委託手数料÷委託売買代金)

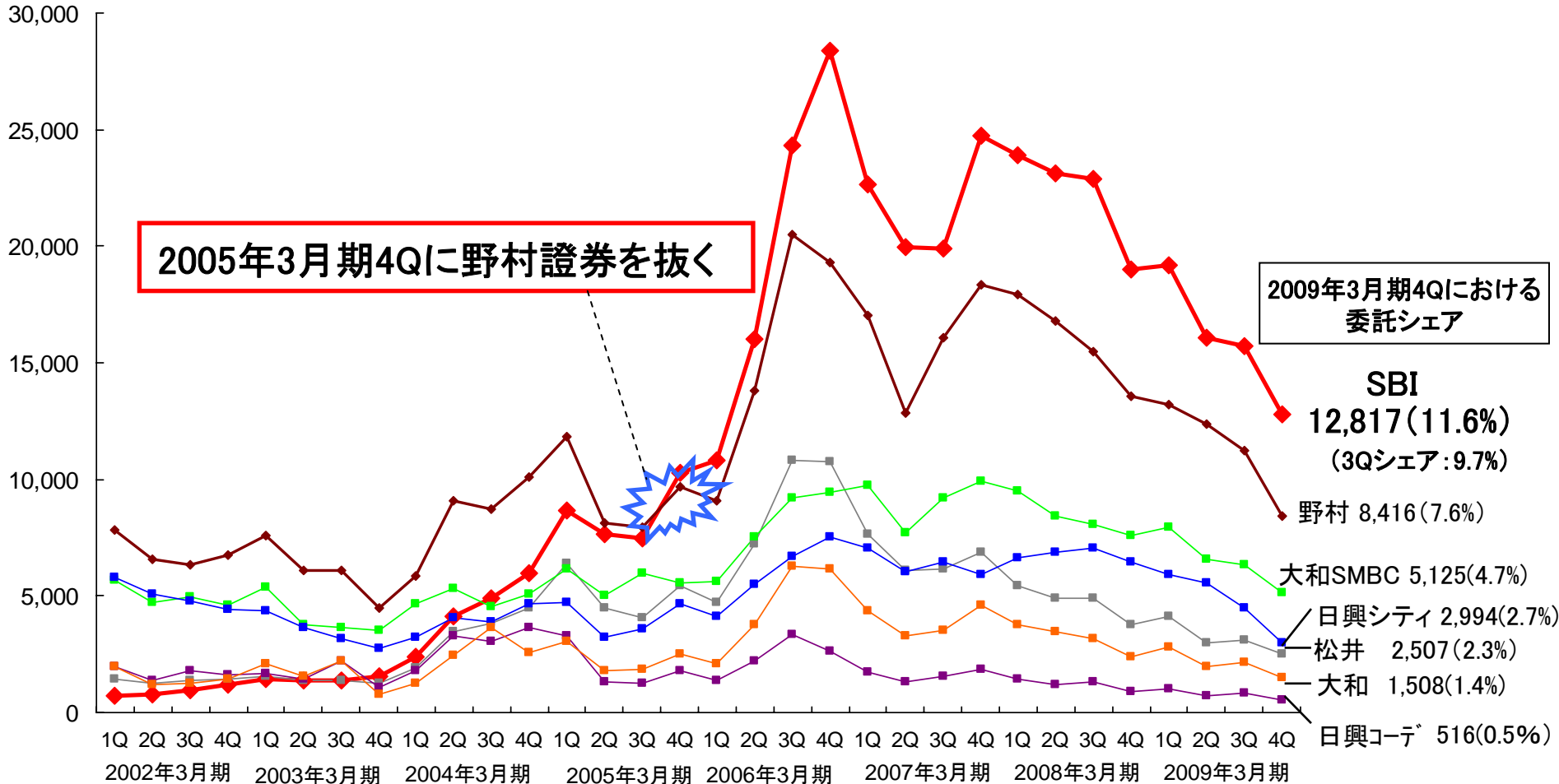


出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成  
委託手数料は決算短信より単体数値を使用  
SBI証券はインターネット部門のみの数値を使用

# 3大証券会社との株式委託売買代金比較

## 各社の株式委託売買代金の推移

(10億円)



出所: 証券会社各社・東証の公表数値をもとに当社作成 (SBI証券分には海外投資家からの注文を含みます)

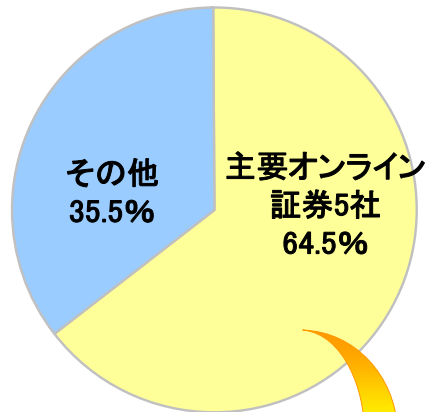
(単位: 10億円、括弧内各社委託売買代金を3市場委託で除したシェア)

# 主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

**SBI証券の2009年3月期は過去最高の38.7%に到達**

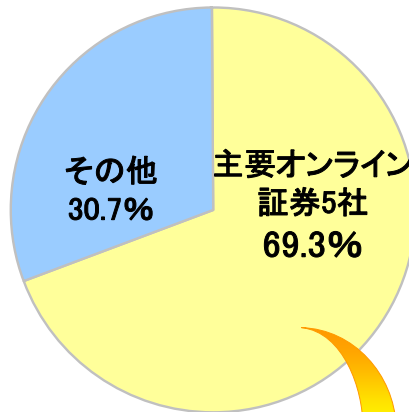
## 個人株式委託売買代金シェアの推移

**2007年3月期**  
(2006年4月～2007年3月)



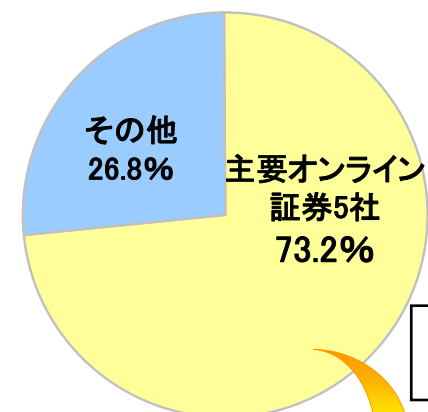
SBI証券	29.4%
楽天証券	13.5
松井証券	9.2
マネックス	6.5
カブドットコム	5.9

**2008年3月期**  
(2007年4月～2008年3月)



SBI証券	35.9%
楽天証券	13.5
松井証券	7.8
マネックス	6.2
カブドットコム	5.8

**2009年3月期**  
(2008年4月～2009年3月)



SBI証券	38.7%
楽天証券	14.4
松井証券	7.7
マネックス	6.3
カブドットコム	5.9

2009年3月単月  
42.0%

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

SBI証券はインターネット取引のみで算出

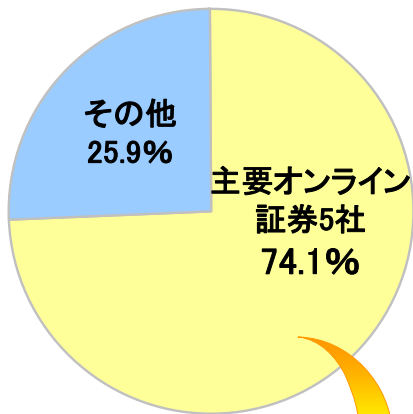


# 主要オンライン証券の個人信用取引委託売買代金シェア

## SBI証券の2009年3月期は過去最高の44.7%に到達

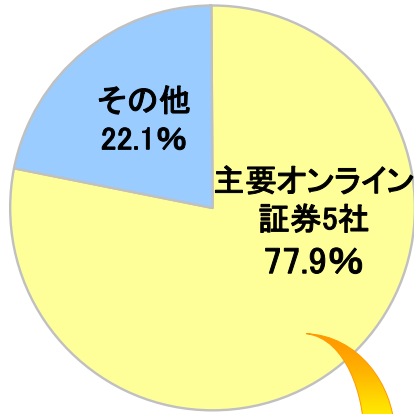
### 個人信用取引委託売買代金シェアの推移

2007年3月期  
(2006年4月～2007年3月)



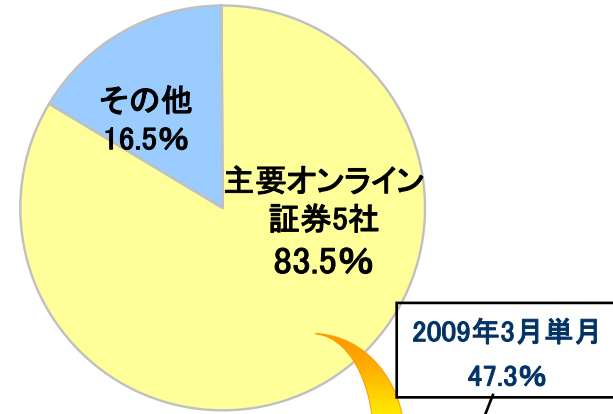
SBI証券	34.4%
楽天証券	14.9
松井証券	11.6
カブドットコム	7.1
マネックス	6.3

2008年3月期  
(2007年4月～2008年3月)



SBI証券	40.5%
楽天証券	15.6
松井証券	9.0
カブドットコム	6.6
マネックス	6.1

2009年3月期  
(2008年4月～2009年3月)



SBI証券	44.7%
楽天証券	16.5
松井証券	8.2
カブドットコム	6.5
マネックス	6.3

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
個人信用取引委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

SBI証券はインターネット取引のみで算出

PTS(私設取引システム)運営会社

## 【SBIジャパンネクスト証券】

(2007年8月27日営業開始)

(2009年3月期第3四半期より昼間取引開始)

PTS = Proprietary Trading System  
(独自の・私設の)

# 日本最大規模の私設取引市場に

他の私設取引市場において売買代金が低迷する中、  
当PTSは2ヶ月連続で月間売買代金の過去最高記録を更新中

## PTS各社の月間売買代金比較('09年)

(単位:百万円)

運営会社	取引開始時期	2月			3月			4月		
		昼間	夜間	合計	昼間	夜間	合計	昼間	夜間	合計
SBI ジャパン ネクスト	07年 8月	22,413	14,321	<b>36,734</b>	45,823	20,806	<b>66,629</b>	81,816	29,025	<b>110,841</b>
kabu.com	06年 9月	10,475	187	10,662	15,241	271	15,512	13,675	473	14,149
マネックス	01年 1月	—	1,392	1,392	—	2,101	2,101	—	3,041	3,041
大和	08年 8月	—	984	984	—	1,341	1,341	—	1,739	1,739
松井	08年 5月	11	—	11	8	—	8	23	—	23

(※)売買代金は各社HP、日本証券業協会HP、日経QUICKより当社にて集計

なお上記は当社独自に集計したものであり、各社の今後の公表数値とは異なる場合があります

シングルカウントとなっており、売りと買いの合計ではありません

**1,000億円を突破**

5月の月間売買代金:  
628億円(5月21日時点)

# 証券会社に広がりつつある最良執行の流れ

金融商品取引法第40条の2 金融商品取引業者は、顧客の注文について、**最良の取引の条件で執行するための方針及び方法**を定めなければならない

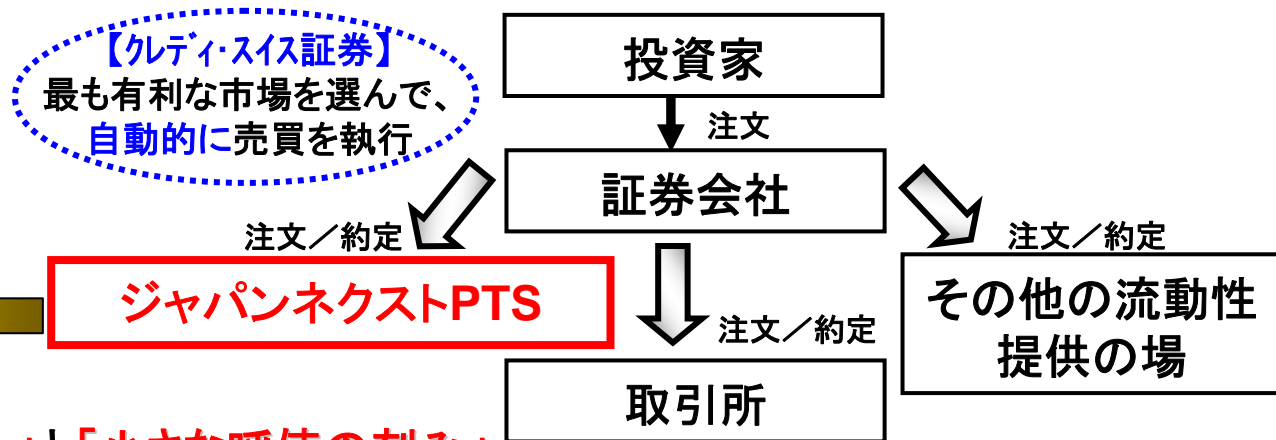
従来の最良執行  
||  
取引所で執行すること

流動性  
の分断

**これからの最良執行**  
||  
取引所やPTS等々を比べて  
最も有利な市場で執行すること

記事

最良執行には「**価格**」「**スピード**」「**約定可能性**」などを考慮



**「高性能システム」と「小さな呼値の刻み」**  
などを特徴とし、**流動性を増やしつつある**  
**市場が今後証券会社や投資家に最良執行**  
**機会を提供していくことに**

SBI証券でも、投資家にとって有利な市場を自動的に選んで注文を行うスマートオーダールーティング(SOR)機能を導入すべく準備を検討中

# 呼値の刻みは東証の10分の1以下(昼間取引)

## ◆呼値の刻み:

昼間取引における「呼値の刻み」は、**東証の10分の1以下**(夜間は東証と対応)



**取引所の最良気配よりも有利な値段で取引できる機会の提供**

ジャパンネクストPTS:

ex) 2009年4月21日14:41時点の板の状況

0#8411.JN	みずほFG	コール	JNX
現値 ↓	193.2	14:41	(14:41) 売気配 買気配 (14:41)
	-3.8	-1.93 %	500 197.0
	193.8	14:32	2100 195.0
	193.2	14:32	200 194.9
	193.8	14:28	200 <b>194.0</b>
	193.2	14:28	400 <b>193.8</b>
			<b>193.2</b> 101200
出来高	100		5100
累計出来高	743500	14:41	200
売買代金	143433.2	14:41	1100
終値	*197.0	(09-04-20)	188.0 500

値段の水準		呼値の刻み		
		ジャパンネクストPTS (昼間)	カブコムPTS	東証
1円以上	2,000円以下	0.1円	1円	1円
2,000円超	3,000円以下	0.5円	1円	5円
3,000円超	30,000円以下	1円	1円	10円
30,000円超	50,000円以下	5円	10円	50円
50,000円超	300,000円以下	10円	10円	100円
300,000円超		100円 (一律)	100円~10,000円	1,000円~100,000円

(ロイター3000Xtraより抜粋)

※取引所の刻み値

※(取引所の刻み値の中にある) ジャパンネクストPTSの刻み値

ジャパンネクストPTSの最良買気配が**193.2円**、最良売気配が**193.8円**  
 →取引所の最良気配の中に、同社の最良気配が入っていることとなる

# 米国では約40年の歴史を有するPTS

## ＜米国におけるPTSの主な歴史＞

1969年 インスティネット設立。ロイター端末上で機関投資家どうしが取引を成立させる機能を提供。

90年代中頃 アーキペラゴ(アーカ)、アイランドなど多くのPTSが設立される。

2001年 アーキペラゴが取引所認可取得、アーカ取引所になる。

2002年 インスティネットとアイランドは統合、インスティネットがPTSとして存続。

2005年中頃には、ナスダック銘柄の6割程度はPTSを通じて売買執行されるように

⇒PTSが高いシェアを獲得し始め、市場間競争が激化、既存取引所による再編が進む

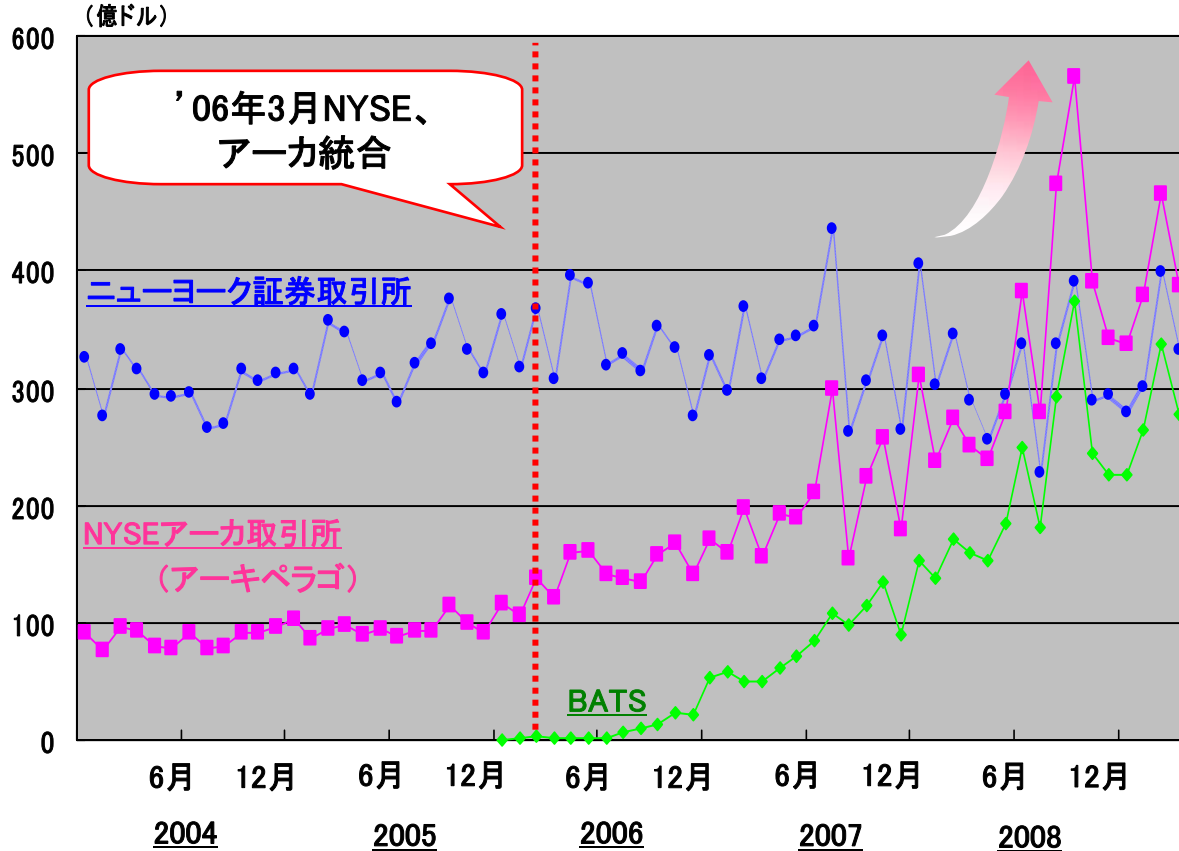
2005年 ナスダックがインスティネットを買収。

2006年 ニューヨーク証券取引所が元PTSのアーカ取引所を統合。

“**NYSEアーカ取引所**”が誕生(NYSEグループの電子取引所として、  
本体からは独立して運営)

# 米国においては取引所に匹敵する規模となったPTS

## 売買高推移(2004年1月~2009年4月)



NYSEアーカ取引所  
(旧アーキペラゴ、元PTS)

ニューヨーク証券取引所

BATS(ハッツ)(元PTS)

2005年設立の新興勢力ながら、2008年には取引所化し、取引規模も急拡大している。

(出所:ロイターにて集計、BATSの売買高については自社HPより)

※統合前のNYSEアーカ取引所はアーキペラゴの売買高

## ⑥ SBIグループに多くの会社がありますが、 相乗効果はあるのでしょうか？

(1) 現在までの企業生態系としての成長

(2) SBIグループ内シナジーの徹底追求



## (1) 現在までの企業生態系としての成長

# インターネット時代において企業生態系の構築は 圧倒的な競争優位性を実現するための基本条件



一企業

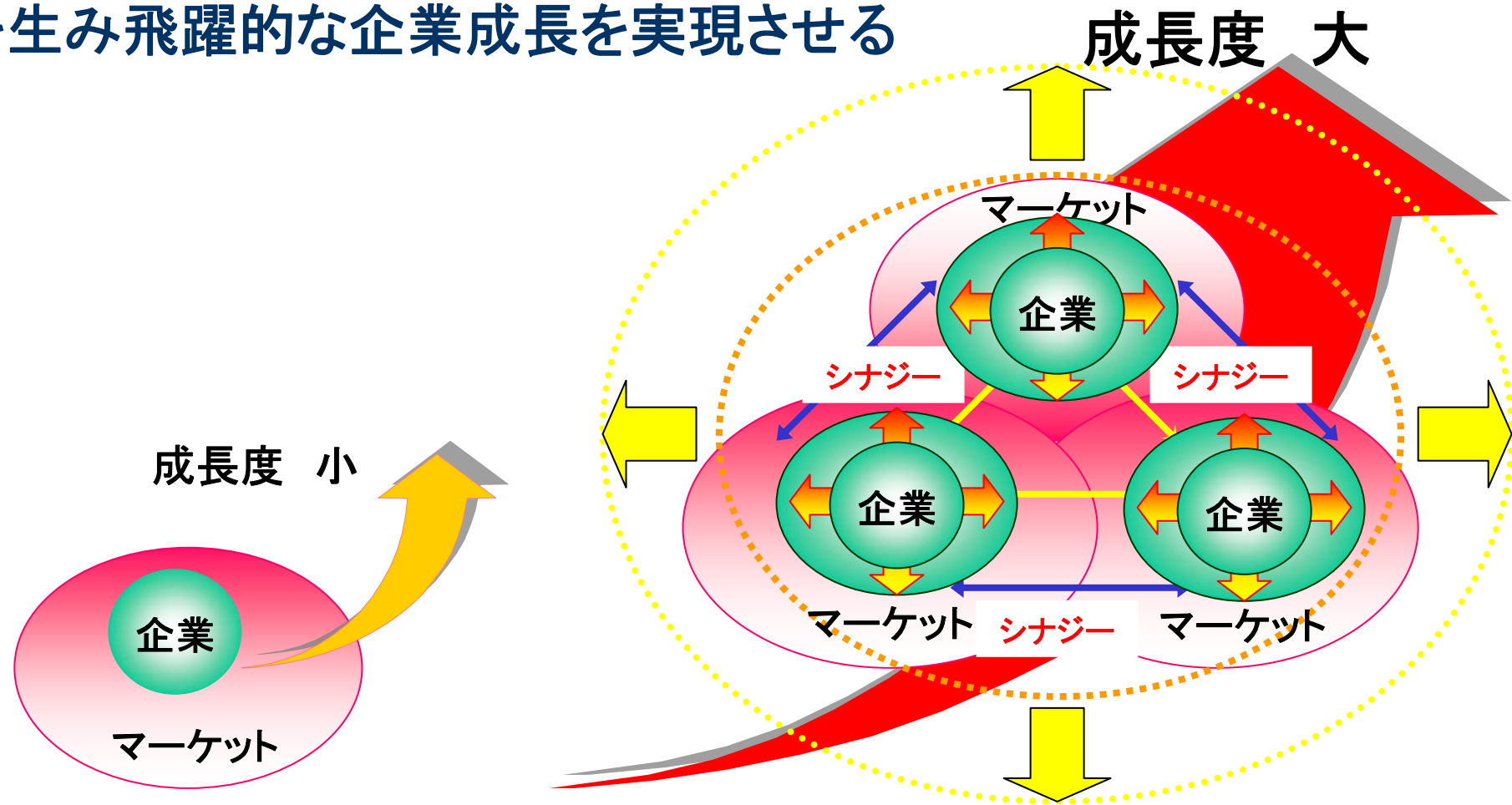
**VS**

企業生態系



一企業だけでは勝つことはできない!!

企業生態系の形成・発展が構成企業相互の  
ポジティブなシナジー効果を促進するとともに、  
それぞれのマーケットとの相互進化のプロセス  
を生み飛躍的な企業成長を実現させる

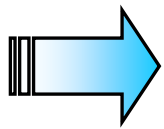


単一の経済主体として  
捉えた企業

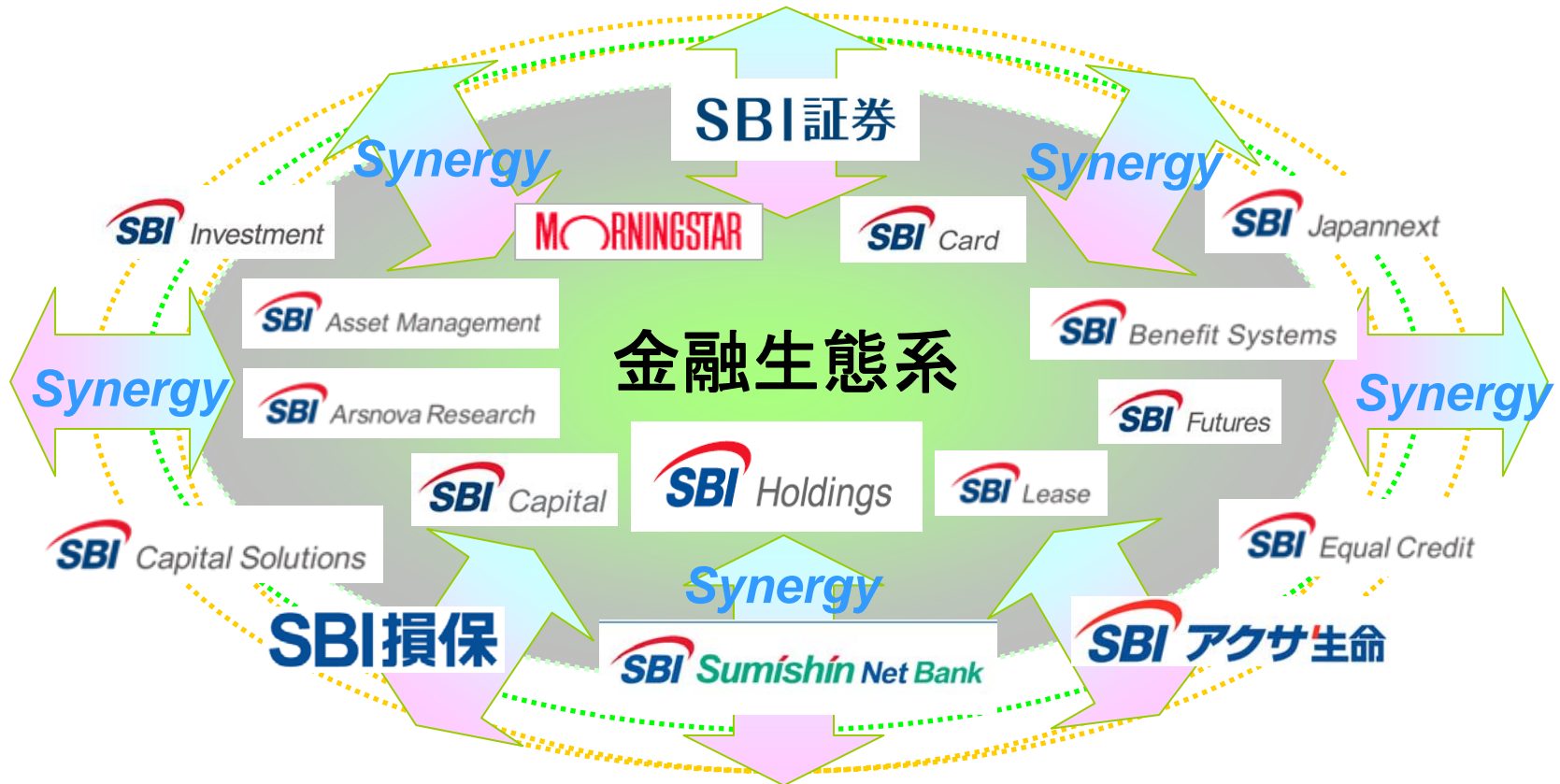
多彩な構成員と結びつき  
相互進化がなされる「企業生態系」

# SBIグループによる金融生態系の構築

SBIグループ設立以降、金融事業分野で有力パートナーとの  
ジョイントベンチャーを含む多様な事業会社を設立し金融生態系を拡大



ワンストップ・サービスを実現する、世界でも極めてユニークな、ネット金融を中心とした金融コングロマリットとなる



# 拡大するSBIグループの顧客基盤

**SBIグループの顧客データベースは、約800万件にまで拡大**  
 (米国E\*TRADE FINANCIALは450万口座)

主なグループ企業・事業部		2005年3月末	2008年3月末	2009年3月末
SBI証券	(口座数)	59万	166万	187万
インズウェブ	(延べ取引者数)	69万	240万	319万
イー・ローン	(延べ取引者数)	14万	57万	67万
SBIモーゲージ	(実行残高)	681億円	3,651億円	4,639億円
住信SBIネット銀行	(口座数)	0	12万	41万
SBIベリトランス	(利用店舗数)	1,010	2,500	2,717
SBIカード	(カード発行枚数)	(06年11月開始)	3万2千	4万7千
モーニング・スター	(新ポートフォリオ登録者数)	(06年秋より)	3万1千	4万
生活関連比較サイト	(年間利用者数)	5万	29万	51万
MoneyLook(マネールック)	(登録者数)	30万	62万	65万
オートックワン	(年間利用者数)		212万	180万

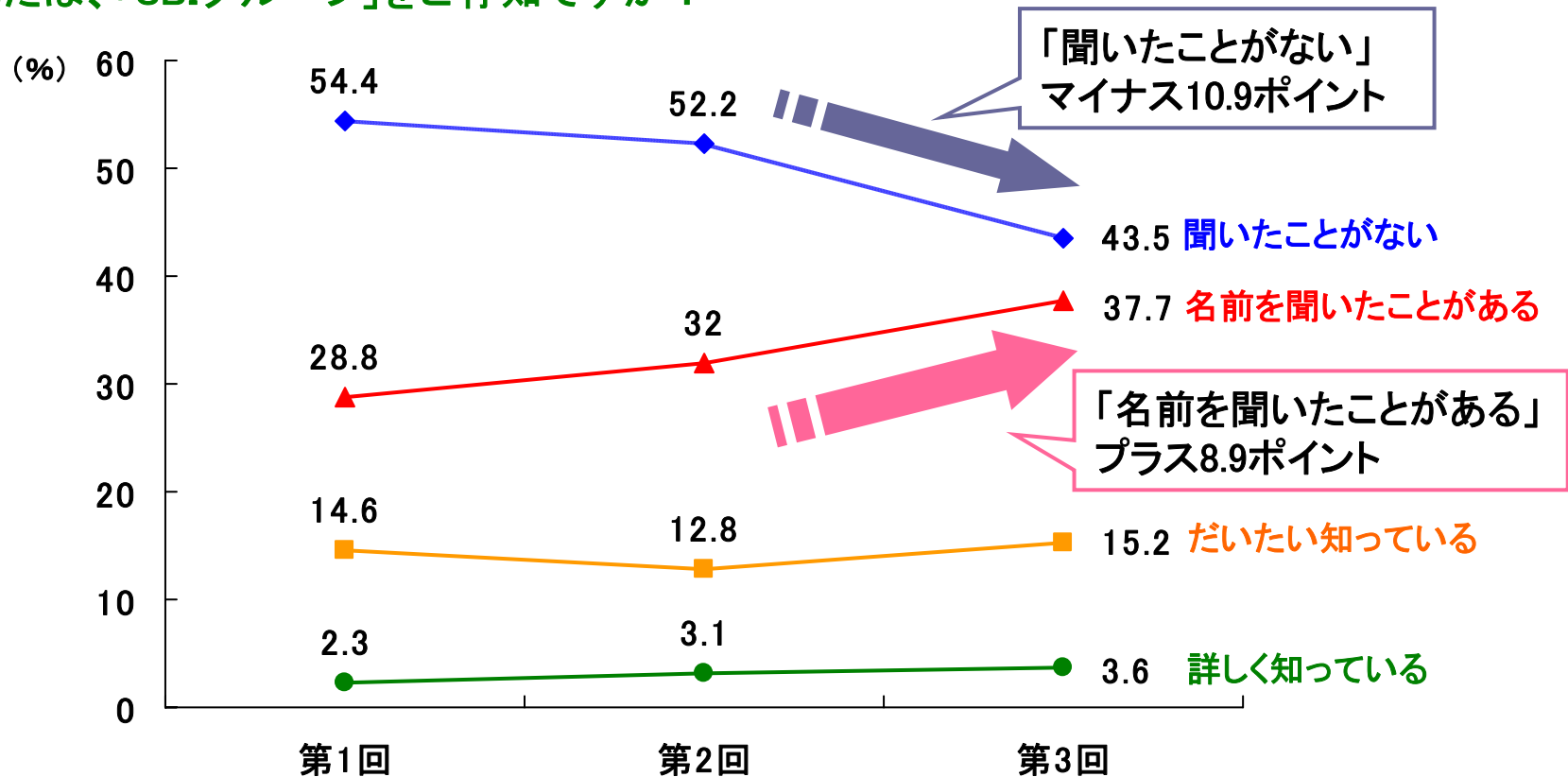
※各サービスサイトの性質上、複数の取引を行ってもユニークユーザーを認識しうる場合には重複を省く一方、グループ企業間における重複顧客はダブルカウントされています。 84

# SBIグループの認知状況について

～2008年10月より、テレビ・ラジオにてSBIグループのCMを実施～

## 第3回 SBIグループ認知度調査

◆あなたは、「SBIグループ」をご存知ですか？



「SBIグループ」を知っている割合が過半を超え、着実に認知度が向上している結果に。

## (2) SBIグループ内シナジーの徹底追求

# SBIグループのシナジー効果の具体例( i )

## 「SBI証券」と「住信SBIネット銀行」

決済機能

住信SBIネット銀行

 SBI Sumishin Net Bank

 Synergy SBI証券

資産運用機能

連携サービス例: アグリゲーション機能

住信SBIネット銀行でSBI証券の残高を同時に表示。株式情報へのリンクでSBI証券での証券取引も可能。

追加保証金等自動振替サービス

追加保証金が必要な場合に、代表口座の円普通預金からSBI証券口座に自動的に振替えるサービス。

SBIハイブリッド預金(証券取引の売買代金自動入出金サービス)

SBI証券専用銀行口座(SBIハイブリッド預金)残高を、SBI証券における株式等の現物取引の買付余力の計算、信用取引における信用建余力の計算、現引可能額の計算に利用可能。

口座開設同時申込

SBI証券の口座開設と同時に住信SBIネット銀行の口座開設手続きが可能。  
(SBI証券の銀行代理業)

SBI証券の口座開設申込者の約5割が住信SBIネット銀行の口座を同時申込

(※)

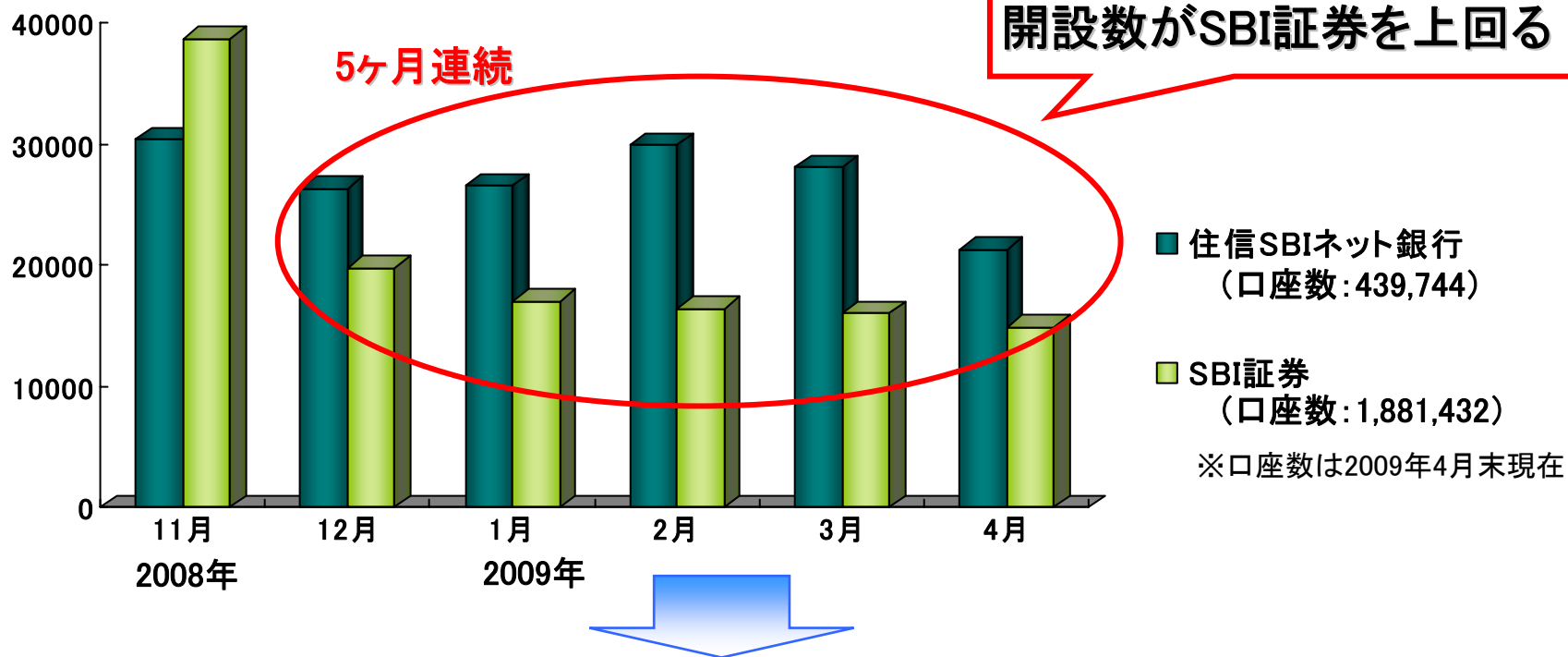
※2009年3月末時点<sup>87</sup>



# 「証券から銀行へ」から「銀行から証券へ」

現在のSBIグループの顧客の流れは、SBI証券⇒住信SBIネット銀行

住信SBIネット銀行とSBI証券の月間口座開設数の推移  
(2008年11月末～2009年4月末)



将来的には、住信SBIネット銀行⇒SBI証券への顧客移動へ

# SBIグループのシナジー効果の具体例 (ii)

## 「インズウェブ」と「SBI損保・SBIアクサ生命」

国内最大級の「保険のマーケットプレイス」



中立的な立場で多彩な保険商品の一括資料請求・一括見積もりサービスを提供

### 自動車保険

参加損害保険会社等: 22社

自動車保険見積もり数:

**年間75万件超** (08年度)

### 生命保険

参加生命保険会社等: 22社

火災保険

バイク保険

ドライバー保険

個人年金

学資保険

海外旅行保険

ゴルフ保険

レジャー保険

ペット保険

### SBI損保

～契約件数の**約5割**がインズウェブ利用者～



～インズウェブ経由での**契約件数が徐々に増加**～

その他損害保険会社

その他生命保険会社

その他金融機関等

# SBIグループのシナジー効果の具体例 (iii)



## 「SBI証券・住信SBIネット銀行」と「SBI損保・SBIアクサ生命」

SBIグループの顧客基盤(ネット顧客主体)

**SBI証券** 188万口座

**住信SBIネット銀行** 44万口座



SBIグループのリソースを  
活用するネット生損保事業

SBIグループの  
ネットチャネル



年間利用者75万人

日本最大級の「保険一括見積りサイト」



**SBI損保**

•2009年4月～銀行窓販売チャネルとして住信SBIネット銀行での取り扱い開始

AutoCone 年間利用者約180万人

日本最大級の「新車見積りサイト」

**Synergy**

**SBI アクサ生命**



ユーザー数65万人

口座管理ソフト



ローン比較



投資情報



【代理店チャネルの契約件数シェア】

- ・SBI証券 : 約13%
- ・住信SBIネット銀行: 約12%

(※2009年4月実績)

# SBIグループのシナジー効果の具体例 (iv)

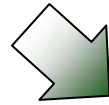
## 「SBI損保」と「SBIオートサポート(リアルの販売チャネル)」

SBIオートサポートの **中古車販売業者登録数は既に977社に(\*)**

(\*)2009年5月14日現在



- ・オークション会場運営ノウハウ(国内3ヶ所運営)
- ・会員企業: 14,000社以上
- ・年間総出品台数: 約70万台



30%



70%



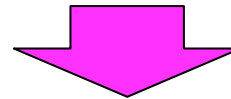
**SBIオートサポート**

【自動車関連金融商品】

**2008/10/14 営業開始**

中古車販売業者を通じた購入者への金融サービス提供を支援

SBI損保「**自動車保険**」



**SBI損保**

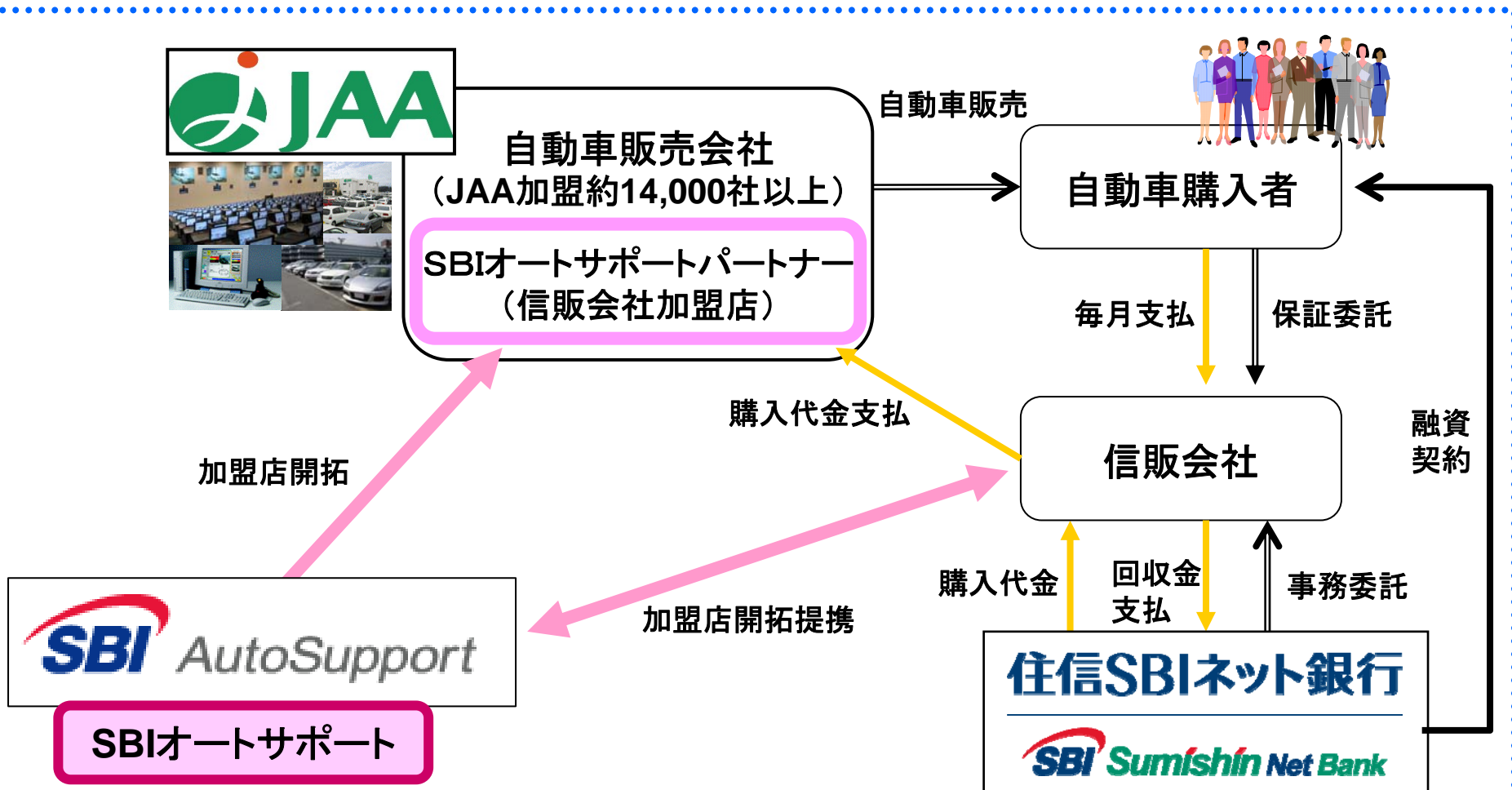
収入保険料倍増  
を目指す!



# SBIグループのシナジー効果の具体例 (v)

## 「住信SBIネット銀行」と「SBIオートサポート(リアルの販売チャネル)」

2009年度上期、住信SBIネット銀行「オートローン」販売開始を目指す



# SBIグループのシナジー効果の具体例(vi)

## 「SBIカード(VISA)」と「SBI証券・住信SBIネット銀行・SBI損保・SBIアクサ生命」

### SBIカードVISA スケジュール

- ・2009年2月、VISAカードのライセンス取得
- ・2009年3月末現在、発行枚数は4万7千枚超と、顧客基盤が拡大
- ・2009年度中を目処に、VISAカード発行を開始予定

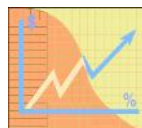
### 設計中の主なサービス

### ～SBIグループ顧客への優遇サービスを検討中～

SBI Card



・ポイントサービス: SBIグループ内企業の取引状況等に  
応じた高ポイントの付与



・レコメンドツール: 居住地域等の属性データを基に顧客ニーズ  
を把握、SBIグループの商品をレコメンド



・ショッピングモール: ポイントを活用した、様々な特典や  
優遇サービスの提供

*Synergy*

SBIグループの顧客基盤

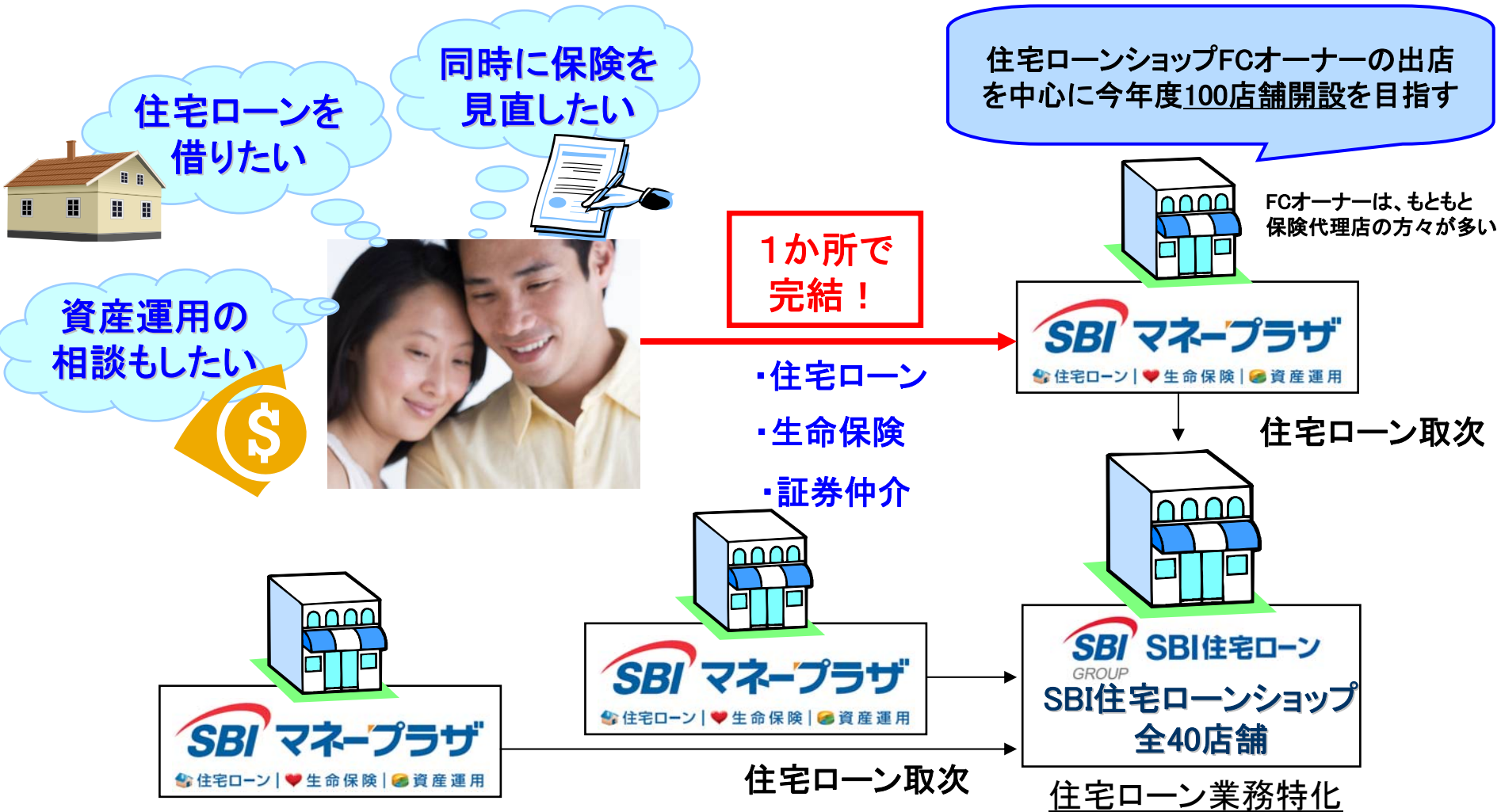
SBI証券

住信SBIネット銀行

SBI損保

# 「新・マネープラザ構想」

SBIグループ内外の金融商品を取り扱う来店型金融ワンストップ・サービスを展開



SBI証券の23店舗の一部でも様々な金融商品を取り扱うことを検討中

(SBIモーゲージ運営) 94

⑦ 海外関連事業はどのような状況でしょうか？



# New Horizon Fund の運用状況

05年5月の運用開始から、投資先10社のうちこれまでに6社が上場。一部売却等により、08年度46億円の営業利益を計上（設立から08年度末までの累計では77億円）。08年度4Qより同ファンドの損益を四半期毎に計上するため、各四半期の株式売却が即座に収益インパクトを与えることとなる。

(単位:百万USDドル)

投資先名	投資残高	種類	IPO/M&A 予定	キャピタルゲイン		
				前期末	2009年 3月末	5月22日現在
Sichuan Meifeng Chemical Industry	12.9	A株		63.7	26.4	26.1
Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development	5.9	A株		144.6	66.6	64.2
China Printing & Dyeing Holding	-	普通株		0.2	-	※1 -
Yingli Green Energy Holding	-	普通株		4.5	-	-
Kingsoft	9.4	普通株		2.3	4.4	13.9
Goldwind Science and Technology	1.2	A株		124.9	29.9	35.6
China Stem Cells Holdings	4.1	プレIPO	2009	17.6	17.6	17.6
Jiangsu Ealong Biotech	2.5	プレM&A	2010	5.6	5.6	5.6
Shineway Group	20.4	プレIPO	2010	15.0	15.0	15.0
Cathay Industrial Biotech	12.0	プレIPO	2011	79.1	79.1	79.1
<b>合計</b>	<b>68.4</b>			<b>457.5</b>	<b>244.6</b>	<b>257.1</b>

IPO済  
時価評価

IPO/M&A  
未済  
予想評価

(約458億円) (約240億円) (約242億円)

【受領分配金額】※2

【09年度以降の見積額】(2009年5月22日現在の見込)

設立~2007年度	2008年度1-3Q	2008年度4Q	2009年度	2010年度	2011年度	09年度以降の 総分配見積額
9億円	38億円	23億円	70億円	28億円	31億円	129億円

注1: 分配金の受領は、ロックアップの外れる09年以降本格化する見込みです。

注2: 分配金見積額は、現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これらの金額が確定しているわけではありません。

※1 清算中 ※2 売却額より売却に付随する費用を差し引いた額。08年度4Q中よりGPへの成功報酬支払いが発生したため、分配金見積額は前回発表時より減額調整されております。

# 海外VCファンドの現在の運用状況

## New Horizon Fund

比較的簿価の低いNew Horizon Fundは、中国株式市場がやや持ち直す中、継続して保有株の売却を実施。09年4月以降の税引後売却額は合計で**3,508百万円**。

2010年3月期第1四半期の保有株式売却状況(5月18日時点)

	Zoomlion	Goldwind	Kingsoft
株数	216万株	300万株	2,693万株
税引後売却額	633百万円	1,615百万円	1,260百万円

・休止していた投資を、一部の海外ファンドでは再開

## Fullerton Asia Financial Fund

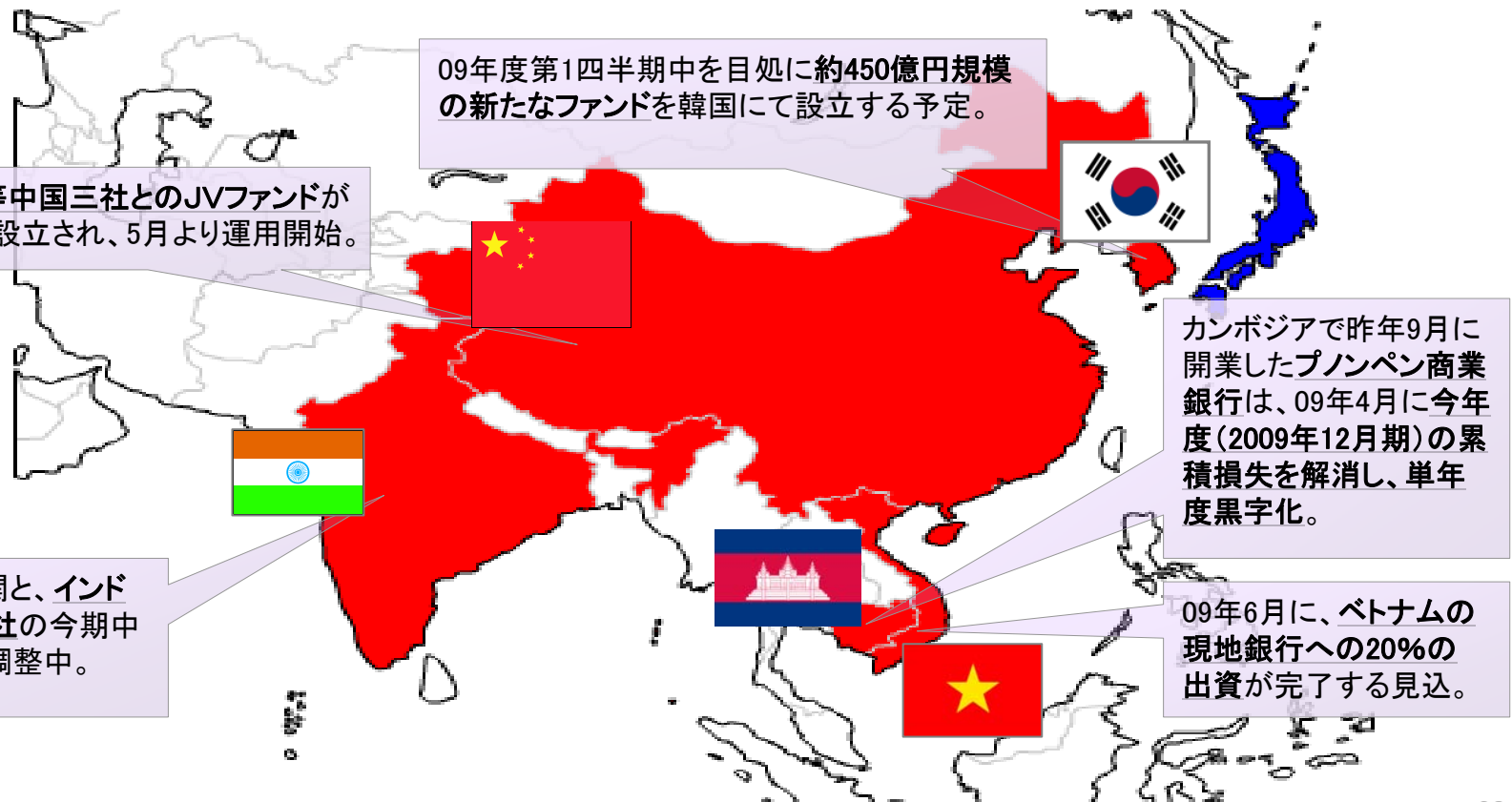
08年10月に運用を開始したFullerton Asia Financial Fundは、香港・台湾・東南アジア諸国での運用が好調に推移。世界的金融危機の最中、5月20日時点で約68百万USDを運用し、15.6%の利回りを確保している。

# アジアの成長力をSBIの成長力へつなげる

～ファンド運営事業を軸に様々な金融事業へも展開～

世界的にGDPのマイナス成長が見込まれる中、09年度以降も安定した経済成長の見込まれる中国やインドなどアジア新興国への進出・事業展開を更に加速

新興諸国の潜在成長力を取り込みアジアの企業生態系を構築、  
グループの継続成長を実現する



# SBIベリトランスがアジア向けEC事業者を支援する コンソーシアムを発足

## 海外向けEC展開の発展ロードマップとコンソーシアム 「E Commerce for Asia Alliance」(:ECAA)

### フェーズ1

(「佰宜杰.com」での展開)

- ・モール出店
- ・商品準備のみ
- ・モール内での制約

### フェーズ2

(自社サイト構築)

- ・自社ドメイン取得
- ・自由度のあるサイト  
(デザインその他)
- ・インフラの個別準備

言語、商習慣、  
物流、決済・・・  
大きなハードル

### フェーズ3

(現法での販売)

- ・現地法人
- ・現地在庫  
(無在庫も可能)
- ・現地法令への対応

支援

### 【ECAA】(E Commerce for Asia Alliance)

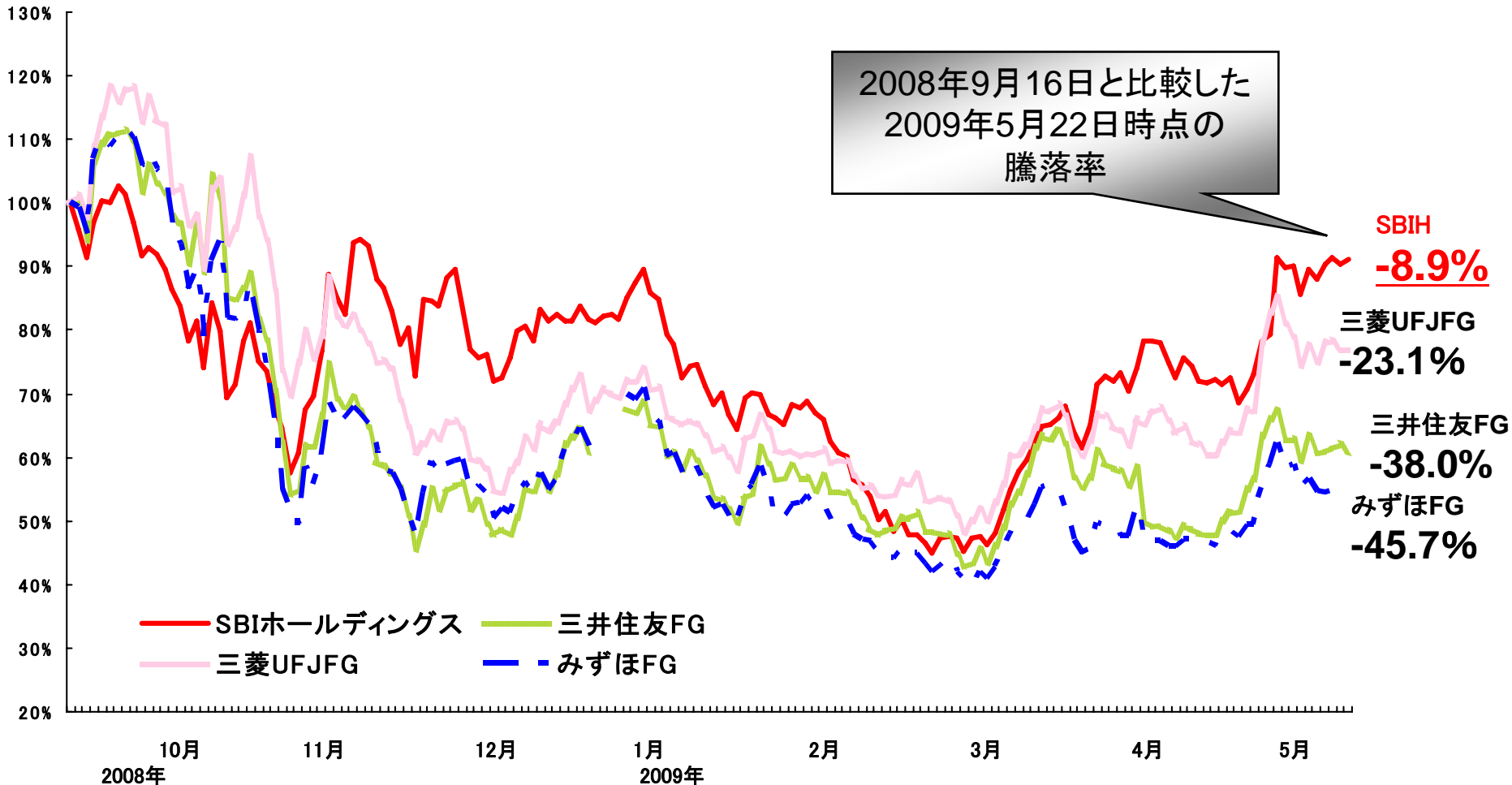
- ・有力なECインフラ提供企業16社にて共同設立(SBIベリトランス含む)
- ・顧客企業が自社でまかなえない部分を、各プロセスごとに参加企業が相互補完
- ・それぞれの顧客企業にあわせたパッケージプランの提案など、海外向けEC展開を支援

主な参加企業: ANA、日本郵便(輸送)、アドウェイズ(ネット広告)、システムインテグレータ(サイト構築)・・・など

⑧ 株価についてはどう考えていますか？

# リーマンショック以降の SBIホールディングスとメガバンク3行の株価の推移比較

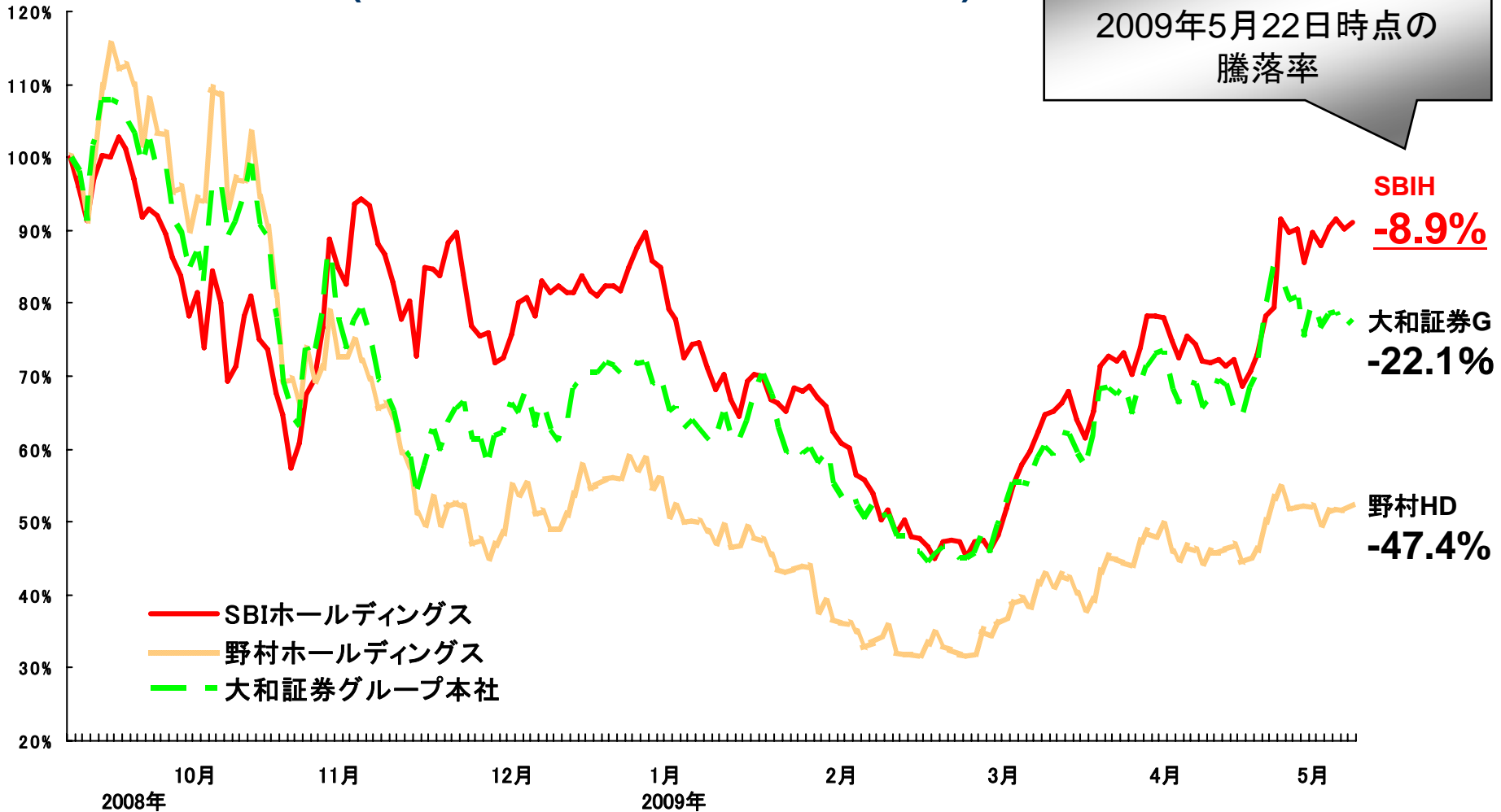
(2008年9月16日 ~ 2009年5月22日)



# リーマンショック以降のSBIホールディングス、野村HD、大和証券Gとの株価の推移比較

(2008年9月16日 ~ 2009年5月22日)

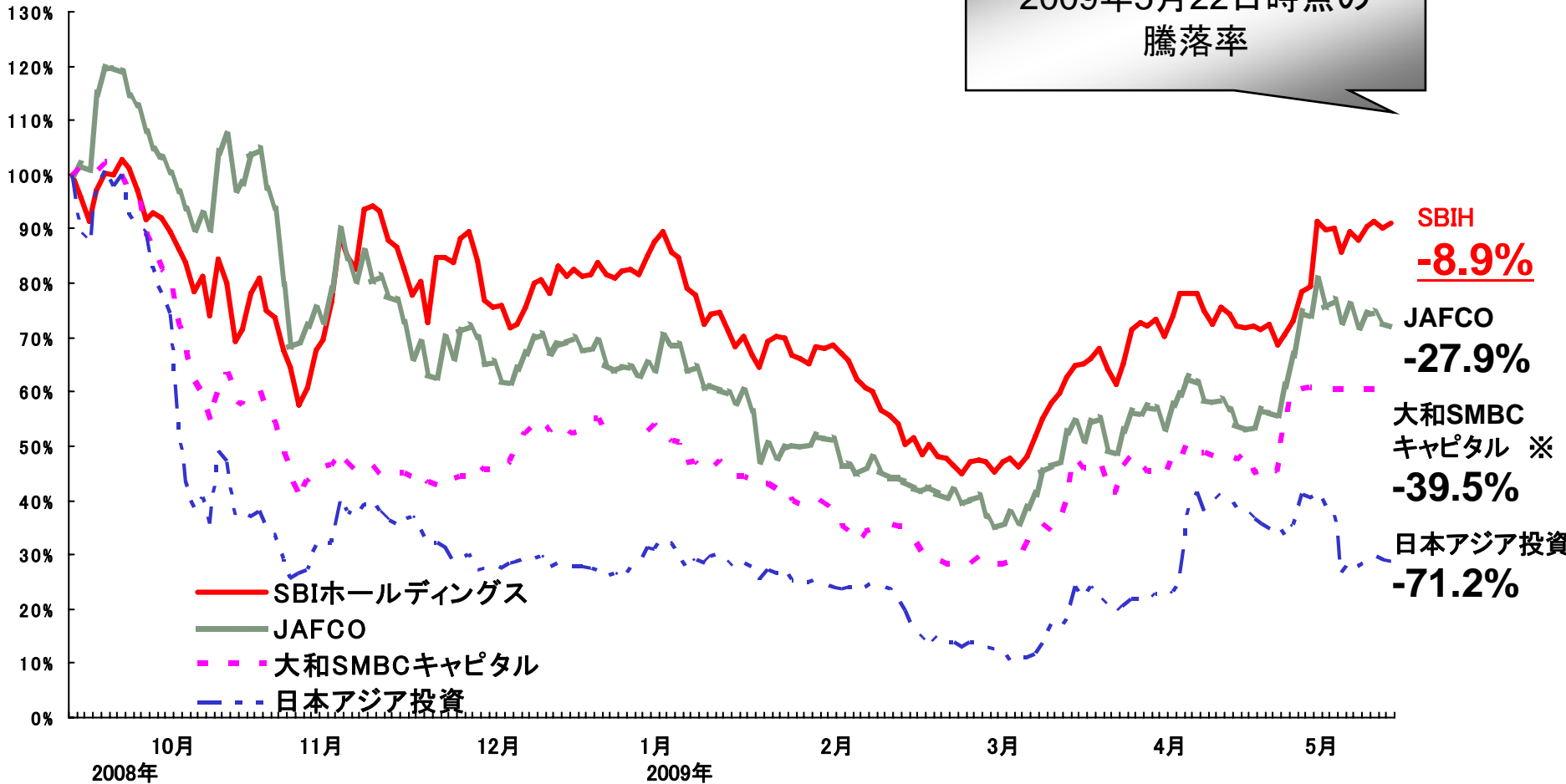
2008年9月16日と比較した  
2009年5月22日時点の  
騰落率



# リーマンショック以降の SBIホールディングスとVC各社との株価の推移比較

(2008年9月16日 ~ 2009年5月22日)

2008年9月16日と比較した  
2009年5月22日時点の  
騰落率



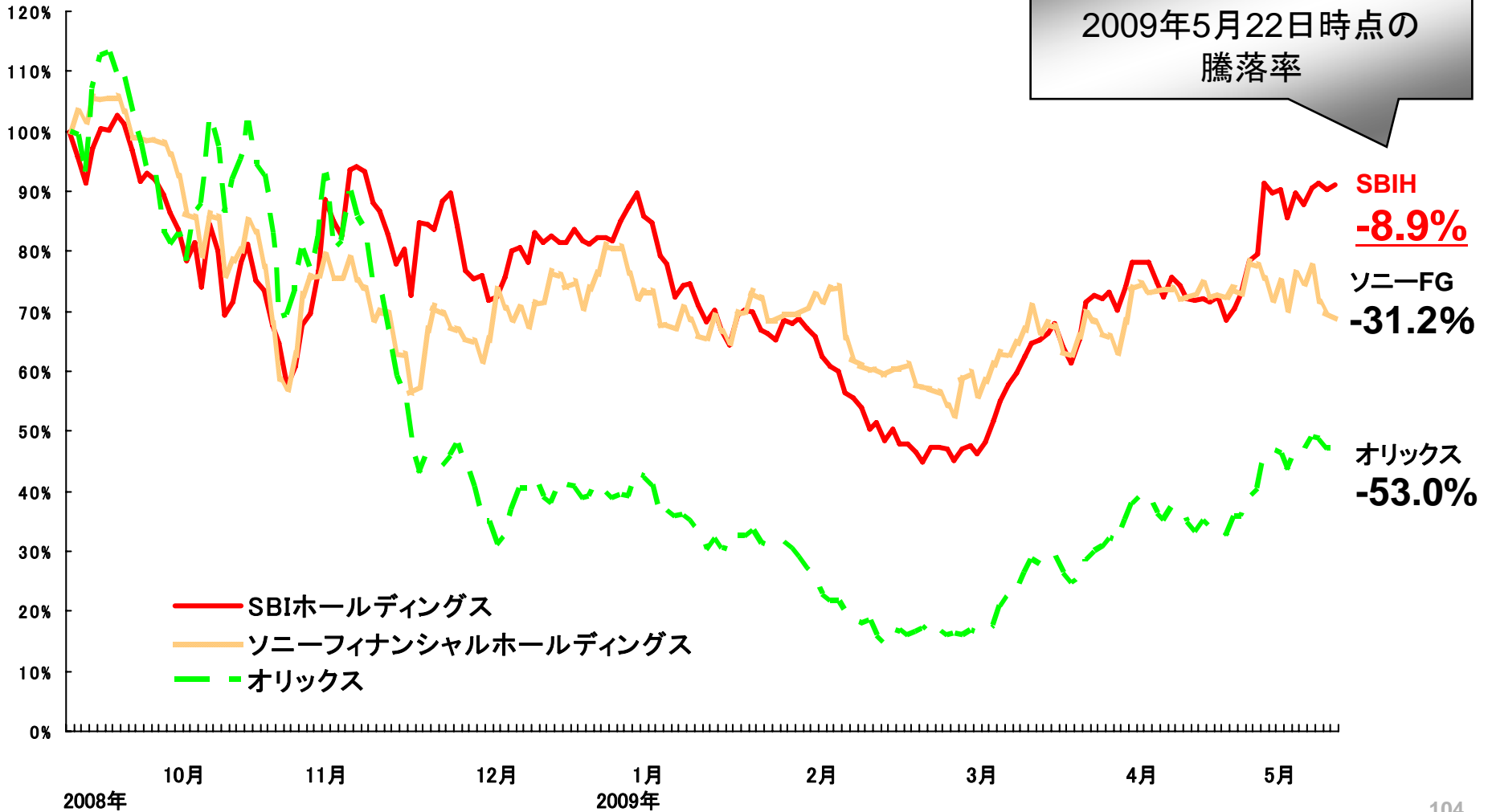
※2009年1月より株式が100分割されたため、1月以降を100倍して調整



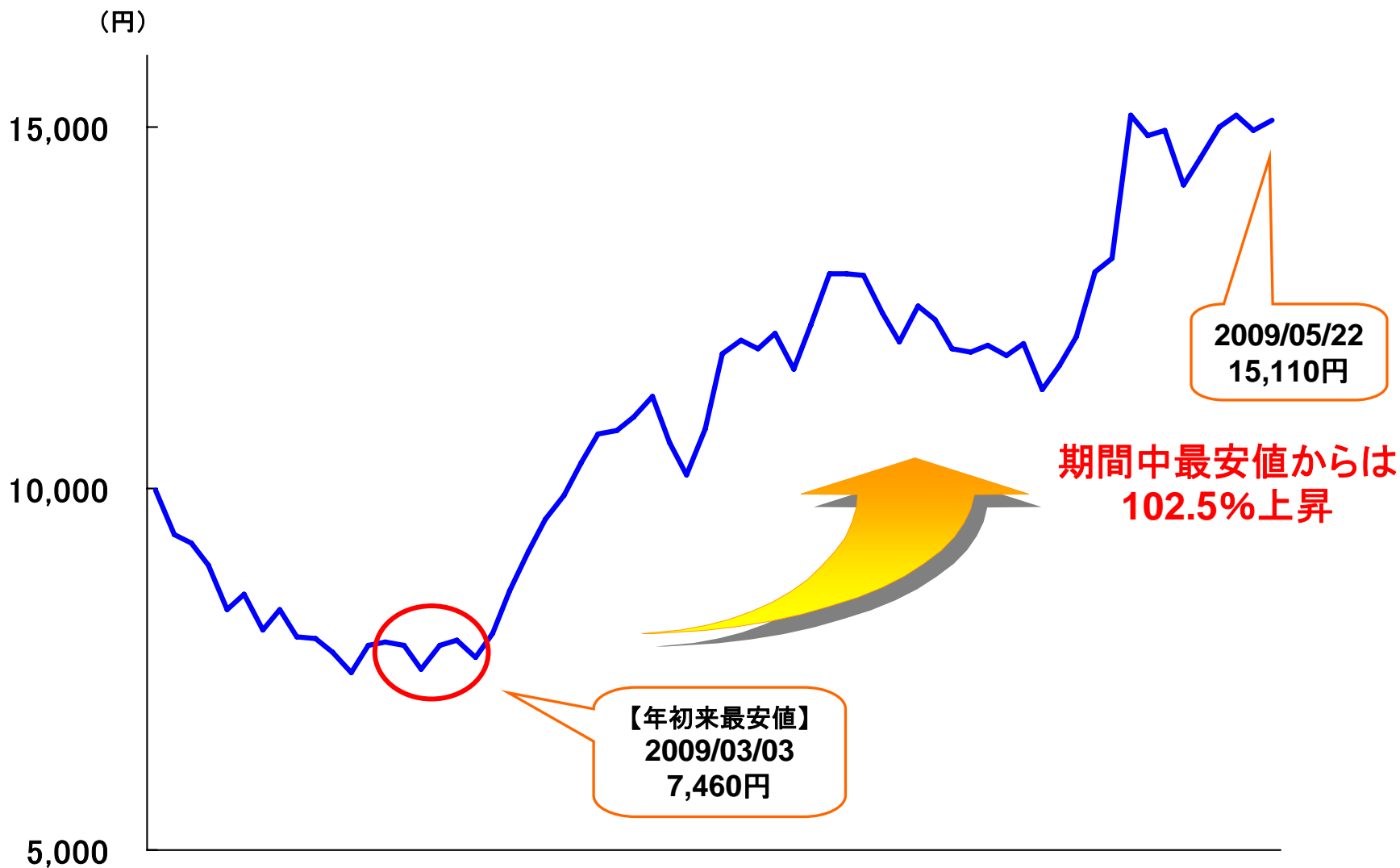
# リーマンショック以降の SBIホールディングス、ソニーFG、オリックスとの株価の推移比較

(2008年9月16日 ~ 2009年5月22日)

2008年9月16日と比較した  
2009年5月22日時点の  
騰落率



# 過去3ヶ月のSBIホールディングスの株価推移 (2009年2月16日 ~ 2009年5月22日)

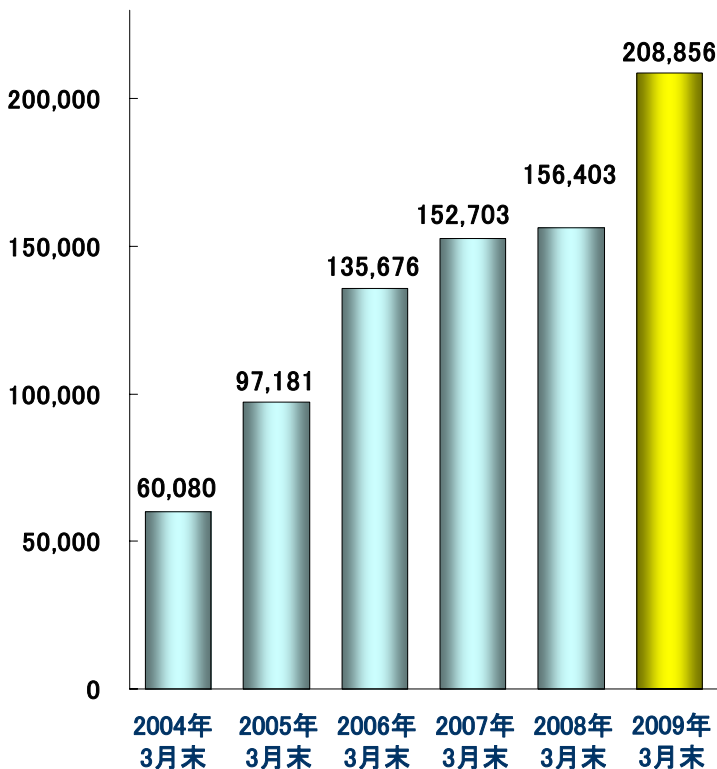


# SBIホールディングス 株主構成の推移

2008年3月末に比べ外国人投資家の保有比率が急上昇

## 株主数の推移

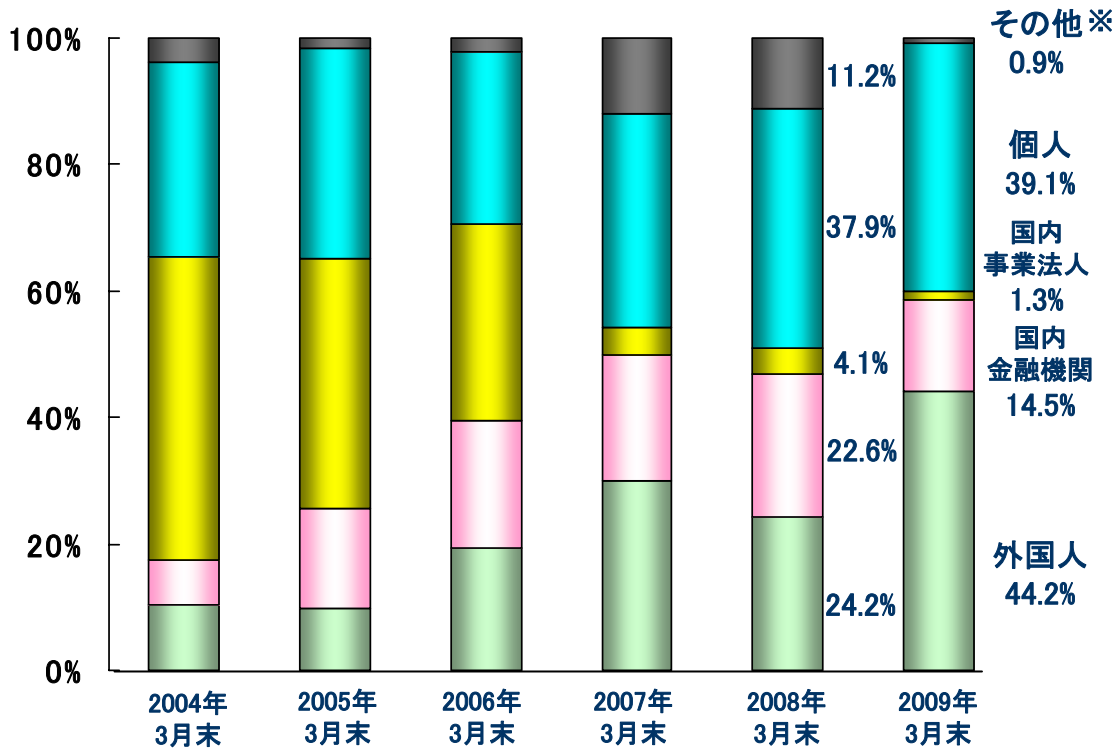
(単位:名)



(端株主を含む)

## 株主構成比率の推移

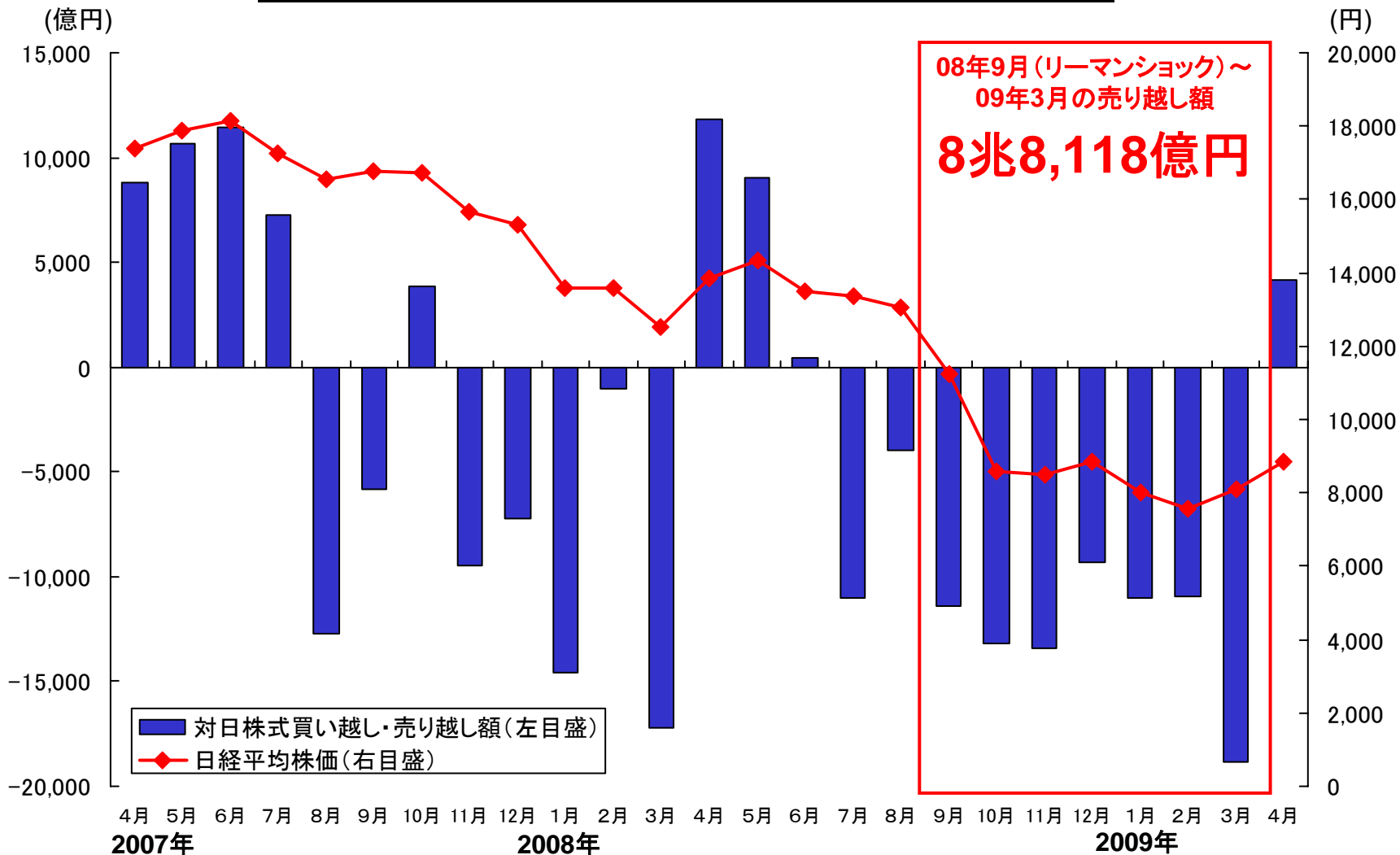
外国人 国内金融機関 国内事業法人 個人 その他



※その他には「自己株式」0.2%を含む

# リーマン・ショック以降、全体としては大幅に 売り越した外国人投資家

## 外国人の対日株式買い越し・売り越し額の推移



# 急上昇する当社の外国人株式保有比率

外国人による株式保有比率の上昇ランキング(08年3月末から9月末の上昇幅)

順位	社名	半年間での上昇幅 (ポイント)	08年9月末の 外国人比率(%)
1	SBIホールディングス	18.4	42.5
2	日本トイザラス	14.7	(*7月) 63.1
3	ホクト	12.2	24.2
4	日本電工	11.0	(*6月) 22.3
5	GSユアサ	10.8	14.6
6	フェローテック	10.3	27.4
7	あおぞら銀行	10.1	68.9
8	ザッパラス	9.7	(*4月) 27.3
9	ワークスAP	9.3	29.0
10	阪和興業	8.2	27.0

当社外国人  
保有比率  
推移

08年3月末  
24.2%



08年9月末  
42.5%



09年3月末  
44.2%

※2009年2月1日 日経ヴェリタス記事より抜粋

(日経会社情報新春号から作成、1月26日時点で株式時価総額が100億円以上の会社が対象。  
保有比率は3月期、9月期決算会社は9月末、その他は保有比率のカッコ内に記載した。社名は一部略称。)

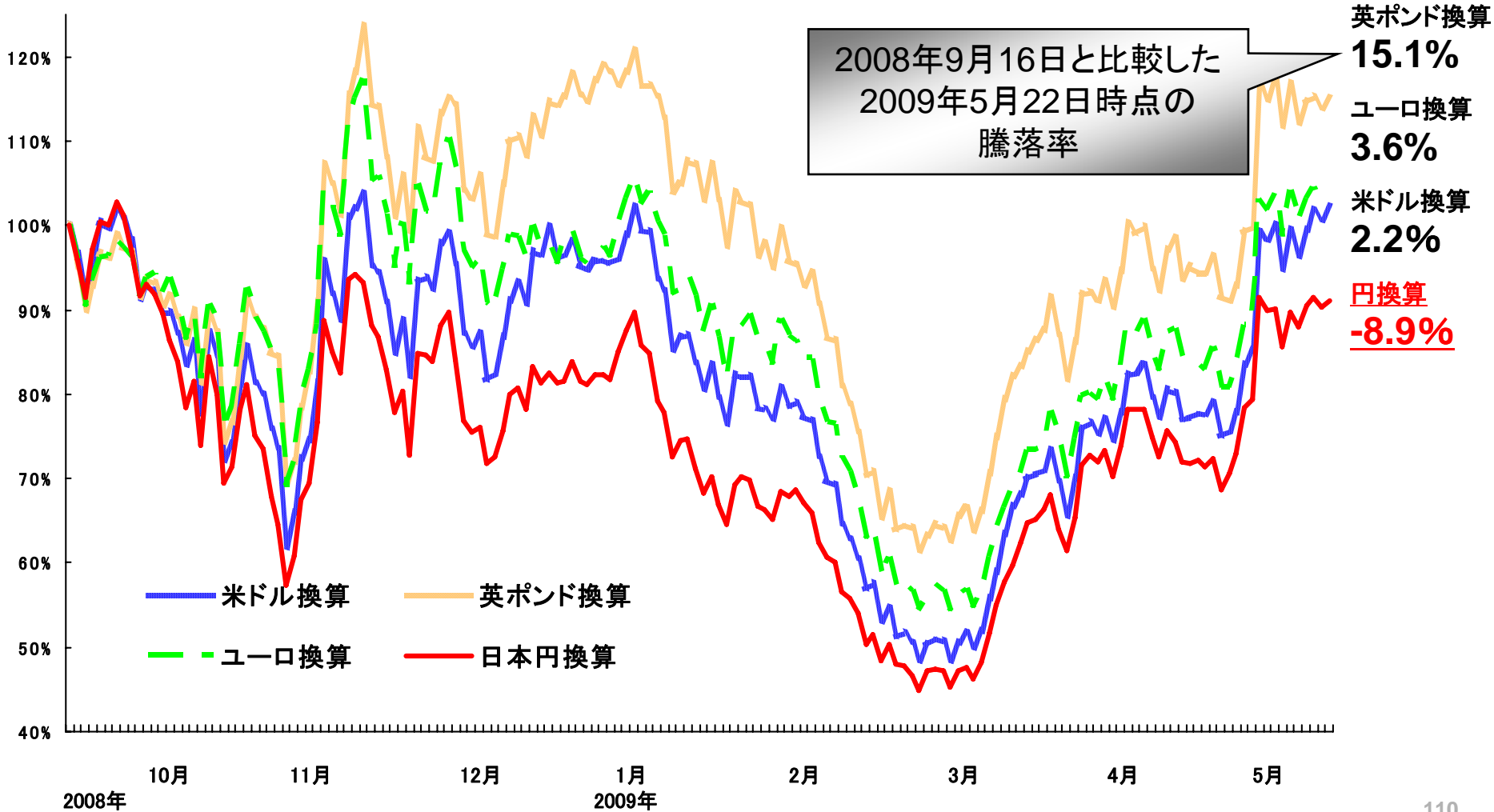
# 直近に提出された外国人投資家による SBIホールディングス株式の大量保有報告書の状況

提出者 (共同保有者名)		報告義務 発生日	保有株式数 (総数)	発行済株式総数 に対する保有株 式数の割合(%)
<b>米国 キャピタル グループ</b>	キャピタル・ガーディアン・トラスト・カンパニー キャピタル・インターナショナル・リミテッド キャピタル・インターナショナル・インク キャピタル・インターナショナル・エス・エイ キャピタル・インターナショナル株式会社	2008/8/29	1,201,929	<u>7.17</u>
		(ロサンゼルスに本拠を構える1931年設立の世界最大級の 独立系投信・投資顧問会社で、米国内外の年金資金を中心 に運用。グローバルネットワークを活用し、徹底した個別調査 により長期投資を行う模様。)		
<b>英国 オービス グループ</b>	オービス・インベストメント・マネジメント・ (ビー・ヴィー・アイ)・リミテッド オービス・インベストメント・マネジメント・ リミテッド	2008/11/19	2,031,092	12.12
		2008/12/12	2,215,558	13.22
		2009/1/15	2,407,482	14.36
		2009/2/24	2,595,300	15.48
		2009/3/24	2,795,858	16.68
		2009/4/24	2,980,533	<u>17.77</u>
		2009/5/19	3,149,555	<u>18.78</u>
(バミューダを拠点とする投資顧問会社で、傘下にロンドン を調査拠点とする独立系投信運用機関を有する。マクロ経済 分析により市場トレンドとそれに対応したセクターや銘柄を判 断。各ファンドの保有銘柄数を50以下に絞り、長期投資を基 本として保有の模様。)				

(注) 保有株式数及び発行済み株式総数に対する保有株式数の割合は報告義務発生日時点のものです。

# リーマンショック以降の SBIホールディングス株価の主要通貨換算での比較

(2008年9月16日 ~ 2009年5月22日)



⑨ 配当についてはどう考えていますか？



# SBIグループ上場各社の配当実績

(1株につき)

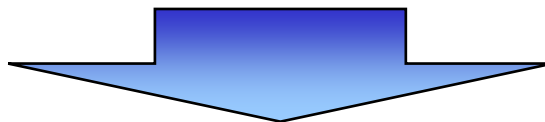
	2009年3月期 実績(予定)			2008年3月期 実績
	中間	期末	年間	年間
SBIホールディングス	-	100	100	1,200
モーニングスター	-	550	550	550
SBIベリトランス	-	600	600	500

※配当を実施している企業のみ記載

# SBIホールディングス 配当政策の変更

(2009年3月期まで)

当社は、株主の皆様に対する安定的かつ適正な利益還元を目指すとともに、内部留保による競争力・収益力の向上に向けた事業投資を積極的に行うため、グループ企業を含めた連結業績、及び当社株価の状況等を総合的に勘案した上で剰余金の配当等を実施することを基本方針としております。



(今後)

連結当期純利益の20～50%を配当性向の目処とすることを基本方針といたします。配当性向20%以上の配当実施を原則とし、持続的な成長のための適正な内部留保の水準、当面の業績見通し等も総合的に勘案し、更なる利益還元が可能と判断した場合には、50%を上限として配当性向を都度引き上げることを目指します。また、原則として中間配当は行わず、期末配当に一本化いたします。

# 株主優待の実施について

～SBIポイントユニオン発行のポイント「ありがトン」を贈呈(※1)～

獲得ポイントはポイントサイト「EGサテライト」上で、現金や様々な商品、提携する各ポイントへの交換が可能！

 **Point Union** 株主優待専用ページにアクセス後、ログイン (※2)



【商品例】 全国約4000店の加盟店で利用可能な割引クーポンカード(1000ポイント～)、お米・特産品等(3000ポイント～)、クッキング用品(3000ポイント～)・・・等々

平成21年3月31日時点での所有株式数	1株以上 10株未満	10株以上 30株未満	30株以上 50株未満	50株以上 100株未満	100株以上 300株未満	300株以上
贈呈ポイント数	500	1,000	3,000	5,000	10,000	30,000
現金交換の場合	400円 (※3)	800円	2,400円	4,000円	8,000円	24,000円

★住信SBIネット銀行以外の金融機関の口座をご指定の場合、上記金額より手数料160円分を差し引いた金額をお振込します。

住信SBIネット銀行

指定すると

(例) 5株保有の場合: 配当(予定) 500円 + 優待400円 = 900円獲得  
20株保有の場合: 配当(予定) 2,000円 + 優待800円 = 2,800円獲得

 SBI Sumishin Net Bank

★手数料0円

(※1) 2009年6月中にご利用方法のご案内と合わせて郵送いたします。

(※2) 会員登録が必要になります。(※3) 500ポイントの現金交換は住信SBIネット銀行口座を指定の場合のみ可能です。

*<http://www.sbigroup.co.jp>*